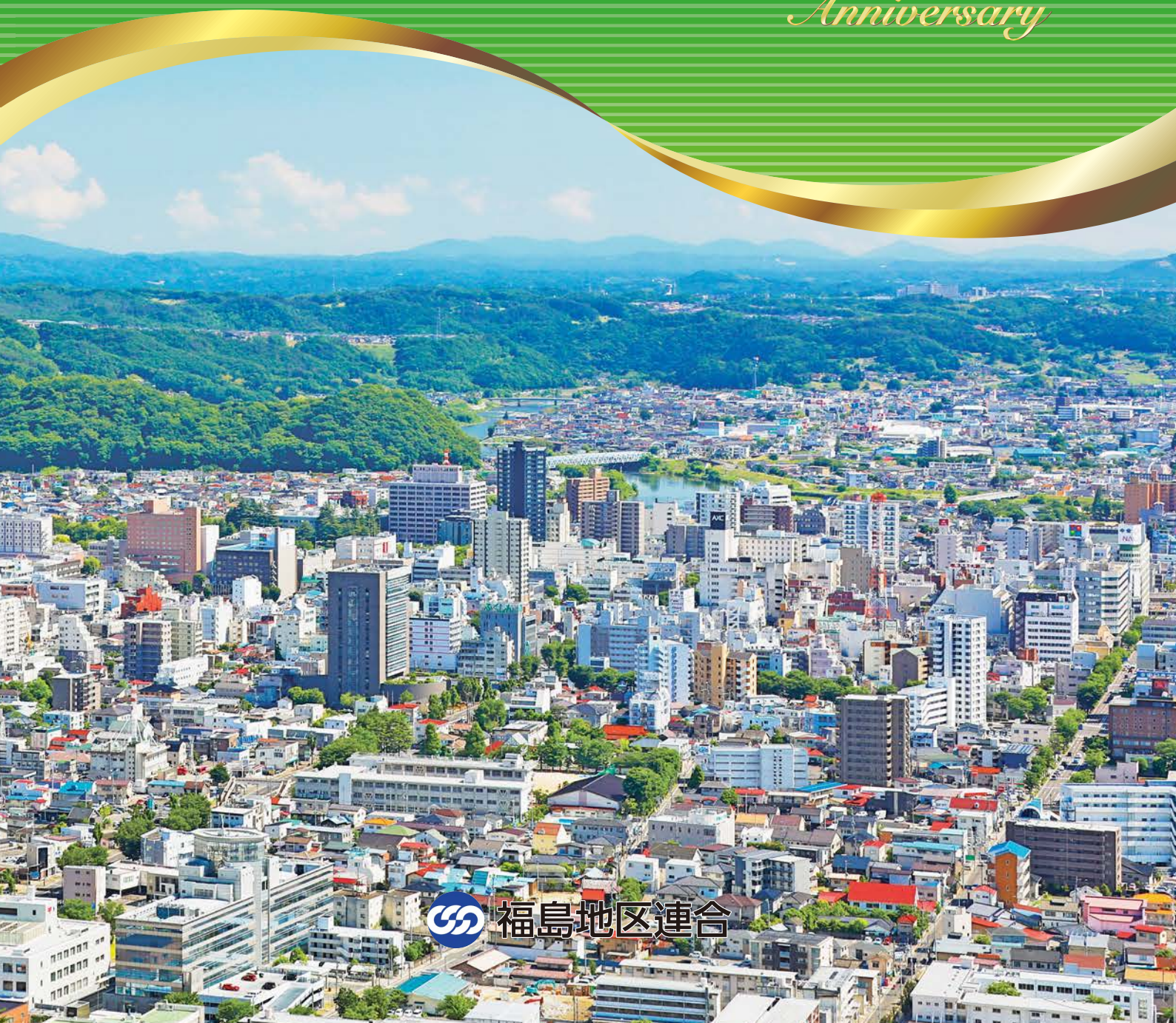




福島地区連合 30年の記録

30th
Anniversary



福島地区連合

福島地区連合 30年の記録

30th
Anniversary

❖ ごあいさつ 2

福島地区連合会 議長 成田 威文

❖ ご 祝 辞 3

連合福島 会長 今野 泰 様
福島市 市長 木幡 浩 様
衆議院 議員 金子 恵美 様
福島県議会議員 紺野 長人 様
福島県議会議員 高橋 秀樹 様
福島県議会議員 大場 秀樹 様
福島市議会議員 高木 克尚 様
福島市議会議員 粕谷 悦功 様
福島市議会議員 羽田 房男 様
福島市議会議員 梅津 政則 様
福島市議会議員 山岸 清 様
福島市議会議員 石原 洋三郎 様
福島市議会議員 梅津 一匡 様
福島市議会議員 澤井 和宏 様
福島市議会議員 佐原 真紀 様

❖ 歴代議長寄稿 9

県北地域連合 初代議長
伊藤 鉄次 様
県北地域連合・福島地区連合 第2代議長
小山 勝也 様
福島地区連合 第4代議長
服部 喜博 様
福島地区連合 第5代議長
須藤 政浩 様

福島地区連合 第6代議長
紺野 孝幸 様

福島地区連合 第7代議長
伊藤 秀治 様

❖ 歴代事務局長寄稿 12

県北地域連合・福島地区連合 初代事務局長
栗野 啓二 様

県北地域連合・福島地区連合 第2代事務局長
菅野 敏夫 様

福島地区連合 第3代事務局長
林 彪 様

❖ 【年表】福島地区連合30年の歴史 14

❖ 歴代議長・歴代役員 60

❖ 福島地区連合歴代役員 61

❖ 県北地域連合歴代役員 69

❖ 歴代事務局長 71

❖ 「連合」・「連合福島」誕生までの歩み 72

❖ 東日本大震災と福島地区連合の 取り組みについて 73

❖ 連合福島の組織体制 84

❖ 台風豪雨災害と福島地区連合の 取り組みについて 85

❖ 資 料 95



福島地区連合会 結成30周年を迎えて

連合福島 福島地区連合会 議長

成田 威文

福島地区連合会は、今年で結成30周年を迎えました。これもひとえに、結成からご支援頂いた連合福島や各構成組織、また先人達の弛まぬ労働運動が支えとなり、今日に至るものと感謝を申し上げます。

1992年3月「ゆとり・豊かさ・社会的公正」の実現を目指し、官民統一のもと「顔合わせ・心合わせ・力合わせ」を合言葉に30年間に渡り諸活動を展開して参りました。

この30年を振り返りますと、バブル経済のピークとその崩壊を経験し、アジア通貨危機、リーマンショックの影響に見舞われたほか、世界に先駆けて少子高齢化が進展、人口減少社会に突入しました。ビジネス環境面では、新興国が台頭し、グローバル競争が激化、デジタル革命の進展とあいまって、産業構造やビジネスの競争軸が一変し、人々の生活様式や価値観も大きく変化しました。

また、阪神・淡路大震災、そして東日本大震災の未曾有の災害は、現在でも大きな爪痕を残し、復興復旧は未だ道半ばであります。

令和の時代となった今も尚、多くの地域で大雨、台風による自然災害は猛威を振り続け、更には今年に入ってから新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的拡大に、人類は脅威にさらされています。

くしくも今年2020年は、東京オリンピック開催の年でありましたが、これとあいまって、福島市出身で昭和を代表する作曲家古関裕而をモデルとしたNHK朝のドラマ小説「エール」の放送と共に福島市は盛り上がりを迎えるはずでしたが、コロナ禍によりオリンピックの延期を余儀なくされたのは大変残念な出来事でありました。

この10年、福島地区連合会は、組織的には各加盟組織の統合、分裂、廃止等はあったものの、著しい組織率の低下は無く、約16,000名の組合員数は維持しています。運動面では、行政に対し「政策制度要求と提言の取り組み」を継続し、政治活動はもとより、福島市長や推薦・支持議員との懇談会を積極的に展開して参りました。またメーデーを始めとする大衆行動、県北地域青年・女性委員会の活動強化や県北地域退職者連合の関係強化、各種勉強会や災害ボランティア、福祉団体への寄付・寄贈など社会貢献活動にも積極的に取り組んで参りました。これらの活動は、今後も福島地区連合会の存在価値を高めるため、発展させ継続して行く所存であります。

今我々は、労働運動の未来を左右する大きな変化に直面しています。だからこそ働く者が連帯し、暮らしを守り、社会の不条理に立ち向かう労働運動の再構築が必要です。

結成30年を一区切りに、これまで積み上げてきた運動と政策、そして先人達の精神を継承しつつ、多様なステークホルダーとの対話と協働を進め、地域に根差した運動を創りあげるため、連合ビジョン「働くことを軸とする安心社会ーまもる・つなぐ・創り出すー」の実現に向けて取り組んで参ります。

結びに、結成30周年記念を契機に、福島地区連合会が更なる飛躍を遂げるよう全身全霊を注ぐ決意でありますので、引き続きのご支援ご協力をお願い申し上げ、ご挨拶と致します。



ご祝辞

連合福島 会長

今野 泰 様

結成30年を迎えた福島地区連合会に、心からお喜びを申し上げます。この間、バブル崩壊やリーマンショックは雇用形態・環境を急激に悪化させ、また、甚大な被害と犠牲をもたらした東日本大震災は未だ復興の途上にあります。

このような中で、連合福島を支え、お力添えをいただいた役員・組合員の皆様に重ねて御礼を申し上げ、敬意を表します。

さて、少子高齢・人口減少の構造変化の進展と合わせて格差拡大が深刻化する中、働く者・生活者は日常や将来に不安を抱え、不満を募らせています。官製相場による経済回復、非正規職員による雇用改善では、賃金は伸び悩み、内需拡大は期待できません。

そして、今年は新型コロナウイルス感染拡大が社会の脆弱性を露呈させ、雇用や暮らしを一変させています。

連合・連合福島は、「持続可能で包摂的な社会実現」にむけ、とりわけ「ウィズ／アフターコロナ」を社会構造改革の契機と理解し、これまでの運動の検証とともに私たち自身の意識改革、そして行動によるバージョンアップを着実に行います。

折しも、聖火リレーが予定された今年。私たちが着実に歩を進め、運動の灯火を次世代に手渡そうではありませんか。

結びに、福島地区連合のさらなる発展と皆様の益々のご活躍ご健勝をご祈念し、お祝いと連帯のメッセージといたします。



ご祝辞

福島市 市長

木幡 浩 様

連合福島 福島地区連合結成30周年、誠におめでとうございます。

この30年は、バブル崩壊、リーマンショック、東日本大震災をはじめとする相次ぐ災害、そして新型コロナウイルスと、まさに激動の30年でした。こうした中、成田威文議長をはじめ、歴代議長を中心とした福島地区連合の皆様は、常に労働者の先頭に立って困難に向かわれ、雇用と生活を守るためにご尽力されるとともに、福島の復興や地域振興などにも一方ならぬご尽力を賜っておりますことに対し、心から感謝申し上げ、敬意を表する次第であります。

東日本大震災・原発事故から10年目となる今年は、東京2020の福島開催や朝ドラ「エール」の放送で、「福島」と「復興」に大きな注目と人々が集まり、大いに飛躍する年になるとの期待が高まっておりましたが、コロナ禍で状況が一変してしまいました。

新型コロナは、私たちの健康と生命を脅かすばかりか、感染防止のため経済活動が急激に収縮し、生活の基盤である雇用や所得にも重大な影響を与えています。福島市では、数次にわたる緊急対策を講じ、コロナ禍に対処していますが、新型コロナとの闘いは長期にわたることを覚悟しなければなりません。

気を緩めることなく感染拡大の防止に取り組むとともに、段階的に社会経済活動を拡大し、その両立を図って、生命・健康と雇用を守ってまいりたいと思います。また、ICTなど新しい生活様式の積極的な導入を推進して、コロナ後の発展の基盤を形成し、合わせて地方でのゆとりある働き方の拡大を進めてまいります。

今後とも、福島地区連合の皆様の変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、福島地区連合の益々のご発展と、組合員の皆様のご活躍を心よりご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



ご祝辞

衆議院議員

金子 恵美 様

連合福島福島地区連合会が結成30周年をお迎えになられましたことを心よりお祝い申し上げます。

結成以来、福島地区連合の皆様は働く仲間を支え続け、働くことを軸とする安心社会の構築のために、ご尽力されてこられました。さらには、政策提言と政治改革を進めるための活動を展開され、私自身も多くを学ぶ機会を頂戴してまいりました。心から敬意を表しますと共に感謝申し上げます。現在、コロナ禍の中にあり、様々な労働問題も発生していますが、解決に向けて取り組みを進め、働く仲間の皆様の雇用を守るため全力で働くことをお誓いいたします。引き続きのご指導をお願い申し上げます。

福島地区連合のさらなるご発展と皆様のご活躍をお祈り申し上げ祝辞といたします。



ご祝辞

福島県議会議員

紺野 長人 様

福島地区連合が結成30周年を迎えたことに、心からのお喜びを申し上げます。また、構成組織組合員の待遇改善にとどまらず、公正で公平な地域社会を目ざして活動されてきたことに敬意を表します。

さて、コロナ危機の中でテレワークの推進など、労働者の働き方にも大きな変革が求められています。職場の概念が弱められ、「職場改善」という労働組合の役割が見えにくくなるのではと危惧しています。

また、「職場に集う」ことの必要性がなくなることで、派遣や業務委託といった不安定雇用の拡大により労基法や社会保険から除外される「無権利・無保障」の労働者が増えていくことにもなりかねません。

そういう中で、地区連合の役割は益々大きくなっています。

すべての労働者が、人間らしく安心して働き続けられる地域社会を目ざして共に頑張りましょう。



ご祝辞

福島県議会議員

高橋 秀樹 様

福島地区連合結成30周年を心からお祝申しあげます。

働く人達とともに、地域の労働運動の中心として、また、生活向上への政策提言をはじめとする各種施策の展開に、日々ご尽力されておりますことに深く敬意を表します。

私自身も議員前には、役員の一人として大変お世話になりました。当時、多くの方々よりご教授いただきましたことは、現在も糧となっております。

現在、東日本大震災・原発事故からの復興・創生へと、さらに令和元年東日本台風等からの復旧・復興、また、新型コロナウイルス感染症対策と、市民、県民生活への安全・安心に向けた取組の真っ最中ですが、今後とも福島地区連合の皆さんとともに、歩んでまいりたいと思っております。

福島地区連合の更なる発展と、地区連合に集う組合員の皆様のご多幸を心よりご祈念いたしております。



ご祝辞

福島県議会議員

大場 秀樹 様

連合福島福島地区連合会結成30周年、心からお祝い申し上げます。

これまで長年にわたり雇用を守り、労働環境の改善に多大なる貢献をされてこられましたことに心から敬意を表します。先の見えないコロナ禍にあって更にその役割は重く、大きくなることと思います。

さて、これまで私はUAゼンセンをはじめ電機連合やJAM、そして多くの組合員の皆さまと論じ合い、また多くのご指導をいただきました。今後も県政におきまして生活者・勤労者の視点に立った政治を押し進めてまいります。また近い将来、皆様とともに再び国政において「私たちの政権」を作るために福島の地で共に戦いたいと思います。

結びに福島地区連合会の益々のご発展と、加盟の各労働組合のご隆盛、そして組合員の皆様のご多幸を心からお祈り申し上げます。

福島地区連合会30周年、万歳！！



ご祝辞

福島市議会議員

高木 克尚 様

連合福島福島地区連合会の結成30周年を心からお慶び申し上げます。また、労働戦線統一を経て、労働者の雇用と生活を守るために、これまで福島地区連合が担ってきた様々な運動と歴代役員の方々に、敬意と感謝を申し上げます。

私自身にとって、1997年から6年間地区連合幹事会の一員として、多くの仲間の皆様とともに運動できたことが大きな財産であり、その経験が今日の議員活動の基本となっております。

春季生活闘争・メーデーへの結集をはじめとする産別組合の団結、労働相談などの非加盟労働者への応援、労働界を代表して行政審議会への参画など、連合運動は大きな足跡を築いてきました。さらに、災害時における救援対応の取り組みは、被災地へ勇気と感動を届けてきました。

賃金・政治・雇用等々、社会のあらゆる仕組みに果敢に挑戦する連合運動の精神が、今後とも継続されますようお願い申し上げます。



ご祝辞

福島市議会議員

粕谷 悦功 様

福島地区連合会結成30年誠におめでとうございます。30年を振り返りますと決して順風満帆な時代ばかりではなかったものと思われます。激変する政治経済、未曾有の困難と言われる東日本大震災と原子力発電所爆発事故、異常気象による大規模風水害の発生等、想像を超える幾多の困難と課題が山積する中、傘下組織組合員の為の労働運動を積極的に展開し、生活向上、労働環境改善、福祉政策の充実強化などの取組を進め信頼を築き上げて参りました。この間のご努力に心から敬意を表する次第であります。

また、行政との関わりでは、労働界代表の各種委員や審議会委員として重責を担い、市政進展と政策立案の一助として、市民生活向上や福祉の充実強化に取り組んで来られました。労働運動の歴史や行政との関わりは、地区連合の貴重な経験・財産であります。結びに、30年の節目を機に、福島地区連合会が労働運動の新しい歴史を築き飛躍発展することをご祈念申し上げお祝いの言葉と致します。



ご祝辞

福島市議会議員

羽田 房男 様

連合福島福島地区連合会が結成30周年を迎えられますこと心からお慶び申し上げます。

結成以来、日本経済は、バブル経済の崩壊やリーマンショック、また、未曾有の東日本大震災並びに東京電力福島第一原子力発電所の水素爆発事故による複合災害など、これまで経験したことがない多くの経済的、人的・自然災害によつて、市民生活の安全・安心が大きく脅かされてきました。

このような情勢下においても結成以来、常に労働者の先頭に立ち、雇用と生活、権利を守り、また、地域に根ざし、地域住民に信頼される具体的な運動を実践されてこられた皆様方に深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

今後も働く者を取り巻く諸情勢は厳しさを増しますが、結成30年の節目を契機に、地区連合運動の重要な使命の貫徹に向け、限りなく前進を遂げられますことを衷心よりご祈念申し上げお祝いの言葉いたします。



ご祝辞

福島市議会議員

梅津 政則 様

連合福島福島地区連合が結成30周年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げますとともに今日を迎えるまでの諸先輩の皆様と構成組織の皆様のたゆまないご尽力に敬意と感謝を表する次第です。

この30年を振り返りますと、バブル崩壊、就職氷河期、リーマンショック等の厳しい経済情勢、そして東日本大震災をはじめ、昨今の自然災害の増加や新型コロナウイルスによる感染症という新しい脅威など、未曾有の出来事にみまわれる中、常に労働者の先頭に立ち、雇用と生活を守り、災害支援、ボランティア活動等に対し、改めて敬意と感謝を表します。

昨今は生活様式の見直し、経済の停滞、雇用危機といった働く者、弱い立場の方々への負担が増し将来への不安が広がる状況を生み出しております。

私も働く者の仲間として、働く者が報われる社会、安心して暮し働き明るい将来が見える社会を目指し家庭の台所目線で課題解決に汗を流してまいります。



福島地区連合に学ぶ

福島市議会議員

山岸 清 様

福島地区連合結成30周年、誠にありがとうございます。私の一期目当選時に結成され私も間もなく議員在職30年になろうとしております。地区連合種々の行事に参加させていただき、大変ありがたく思っています。結成時の中央の山岸章会長と同姓ということで誇りに思ったものです。地区連合においては「連合フォーラム」に加入させていただき県への提言する際の種々の討議又会議において勉強させていただき私の政治的社会的な眼を大きく開いて下さいました。私は県職員で採用されましたが配属先が警察本部で政治活動は制限される身分であったため割と静かな人生を送って居りました。退職後不動産会社の経営者を経て議員となり、メーデー等の集会又デモ行進が新鮮で行進後はすがすがしい気分になり、いつも喜々として参加しており、労働者の意見表明の大切さを感じたものです。今後共地区連合の指導の基行動してまいります。



ご祝辞

福島市議会議員

石原 洋三郎 様

連合福島福島地区連合が結成されてから30周年を迎えられましたことに、心よりお祝い申し上げます。また、平素は格別のご高配を賜り、有り難く厚く御礼申し上げます。

現在、世界・国内情勢は、ますます混迷の度を深めております。人が人らしく働くことで安心して暮らせる社会の実現が求められますが、ヒト・モノ・カネの国境を越えた急速なグローバル化の進展によって、私達の生活は、個人の努力だけではどうしようもなく、外部環境に大きく左右される事態となっております。

このような時だからこそ、地域の人々が「顔合わせ」「心合わせ」「力合わせ」、共に、ゆとり・豊かさ・社会公正を実現していくことが重要と実感致します。地域に根ざした顔の見える労働福祉の充実はもちろん、震災や台風災害・コロナショックからの復興・再生など多方面において、今後とも力強いリーダーシップを発揮されますよう、お願い申し上げます。祝辞と致します。



ご祝辞

福島市議会議員

梅津 一匡 様

連合福島福島地区連合会のご結成30周年を、心よりお慶び申し上げます。また、雇用と生活を守るための闘いに取り組まれてきた多くの諸先輩方に、厚く敬意と感謝を申し上げます。

バブル経済終焉後の就職氷河期世代の私としては、働くという事・日々の暮らしを守るという事に対し強い思いを持っています。そして現在は、まだなお続く新型コロナウイルス感染症の脅威に私たちはさらされており、新社会人の就職・就労に向けての課題や働く皆様の雇用の継続の課題など、連合・労働組合の果たす役割が重要かつ不可欠な状況にあります。

今後も皆様との連携を図り、安心して働くため医療と福祉の充実を強く求めるとともに、働く者の汗と努力が報われる社会づくり、安全・安心なまちづくりをめざし全力を挙げてまいります。

結びに、連合福島福島地区連合会のますますの発展をご祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



ご祝辞

福島市議会議員

澤井 和宏 様

連合福島・福島地区連合結成30周年をお迎えのこと、誠におめでとうございます。

これまで地区労働運動の中核となり、運動を牽引されてきたことに、敬意と感謝を申し上げます。

少子高齢化時代をむかえ、子育て環境の充実が今後の大きな課題の一つとなっております。子どもの健やかな育ちのためには、親世代の働く環境の充実が不可欠です。安心して子育てができるよう、労働時間や賃金においても、ゆとりある働き方が求められます。そして、次の世代を担う子どもが大切にされる世の中は、お年寄りにも、働く者にも優しい世の中であるはずです。

今後とも、皆様とともに、安心して子育てのできる労働環境の充実、働き続けられる労働条件の改善等に、努力して参ります。

結びに、連合福島・福島地区連合のますますの発展をご祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。誠におめでとうございます。



ご祝辞

福島市議会議員

佐原 真紀 様

連合福島福島地区連合が結成されまして30周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げますとともに、長きにわたり、活動の歴史を支えてこられた多くの先輩方のご尽力に、心より敬意を表します。

私は、2019年の夏に福島市議会議員に初当選をさせていただき、ふくしま市民21の一員として会派を共にすることで、みなさまとのご縁を結ばせて頂きました。

連合の基本目標にあります【労働運動をはじめあらゆる分野に女性の積極的な参加を進め、男女平等の社会の実現をはかる】ことをさらに改善し、男性も女性も共に輝ける、より良い労働環境を後世に継承していくことが、私たちの役目です。まだ一期目ではございますが、皆さまと手を取り合い、まちづくりを進めていくことを楽しみにしております。

どうか引き続きのご指導ご鞭撻を、宜しくお願い申し上げます。



寄稿

県北地域連合 初代議長

伊藤 鉄次 様

結成30周年、おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

思えば、福島地区連合が結成されたのは、1992年3月のことでした。その3年前、県北地域連合が結成され、何故か私が初代議長を務めることになりました。

議論好きな公労協と遊び上手な民間労組の集合体であり、不安と心配があったことは事実でありました。

当時事務所はありましたが、事務局長は非専従、女性の事務員がいるのみでした。先ず事務局体制の充実、強化のため、事務局長の専従体制を確立しました。また、構成組織へ赴きオルグ活動の実施、各種会議の充実に努力したことなどが思い出されます。

連合結成の目的である「顔合わせ」、「心合わせ」、そして「力合わせ」のための基盤づくりに、県連合をはじめ構成組織の役員の皆さんに、多くのご指導とご協力を頂きました。感謝あるのみです。

連合は結成30周年に当たり、「守る」、「作り出す」、「継ぐ」をモットーに掲げました。

福島地区連合も、「力合わせ」から、新しいモットーに向け、頑張ることを期待し、挨拶とします。



寄稿

県北地域連合・福島地区連合 第2代議長

小山 勝也 様

福島地区連合結成30周年(30回大会)おめでとうございます。

偶然2代議長に

連合福島 県北地域連合 第2代議長 1995年11月～1997年11月

福島地区連合 第2代議長 1997年11月～1998年10月

連合福島 県北地域連合(議長代理)として参加

連合福島 「海外交流団派遣」 団長 高橋雄次・連合福島会長外4名

中国湖北省総工会訪問1995年9月13日～19日 企業外の視察研修参加

この間、土産物「紙パックの日本酒」持歩き交流の場で飲んだが最悪の味？

湖北省来日訪問団の受け入れ(5名)

1996年10月23日～29日 同湖北省から5名を受け入れ県庁はじめ各地の案内

なぜか、湖北省「武漢市」=「新型コロナ」=「今回の寄稿」、、、、特に関係ないか

今になって振り返りますと電機福島や連合福島の一組織・一人として、よくもあの多忙の中で走り回ったものと思っております。地域・地区連合時は会議の出席率が大変良く、また懇親会や交流の場が数多くあり、今で言うなら「絆」の一言ではないかと、心から感謝しております。

1996年10月5日地下鉄サリン事件(絶対忘れられない)

異常な東京都内、、、電機連合本部へ出張中でした、もしあの日地下鉄で本部に向かっていたら今は(天国)でしょう。バスで行き今も生きています。

組織(単組)内外、海外研修など、その時々でしか経験できないこと、今になって振り返りますと関係者・組織の皆様に紙面ではありますが、心から感謝と御礼を申し上げます。

ある日のこと私が第二の職場仲間との、一時にある夏の夕方でした。市内の焼鳥屋さんでのこと、職場の仲間いや先輩の皆さんと一杯やろうとして静まり返った途端遠くの方から「いやー委員長しばらく元気か」と歯切れのいい大きな声で、誰に向けてか分からなかった。

その声の傍に二人いた。振り返ると元市長「吉田修一」氏でした。私の周りにいた皆さんが小山は元市長とどういう関係なの？恥ずかしいやら委員長という言葉に周りはビックリ。さすが市長の記憶力・何時でもどこでも声をかけるその気持ち、、、素晴らしい人柄

私たちの宴会もその雰囲気楽しくスタートできた一時でした。

過ぎ去った思い出の話ですが、現役の皆さんは今が最大の「とき」ではないでしょうか。

大変な「とき」です。しかし、この「とき」こそみなさんの力です。



寄稿

福島地区連合 第4代議長

服部 喜博 様

結成30周年、誠におめでとうございます。

私が福島地区連合で活動させていただいた6年間の中で、今でも強い思い出となっているのが、2002年のメーデーです。メーデーと言えば、荒川運動公園に結集し福島駅東口まで市民へのアピールの為デモ行進を行うのが定番でした。ところがJR東北線ガードの改修によりデモ行進が出来ない事から、吾妻運動公園の陸上競技場を使用することに決まりましたが、市民へのアピールをどのようにするかが大きな課題でした。そこで役員の皆さんと議論する中で色々なアイデアを出していただき様々なイベントを企画する事で、市民の皆さんに参加していただくメーデーとしました。そしてそのPRチラシを加盟組織だけでなく、新聞の折り込み広告として市内全般に配布しました。その結果、当日には陸上競技場に五千人以上の組合員とその周辺にはそれを遥かに越える市民の方々に参加いただき、マスコミも大きく取り上げる大成功のメーデーとなりました。

そして、そこで活動いただいた三人の副議長が地方議会に転出して活躍するなど、その後の政権交代へ弾みをつける時代だったと感じています。

その後、東日本大震災の発生とそれに呼応するかのような旧民主党の迷走など、私達が望んでいた状況とはかけ離れていますが、このような時こそ、全ての勤労者が結集する事が重要だと思っています。その礎として福島地区連合の役割は大きく益々の発展を祈念します。



30年記念誌発行に当って

福島地区連合 第5代議長

須藤 政浩 様

福島地区連合会結成30年おめでとうございます。

さて、私が当時福島地区連合会議長の任に当たった頃を思い出しておりますが、昔のことで鮮明に思い出すことができません。

かなり、課題山積した時代だったように振り返っております。

国政選挙では、当時民主党政権への政権奪取への足掛かりの時代で構成組織・加盟単組へ足を運んだ思い出があります。

また、福島市長選においても、当時の連合福島事務局と膝詰めで相談したことが思い出にあります。

今、全く連合運動への参加はしていませんが、昔共に行動した仲間やお世話になった構成組織・加盟単組の皆さんの顔が思い出され懐かしさを感じております。

何かきっかけが無いと過去を思い出すこともあまり無いですが、未来永劫「福島地区連合会」の発展を祈念しております。

私にまで声掛けを頂いた、福島地区連合会幹事会の皆さん及び編集委員会の皆さんに厚く御礼を申し上げるとともに、みんなで決めあったことは守り実践し、地区労働運動の牽引役として頑張っていただくことを祈念致します。

簡単ですが発行にあたっての言葉といたします。



寄稿

福島地区連合 第6代議長

紺野 孝幸 様

福島地区連合会30回記念誌の発刊おめでとうございます。

議長在職4年間中には、地区連合役員並びに加盟組織組合員皆様のご協力のもと、労働運動や政治活動など従来からの継続的な取り組みや、新たな諸課題への活動等、地区連合として活動できました事に対し、加盟組織組合員皆様に感謝申し上げます。

また、各種地域貢献活動へも参加協力を頂き、特に福島で初めて開催された「東北六魂祭」ボランティアへ地区連合として猛暑の中、裏方に徹し2日間真っ黒に日焼けしながら協力出来た事も思い出にあります。

地区連合役員体制はその都度変化しますし、取り組む諸課題も変化します。

地区連合として働く人がより良い環境で生活出来る様に継続的な活動取り組みを御願いすると共に、福島地区連合のさらなる発展をご祈念致します。



－福島地区連合30周年記念によせて－

福島地区連合 第7代議長

伊藤 秀治 様

福島地区連合30周年誠にありがとうございます。

先人、諸先輩が灯した労働運動の灯を絶やすことなく守りさらに発展させてきた30年の歴史は非常に意義深く貴重なものであると考えています。

そんな中、2期4年と言う短い期間ではありましたが、議長を務めさせていただきました。在任中の構成組織皆さんに改めて感謝申し上げます。

議長就任以前は、一構成組織の一員として、春闘総決起集会やメーデーなどに参加地区連合の活動に参加していましたが、まさか自分が連合福島春闘総決起集会の難壇に座ることになるとは思っていませんでした。あの時期のあの場所はかなり寒く、寒さで口がうまく回らない中、集会の進行を務めたこと昨日の事のように覚えています。そのほかにも色々な出来事がありましたが、各種選挙の取り組みに於いて、多くの人を前に演壇に立つ緊張感は、独特なものがありました。貴重な経験をさせていただいた事に改めて感謝申し上げます。

現在、新型コロナの影響を受け地区連合の活動もさまざまな制約の中での活動となり大変な状況下ではありますが、引きつづきのご活躍を祈念致します。

歴代事務局長寄稿



寄稿

県北地域連合・福島地区連合 初代事務局長

栗野 啓二 様

福島地区連合は、1992年3月に連合の末端組織として結成されました。

福島地区連合結成準備会から構成組織の代表として関わった関係で初代の事務局長にご推挙されました。

既に、連合福島・県北地域連合が結成されておりましたので、活動方針・役員組閣は問題なく結成大会が終了しました。

上部組織の活動方針に従い、日常の諸活動を推進するにあたり、総評・同盟・中立の今迄の活動との整合性を各組織のご理解をいただく為の論功交渉に少々の苦労が思い出されます。

常に、「顔合わせ」「心合わせ」そして「力合わせ」を基本姿勢に対応した事が良い結果が得られたようです。

特に、幹事会の出席率向上に、「顔合わせ」「心合わせ」は毎回『懇親会』を開催し、「飲みにケーション」で効率を向上に努めました。また、組織のオルグのやりやすさにも大きな効果がありました。

現在、「力合わせ」に大きく貢献しているのではと、私なりに思っております。



地区連合会30周年に寄せて

県北地域連合・福島地区連合 第2代事務局長

菅野 敏夫 様

1992年2月28日、県北地域連合第2回大会で事務局長に選出、翌日専従に入ったことは鮮明に記憶しています。連合福島の地域専従配置方針で県北地域が未設置でした。

県都で最大の組織人数を抱える地域、空白解消には体を一日でも早く事務所に移すことでした。福島地区連合と県北地域連合との関連の記憶が交差し、正確に伝えられないところはご容赦下さい。

組織は人が作り、人を育て、そして必ず新しいものを生みだす。改めて組織の大事さを実感。新ナショナルセンターは、多くの組織と人の出会いの場であり緊張感を感じました。

準備段階からオブザーバーで関わりましたが、新組織づくりに関わった多くの皆様のご苦勞を肌で感じました。

思い出が多すぎて語り尽くせません。経験を通じ得た最高の財産は、多くの組織と多くの人々の出会いの場を与えてもらったことに感謝です。30周年を期に決意を新たに奮闘されますことを念じてやみません。



連合福島 福島地区連合会結成30周年に寄せて

福島地区連合 第3代事務局長

林 彪 様

連合福島福島地区連合会結成30周年、おめでとうございます。

私がはじめて事務局長を担うようになった時は、連合運動が労働運動と政治闘争が一元化された歴史的な年です。

連合の活動は「地域に顔が見える連合運動」を構築するために、構成組織と地域・地区連合が一体となって積極的に様々な地域活動を取り組んできました。

春季生活闘争、秋季生活闘争は、街頭集会和福島駅前までデモ行進。秋季生活闘争時には加盟組織まで激励活動を実施したこと。それ以外の各種取り組みについては、福島駅前でチラシ配布と街頭宣伝活動など、連合内部だけでなく、とにかく一般市民へ連合福島の取り組みの周知に力を入れてきました。

また、第73回メーデーから『動員型から一般市民参加型』で取り組みました。あづま運動公園に5000名の組合員と一般市民が参加しました。次の年からは、荒川運動公園で集会を実施し、福島駅前までデモ行進、駅前を歩行者天国にして様々なイベントを実施しました。

私たちが組合活動で日常的に利用されているワークライフバランスの基本は、1日24時間を「8時間は労働のために」「8時間は家庭のために」「8時間は自分のために」あること。このことがアメリカで第1回メーデー開催のスローガンになっていました。つまり「メーデーの起源」であることを再確認し、ワークライフバランスの大切さを学ぶことができました。

また、当時は民主党が結成され、民主党を基軸に、連合の政策・制度実現に向け、国政選挙、地方選挙を本格的に担ってきました。国政選挙の対策本部は必ずと言っていいほど福島市に設置されました。そのたびに、告示前から連合福島と本部選対に入り投票日が終わり選対の片づけまでやるのが当たり前でした。

この間、福島地区連合会として3名の地方議会議員を誕生することができたことです。

退任の年である10年前、東日本大震災・東京電力福島第1原発事故が発生し、福島地区連合会として独自にボランティア活動を取り組みました。

最後に、これまでの様々な取り組みに各役員並びに各構成組織の組合員の皆様が、献身的に福島地区連合会事務局を支えていただいたことに、この場をお借りしてあらためて感謝とお礼を申し上げます。

連合福島福島地区連合会のさらなる活躍を祈念いたします。

【年表】福島地区連合30年の歴史

1989年11月21日、80年代労働運動の最大の課題であり、悲願であった労働戦線の統一が実現し、日本労働組合総連合会(連合)が発足しました。

福島県内においては、「連合」が発足した翌年の3月1日、日本労働組合総連合会福島県連合会(連合福島)が発足。その下部組織として県内6地域に組織された地域連合の一つとして「県北地域連合」が1991年2月18日に結成されました。

そして、1992年3月13日、県内労働界のローカルセンター「連合福島」の地区組織として「福島地区連合」が結成されました。

福島地区連合結成大会

1992年 (平成4年) 3月13日

ホテル福島グリーンパレス

1991年2月18日には「県北連合」官民統一大会を開催することができました。

以来、連合福島の指導のもと「福島地区連合結成準備会」を結成し諸準備をすすめ、連合の末端組織として「福島地区連合」を結成しました。33準備会構成組織・22,000名の原動力となったのは、行政に対する「ゆとり宣言」要請行動、採択。最低賃金関係の街頭宣伝活動でした。



▲県北青年連絡会第4回列島グリーンキャンペーン(9月6日)



▲地域-地区連合役員研修会(11月19日)いわき

福島地区連合第2回年次大会

1993年 (平成5年) 3月12日

福島県労働福祉会館

労働者の生活と職場の実態、実感をしっかり受け止め、「賃上げ」、「労働時間の短縮」、「政策制度の改善」の三本柱で総合生活の改善に全力をあげ、特に時短では年「1,800時間」に向けた方針が出されました。

❖ 第16回参議院議員選挙結果 (1992年7月8日公示・26日投票)

当・落	氏名(政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	鈴木省吾(自民・現・80歳)		265,650
当選	佐藤静雄(自民・新・60歳)		262,817
	渋谷家寿一(連合・新・55歳)	連合型	245,309
	渡辺新二(無所属・新・39歳)		66,619
	佐藤克朗(共産党・新・37歳)		58,411

❖ 第14回福島県知事選挙結果 (1992年8月17日告示・9月6日投票)

当・落	氏名(政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	佐藤栄佐久(無所属・現・53歳)	推薦	879,475
	後藤勝彦(共産党・新・50歳)		80,044



▲第64回県中央メーデー(5月1日)



▲連合福島推薦の佐藤栄佐久氏の(2期目)圧勝



▲93春季生活闘争勝利総決起集会

福島地区連合第3回定期大会

1993年 (平成5年) 12月3日

福島県労働福祉会館

第40回総選挙の結果、38年に及ぶ自民党長期単独政権から非自民連立政権誕生という歴史的な政治状況の変化が起きました。

一方、バブル崩壊により一転して平成不況となり、個人消費の低迷、民間設備投資の減退等に加え、円高が追い撃ちをかけました。

❖ 福島市長選挙結果 (1993年10月31告示・11月7日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	吉田修一 (無所属・現・66歳)	推薦	75,272
	山崎満子 (無所属・新・55歳)		11,409



▲吉田修一福島市長選挙に圧勝

福島地区連合第4回年次大会

1994年 (平成6年) 12月8日

福島県労働福祉会館

構成組織の果たす役割と、福島地区連合の果たす役割を明確にし、各課題の前進を図るため、従来からの取り組みを進めてきた課題については更に豊富化を図り、新たな課題に対しては、一步一步前進がはかれるよう機関運営を重視し、全体で活動が進められるよう取り組むことになりました。



▲北方領土返還要求派遣団 北海道根室市(9月30日)



▲第65回福島県中央メーデー

福島地区連合第5回定期大会

1995年 (平成7年) 11月29日

福島県労働福祉会館

激動と混迷が続く厳しい情勢のなかで、私たちは広範な運動を展開してきましたが、春季生活闘争は総合生活改善をめざし賃上げ・時短・政策制度改善の3本柱で取り組みました。

一方組織拡大は私たちにとって最重要課題であり、本年、県北連合管内では「グリーンピア二本松労働組合」が誕生し、レジャー・サービス連合として連合福島加盟を果たすことができました。

❖ 福島県議会議員選挙 (1995年3月31日告示・4月9日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	加藤雅美 (社会党・新・45歳)	推薦	無投票
当選	伴場忠彦 (社会党・新・59歳)	推薦	無投票

❖ 福島市議会議員選挙 (1995年4月16日告示・4月23日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	小林義明 (新進党・現・57歳)	推薦	3,462
当選	押部米哉 (社会党・新・48歳)	推薦	3,052
当選	高橋英夫 (新進党・現・44歳)	推薦	2,853
当選	遠藤 一 (社会党・現・58歳)	推薦	2,661
当選	阿部保衛 (社会党・現・54歳)	推薦	2,649
当選	伊東忠三 (無所属・現・59歳)	推薦	2,167
当選	佐藤保彦 (社会党・現・51歳)	推薦	1,888
当選	佐藤智子 (社会党・現・51歳)	支持	3,237
当選	木村六朗 (社会党・現・54歳)	支持	3,233

❖ 第17回参議院議員通常選挙 (1995年7月6日公示・7月23日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	太田豊秋 (自民党・現・60歳)		284,238
当選	和田洋子 (新進党・新・53歳)	推薦	263,878
	会田長栄 (社会党・現・66歳)	推薦	196,502
	佐藤克郎 (共産党・新・40歳)		49,670
	谷田栄子 (諸 派・新・47歳)		18,651



▲最低賃金引き上げ街頭署名活動



▲核実験全面禁止・日米地位協定見直し集会 (11月7日)

福島地区連合第6回年次大会

1996年 (平成8年) 12月11日

福島県労働福祉会館

完全失業者が220万人台で推移し今年4月には完全失業率が3.5%と史上最悪の水準を記録しました。「福島県農林漁業団体職員労働組合連合(略称：全国農団労)」が結成され、新ふくしま農協労組が連合福島に加盟しました。

❖ 第15回福島県知事選挙結果 (1996年8月22日告示・9月8日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	佐藤栄佐久 (無所属・現・57歳)	推薦	829,343
	山崎満子 (無所属・新・58歳)		131,669



▲96春季生活闘争開始東北地域集会

❖ 第41回衆議院議員選挙結果（1996年10月8日公示・20日投票）

当・落	氏名（政党名・年齢など）	支援区分	得票数
当選	佐藤剛男（自民党・前・59歳）		102,950
	石原健太郎（無所属・元・59歳）		93,347
	佐藤巨晴（社会民主党・元・60歳）	支持	38,196
	岡崎勝男（日本共産党・新・58歳）		20,451



▲'96秋季生活闘争勝利集会

福島地区連合第7回定期大会

1997年（平成9年）11月15日

福島県労働福祉会館

時短闘争では、本年4月1日より猶予措置が撤廃されたことにともない、特別措置対象事業所を除くすべての事業所での早期定着に向けた広報を行いました。

今年度も7組合、228名の新しい仲間を迎えることができ、結成以来のトータルでは、103組合、組合員9,940名の成果を上げることができました。

県北地域連合は、同日開催されました第8回定期大会（1997年11月15日）において、連合福島第9回定期大会（1997年10月29日開催）の、地域連合の機関会議を廃止する規約改正が行われたことを受け、事実上地域連合が廃止され連絡調整機関となりました。

❖ 福島市長選挙結果（1997年11月2日告示・11月9日投票）

当・落	氏名（政党名・年齢など）	支援区分	得票数
当選	吉田修一（無所属・現・70歳）	推薦	73,958
	土田誠一（無所属・新・68歳）		12,708
	法井太閤（無所属・新・52歳）		7,633



▲県北連合青年連絡会'97ビールまつり（8月6日）

福島地区連合第8回年次大会

1998年（平成10年）10月28日

福島県労働福祉会館

長期的な不況に陥り、産業・企業のリストラの動きが加速し、完全失業率、有効求人倍率はともに戦後最悪の水準まで落ち込みました。

秋から年末にかけて「景気回復・雇用創出・公正労働基準の確立」を運動の柱として中央、地方を問わず関係諸団体に対し、全組織をあげてその実現をめざし、さまざまな活動を展開しました。

民主党福島県連合会が結成されました。



▲福島地区労福協40周年記念レセプション（9月19日）



▲民主党福島県連結成大会

❖ 第18回参議院議員選挙結果（1998年6月25日公示・7月12日投票）

当・落	氏名（政党名・年齢など）	支援区分	得票数
当選	佐藤雄平（無所属・新・50歳）	推薦	338,671
当選	岩城光英（自民党・新・48歳）		258,448
	佐藤静雄（自民党・現・66歳）		245,079
	佐藤秀樹（共産党・新・31歳）		109,843
	芳賀一太（無所属・新・51歳）		32,817
	下藤芳久（新社会・新・65歳）		20,820
	鈴木尚之（青年自由・新・51歳）		20,267
	板垣富美男（自由連・新・48歳）		12,169



▲佐藤ゆうへい参議院議員勝利（7月12日）

福島地区連合第9回定期大会

1999年（平成11年）11月11日

福島県労働福祉会館

連合福島は、結成10周年の記念すべき節目に「21世紀へ力と行動！」をスローガンに掲げました。そして来年2月の「連合福島政治センター」を設立することを定期大会で決定しました。

❖ 福島県会議員選挙（1999年4月2日告示・4月11日投票）

当・落	氏名（政党名・年齢など）	支援区分	得票数
当選	甚野源次郎（公明党・現・52歳）	支持	15,848
当選	加藤雅美（社民党・現・49歳）	推薦	12,772
当選	高橋信一（無所属・新・45歳）	推薦	12,591
落選	伴場忠彦（民主党・現・63歳）	推薦	12,268

❖ 福島市議会議員選挙（4月18日告示・4月25日投票）

当・落	氏名（政党名・年齢など）	支援区分	得票数
当選	粕谷悦功（無所属・新・49歳）	推薦	3,332
当選	小林義明（民主党・現・56歳）	推薦	3,216
当選	杉原二雄（社民党・新・55歳）	支持	2,976
当選	高橋 勇（社民党・新・52歳）	推薦	2,928
当選	木村六朗（社民党・現・58歳）	支持	2,899
当選	高橋英夫（無所属・現・48歳）	推薦	2,702
当選	遠藤 一（社民党・現・62歳）	推薦	2,518
当選	阿部保衛（民主党・現・58歳）	推薦	2,516
当選	佐藤保彦（社民党・現・55歳）	支持	2,503
当選	山岸 清（民主党・現・51歳）	推薦	2,439
当選	押部栄哉（社民党・現・52歳）	推薦	2,309
当選	伊東忠三（無所属・現・63歳）	推薦	2,135



▲第70回県中央メーデー（5月1日）



▲第70回県中央メーデー（5月1日）

福島地区連合第10回年次大会

2000年（平成12年）11月8日

ホテル福島グリーンパレス

連合福島は、本大会において現状を厳しく受け止め、『悩んでいないで、まずは相談！』をキャッチフレーズに個人で加盟できる「連合ふくしまユニオン」を、構成組織と地区連合の全面的な協力によって結成しました。

❖ 第42回衆議院議員選挙結果（6月13日公示・6月25日投票）

当・落	氏名（政党名・年齢など）	支援区分	得票数
当選	佐藤剛男（自民党・前・62歳）		89,353
	亀岡偉民（無所属・新・44歳）		68,874
	木幡弘道（民主党・前・53歳）	推薦	56,838
	石原健太郎（自由党・元・62歳）		32,166
	佐藤恒晴（社民党・元・64歳）		28,251
	新美正代（共産党・新・54歳）		19,927

❖ 第16回福島県知事選挙結果（8月17日告示・9月3日投票）

当・落	氏名（政党名・年齢など）	支援区分	得票数
当選	佐藤栄佐久（無所属・現・61歳）	推薦	781,437
	山口文彦（無所属・新・65歳）		126,185



▲第71回県中央メーデー（5月1日）

福島地区連合第11回定期大会

2001年（平成13年）11月28日

福島県労働福祉会館

「労働を中心とする福祉型社会」を目標に、雇用の創出と安定、新しいワークルールづくりに向け、取り組みを進めることと、組合員のみならず、運動の重点をパートや契約労働者など非典型雇用の労働者に置き、その雇用と労働条件の改善に向けた取り組みをはじめました。

❖ 福島市長選挙結果（2001年11月11日告示・11月18日投票）

当・落	氏名（政党名・年齢など）	支援区分	得票数
当選	瀬戸孝則（無所属・新・54歳）		63,418
	佐久間博（無所属・新・56歳）	推薦	59,233

❖ 第19回参議院議員選挙結果（7月12日公示・7月29日投票）

当・落	氏名（政党名・年齢など）	支援区分	得票数
当選	太田豊秋（自民党・前・66歳）		393,230
当選	和田洋子（民主党・前・59歳）	推薦	220,704
	神田香織（無所属・新・46歳）		113,284
	三保恵一（無所属・新・52歳）		95,122
	川田昌成（自由党・新・57歳）		70,499
	新美正代（共産党・新・55歳）		59,748
	鈴木隆夫（自由連・新・60歳）		17,555
	熊谷義弘（新 風・新・35歳）		3,733



▲和田ひろこ個人演説会（7月24日）

福島地区連合第12回年次大会

2002年（平成14年）11月9日

福島県労働福祉会館

雇用・失業情勢は昨年7月以降5%台となり、直近の8月調査でも5.4%と統計史上最悪の水準で推移、雇用の創出と安定、新しいワークルールづくりに向けた取り組みは緊急な課題となりました。

同時に、将来の安心を確立するための安定した社会保障制度の再構築と、希望の持てる社会づくりを目指しました。

第73回福島県中央メーデーが市民参加型となり、4月27日、あづま運動総合公園で開催し、4,950名が参加しました。



▲02春季生活闘争デモ行進(3月2日)



▲第12回年次大会(11月9日)



▲第12回年次大会(11月9日)

福島地区連合第13回定期大会

2003年 (平成15年) 11月29日

コラッセふくしま

「より弱い立場にある人々とともに闘う」という運動の原点に立ち、「これ以上失業者を増やさない。働きたい人に職場を」を掲げて、持てる力を結集して、助け合い、分かち合うという心こそが労働運動の源泉だ。職場から、地域から「連帯」を再生することを目指しました。

❖ 福島県議会議員選挙結果 (2003年4月4日告示・4月13日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	高橋秀樹 (民主党・新・37歳)	推薦	13,560
当選	加藤雅美 (社民党・現・53歳)	推薦	12,041
当選	甚野源次郎 (公明党・現・56歳)	支持	16,539



▲第2次湖北省植林ボランティア(3月13日)



▲第13回定期大会(11月29日)

❖ 福島市議会議員選挙結果（2003年4月20日告示・4月27日投票）

当・落	氏名（政党名・年齢など）	支援区分	得票数
当選	高橋英夫（無所属・現・52歳）	推薦	3,143
当選	粕谷悦功（無所属・現・53歳）	推薦	3,444
当選	高木克尚（無所属・新・47歳）	推薦	4,676
当選	栗野啓二（民主党・新・50歳）	推薦	3,613
当選	羽田房男（社民党・新・44歳）	推薦	2,660
当選	木村六朗（社民党・現・62歳）	支持	3,355
当選	杉原二雄（社民党・現・59歳）	支持	3,119
当選	高柳 勇（社民党・現・56歳）	支持	3,003
当選	山岸 清（無所属・現・55歳）	支持	2,949
当選	大場秀樹（無所属・新・33歳）	支持	2,837
落選	伊東忠三（無所属・現・67歳）	推薦	2,100

❖ 第43回衆議院議員選挙結果（2003年10月28日公示・11月9日投票）

当・落	氏名（政党名・年齢など）	支援区分	得票数
	石原信一郎（民主党・新・36歳）	推薦	72,076
当選	佐藤剛男（自民党・前・66歳）		98,896
	亀岡偉民（無所属・新・48歳）		96,954
	山田 裕（共産党・新・48歳）		15,241



▲第13回定期大会（11月29日）



▲新春交歓会（1月29日）



▲新春交歓会鏡開き（1月29日）



▲第13回定期大会（11月29日）



▲第13回定期大会（11月29日）

福島地区連合第14回年次大会

2004年（平成16年）11月27日

福島県労働福祉会館

「平和、幸せ、道ひらく」を掲げた連合結成から15年。その道のりは決して平坦なものではありませんでした。

『組合が変わる、社会を変える。安心・公正な社会を求めて』をスローガンのもと労働運動の原点である職場、地域から「連帯」を再生し力強く前進することを目指しました。

❖ 第20回参議院議員選挙結果（2004年6月24日公示・7月11日投票）

当・落	氏名（政党名・年齢など）	支援区分	得票数
当選	佐藤雄平（民主党・現・56歳）	推薦	445,560
当選	岩城光英（自民党・現・54歳）		406,793
	阿部裕美子（共産党・新・57歳）		128,300

❖ 第17福島県知事選挙結果（2004年8月19告示・9月5日投票）

当・落	氏名（政党名・年齢など）	支援区分	得票数
当選	佐藤栄佐久（無所属・現・65歳）	推薦	704,220
	小川英雄（無所属・新・55歳）		124,179



▲第75回県中央メーデー十六沼公園（5月1日）



▲04春季生活闘争総決起集会（3月8日）



▲自衛隊のイラク派兵を許さない県中央集会（1月19日）



▲第14回年次大会（11月26日）



▲第14回年次大会（11月26日）

福島地区連合第15回定期大会

2005年（平成17年）11月26日

ホテル福島グリーンパレス

格差の拡大と社会の荒廃に直面し、一握りの勝者と多数の敗者が生み出され二極化が深刻化してきました。

その中で最優先すべき課題は、中小企業労働者とパート・契約・派遣労働者などに最大限焦点を当てた取り組みであり、地域に根ざした顔の見える運動の構築でした。

❖ 第44回衆議院議員選挙結果（2005年8月30日公示・9月11日投票）

当・落	氏名（政党名・年齢など）	支援区分	得票数
	石原信市郎（民主党・新・38歳）	推薦	109,795
当選	亀岡偉民（自民党・新・50歳）		171,507
	山田 裕（共産党・新・50歳）		20,412



▲第15回定期大会（11月26日）

❖ 福島市長選挙結果（2005年11月6告示・13日投票、自主投票）

当・落	氏名（政党名・年齢など）	支援区分	得票数
当選	瀬戸孝則（無所属・現・58歳）		75,250
	横山俊邦（無所属・新・57歳）		35,332
	山田 裕（共産党・新・50歳）		6,591
	法井太閤（無所属・新・60歳）		4,943

❖ 福島市議会議員補欠選挙結果（2005年11月6告示・13日投票、定員2名）

当・落	氏名（政党名・年齢など）	支援区分	得票数
当選	石原洋三郎（民主党・新・32歳）	支持	46,357
当選	渡辺あゆ美（自民党・新・33歳）		40,623



▲第44回衆議院議員第一声



▲第15回定期大会（11月26日）



▲第15回定期大会（11月26日）

福島地区連合第16回年次大会

2006年（平成18年）12月2日

杉妻会館

5年余りの小泉自公政権の競争至上主義と市場万能主義による構造改革路線のもと、二極化といわれる格差の拡大と社会の荒廃に直面し、不条理に立ち向かい、社会の変革に取り組み労働運動の再生・活性化を目指し、格差のない社会、希望を託せる社会づくりをめざして力強く前進することにしました。

第77回福島県中央メーデーは、荒川公園で集会、NHK前までデモ、そして福島駅東口から国道13号までを歩行者天国にしてイベントを開催しました。

❖ 第18福島県知事選挙結果（2006年10月26告示・11月12日投票）

当・落	氏名（政党名・年齢など）	支援区分	得票数
当選	佐藤雄平（無所属・新・58歳）	推薦	497,171
	森 雅子（無所属・新・42歳）		395,950
	小川英雄（無所属・新・57歳）		38,457
	川田昌成（無所属・新・63歳）		23,113
	高橋喜重（無所属・新・58歳）		10,598



▲佐藤ゆうへい県知事初当選（11月12日）



▲第77回メーデー（4月29日）



▲第77回メーデー（4月29日）



▲新春交歓会(1月25日)



▲新春交歓会(1月25日)



▲第16回年次大会(12月2日)



▲第16回年次大会(12月2日)

福島地区連合第17回定期大会

2007年 (平成19年) 12月1日

杉妻会館

「組合が変わる、社会を変える。一つくろう格差のない社会、職場・地域から」を合言葉に、構造改革路線のもとに生じた格差社会の解消に向け、連合福島並びに福島地区連合は政策実現の取り組みや、組織率が18%台といわれるなかでの組織拡大運動の推進と、未組織労働者との連帯・連携をはかった。

出直し知事選挙での「佐藤雄平知事誕生実現」をスタートに、統一地方選挙、参議院議員補欠選挙、参議院議員通常選挙を取り組みました。

「連合福島は歴史的な政治決戦」と位置付け総力で取り組み、先の参議院議員通常選挙では民主党の勝利で第一党を勝ち取り「参議院での与野党逆転」を果たし、我々が求めている「二大政党的体制と政権交代可能な政治体制の実現」に大きな一歩を踏み出すことができました。

❖ 福島県議会議員選挙結果 (2007年3月30日告示・4月8日投票)

当・落	氏名(政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	加藤雅美(社民党・現・57歳)	推薦	11,113
当選	高橋秀樹(民主党・現・41歳)	推薦	10,532
当選	石原信市郎(民主党・新・40歳)	支持	14,123
	大場秀樹(民主党・新・37歳)	支持	8,782



▲第17回定期大会(1月12日)



▲第21回参議院議員選挙第一声

❖ 福島市議会議員選挙結果 (2007年4月15日告示・4月22日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	石原洋三郎 (民主党・現・34歳)	支持	8,134
当選	山岸 清 (民主党・現・59歳)	支持	4,055
当選	高木克尚 (無所属・現・51歳)	推薦	3,741
当選	木村六朗 (社民党・現・66歳)	支持	3,364
当選	梅津政則 (無所属・新・40歳)	推薦	3,316
当選	杉原二雄 (社民党・現・63歳)	支持	3,284
当選	粕谷悦功 (無所属・現・57歳)	推薦	3,252
当選	栗野啓二 (無所属・現・54歳)	推薦	2,947
当選	羽田房男 (無所属・現・48歳)	推薦	2,582
当選	高柳 勇 (社民党・現・60歳)	支持	2,577

❖ 参議院議員補欠選挙結果 (2007年4月5公示・4月22日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	増子輝彦 (民主党・新・59歳)	推薦	541,236
	山口 勇 (自民党・新・69歳)		303,782
	宮本しづえ (共産党・新・54歳)		85,994

❖ 第21回参議院議員選挙結果 (2007年7月12日公示・7月29日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	金子恵美 (民主党・新・42歳)	推薦	503,423
当選	森 雅子 (自民党・新・42歳)		372,857
	宮本しづえ (共産党・新・55歳)		78,237
	小川右善 (社民党・新・57歳)		54,466



▲新春交歓会 (1月23日)



▲新春交歓会 (1月24日)



▲市予算回答説明会 (7月3日)



▲福島市長との予算回答 (7月3日)



▲金子恵美参議院議員初当選 (7月29日)



▲根室平和集会 (9月23日)



▲福島市十六沼公園へ鉄棒寄贈 (9月27日)

福島地区連合第18回年次大会

2008年

(平成20年) 11月29日

杉妻会館

誰からも信頼され頼られる組織をつくり、ゆがんだ社会の軌道修正を図るため、社会の不条理・不公正と徹底して闘うこと。ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた働き方の改革を進め、労働分配率の改善や均等待遇をはじめとする公正なワークルールを確立することに取り組みました。



▲チラシ配布行動(1月29日)



▲H20年度市の予算編成に対する要請書の提出(2月13日)



▲白鳥の餌2.1トン寄付(新聞)(1月9日)



▲チラシ配布行動(1月29日)



▲新春交歓会(1月23日)



▲早期解散・政権交代を求める全国一斉行動(12月22日)

福島地区連合第19回定期大会

2009年

(平成21年) 12月5日

ホテル福島グリーンパレス

職場や地域で「顔の見える」連合運動を進めていく。そして、政権交代により樹立された民主党を中心とする新政権の進める諸政策に期待すると同時に、県内においては、佐藤雄平県政与党である県民連合との連携を強化し、地域から信頼される運動を通じて県民本位の政策実現に向けた取り組みを進めました。

❖ 第45回衆議院議員選挙結果（2009年8月18日公示・8月30日投票）

当・落	氏名（政党名・年齢など）	支援区分	得票数
当選	石原洋三郎（民主党・新・36歳）	推薦	156,060
	亀岡偉民（自民党・前・53歳）		136,526
	山田 裕（共産党・新・54歳）		15,879
	大橋一之（幸福実・新・40歳）		3,492



▲石原衆議院議員初当選（8月30日）

❖ 福島市長選挙結果（2009年11月1告示・8日投票）

当・落	氏名（政党名・年齢など）	支援区分	得票数
当選	瀬戸孝則（無所属・現・62歳）	推薦	72,061
	山田 裕（共産党・新・54歳）		16,456



▲最低賃金引き上げを求める街頭署名行動（6月26日）

❖ 福島市議会議員補欠選挙結果（2009年11月1告示・8日投票、定員1名）

当・落	氏名（政党名・年齢など）	支援区分	得票数
	煙山 亨（民主党・新・54歳）	支持	31,728
当選	佐藤雅裕（無所属・新・43歳）		40,618
	野口徹郎（共産党・新・33歳）		11,328



▲新春交歓会（1月28日）



▲春季生活闘争勝利デモ行進（3月17日）



▲春季生活闘争勝利総決起集会（3月17日）



▲衆議院議員選挙勝利・県北総決起集会（7月9日）



▲労福協第21回通常総会（7月22日）

福島地区連合第20回年次大会

2010年（平成22年）12月4日

ホテル福島グリーンパレス

底割れしつつある日本の経済社会構造と地域社会を建て直し、「労働を中心とした福祉型社会」を構築するための確かで大きな歩みを、力強く踏み出さなければならない。

今こそ、生活を立て直し、安心で豊かさが実感できる社会構築のため、労働組合が不可欠な存在であることを具体的運動によっての活動が求められています。

「すべての働く者の連帯で、希望と安心の社会を築こう！」

❖ 第22回参議院議員選挙結果 (2010年6月24日公示・7月11日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	増子輝彦 (民主党・現・62歳)	推薦	340,947
当選	岩城光英 (自民党・現・60歳)		338,265
	岡部光規 (民主党・新・41歳)		155,262
	菅本和雅 (みんな・新・42歳)		93,758
	岩渕 友 (共産党・新・33歳)		64,209

❖ 第19福島県知事選挙結果 (2010年10月14告示・10月31日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	佐藤雄平 (無所属・現・62歳)	推薦	609,931
	佐藤克朗 (共産党・新・55歳)		79,594



▲瀬戸市長との定期協議会 (4月21日)



▲新春交歓会 (1月20日)



▲第81回県中央メーデー (4月29日)



▲福島市役所新庁舎見学会 (7月14日)



▲佐藤ゆうへい県知事 2期目の当選 (10月31日)



▲福島市予算要望に対する回答 (11月24日)



▲福島市予算要望書の提出 (11月24日)



▲第20回年次大会 (12月4日)

福島地区連合第21回定期大会

2011年 (平成23年) 12月3日

ホテル福島グリーンパレス

連合は、2011年3月11日に発生した東日本大震災に対応するため、3月14日に「連合災害対策救援本部」を設置し、以降半年余りにわたって組織内・街頭での「災害救援カンパ」を展開し、同時に被災地への支援物資の提供などを組織内に呼びかけました。救援カンパは8億円を超える額が寄せられ、福島県をはじめ・岩手・宮城・茨城・千葉の各県に寄付をいただきました。

また、3月末からは福島・岩手・宮城の3県に「救援ボランティア」の派遣をいただきました。ボランティア派遣は延べ人数で約3万5,000人を数えました。この活動は、労働運動の社会的責任を担うとともに、連合による「地域に顔の見える運動」の具体化としても貴重な取り組みとなりました。

総務省は、東日本大震災で被害を受け4月の統一地方選を延期する市町村として、新たに福島市など15市町村を指定しました。これにより福島市議選が7月に、福島県議選は11月に延期となりました。

❖ 福島市議会議員選挙結果 (2011年7月24日告示・31日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	粕谷悦功 (無所属・現・61歳)	推薦	2,017
当選	高木克尚 (無所属・現・56歳)	推薦	2,965
当選	栗野啓二 (無所属・現・59歳)	推薦	1,824
当選	羽田房男 (無所属・現・52歳)	推薦	2,074
当選	梅津政則 (無所属・現・44歳)	推薦	2,307
当選	山岸 清 (民主党・現・63歳)	支持	2,276
当選	杉原二雄 (社民党・現・67歳)	支持	2,056
当選	梅津一匡 (社民党・新・35歳)	支持	2,258
	鈴木康広 (民主党・新・29歳)	支持	1,014



▲2011春季生活闘争県中央総決起集会 (3月5日)

❖ 福島県議会議員選挙結果 (2011年11月10日告示・11月20日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	紺野長人 (社民党・新・56歳)	推薦	9,801
当選	石原信市郎 (民主党・現・44歳)	支持	8,258
	高橋秀樹 (民主党・現・46歳)	推薦	6,743
	大場秀樹 (民主党・新・42歳)	推薦	6,331



▲20周年記念レセプション
紺野孝幸議長の団結がんばろう三唱
(12月3日)



▲第21回定期大会役員挨拶 (12月3日)



▲20周年記念レセプション歴代議長、議長代理、事務局長の皆様 (12月3日)

2011年



▲20周年記念レセプション 会場の様子



▲20周年記念レセプション 前連合福島羽田則男会長の乾杯



▲新春交歓会(1月19日)



▲20周年記念レセプション 福島製作所労組音楽部「ハニーズ」の演奏



▲新春交歓会(1月19日)



▲新春交歓会(1月19日)



▲20周年記念レセプション 20年をふりかえってスライド映像



▲春季生活闘争総決起集会(3月5日)



▲春季生活闘争総決起集会(3月5日)



▲春季生活闘争総決起集会(3月5日)



▲第82回県中央メーデー式典(4月29日)



▲第82回県中央メーデー青空市(4月29日)



▲四役会新旧役員歓送迎会(12月14日)



▲東電労組へ目録贈呈(12月28日)



▲20周年記念レセプション 連合福島影山道幸会長挨拶

福島地区連合第22回年次大会

2012年 (平成24年) 12月1日

福島グリーンパレス

政権交代を実現してから約3年余りが経過しました。この間、民主党政権は、私たち働く者や生活者に主軸を置いた政策を推進し、貧困、格差、差別という社会問題に正面から取り組み、労働者保護の視点に立った労働関連法令の改正をはじめとして、高校授業料の無償化、最低賃金の引き上げ、求職者支援制度の確立など、働く者や生活者の目線での政策実現に努め、着実に成果を挙げてきました。

野田首相は国家基本政策委員会合同審査会における党首討論で「(衆議院議員定数削減法案への賛同の)御決断をいただくなれば、私は今週末の解散をしてもいい」と発言し、解散するつもりがあることを突如として表明したことにより、第46回総選挙の日程が12月4日公示、12月16日投開票となりました。

選挙の結果は、与党民主党は改選前の230議席からほぼ4分の1の57議席しか獲得できず、歴史的かつ壊滅的な大敗を喫しました。2009年9月に発足した民主党を中心とする政権は1期・3年3カ月(1,198日)で幕を閉じました。

❖ 第46回衆議院議員選挙結果 (2012年12月4日公示・12月16日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
	大場秀樹 (民主党・新・43歳)	推薦	44,599
	石原洋三郎 (未来・元・39歳)		50,141
当選	亀岡偉民 (自民党・前・57歳)		121,235
	渡部チイ子 (共産党・新・59歳)		21,896



▲新春交歓会 (1月25日)



▲東日本大震災1周年「絆」集会 (3月3日)



▲第83回県中央メーデー (4月28日)



▲花火大会翌朝清掃ボランティア (7月29日)



▲平和行動in広島 (8月5日)



▲第22回年次大会 (12月1日)

2012年



▲新春交歓会(1月25日)



▲新春交歓会(1月25日)



▲新春交歓会(1月25日)



▲新春交歓会(1月25日)



▲予算要望書の提出(2月29日)



▲予算要望書の提出(2月29日)



▲春季生活闘争勝利総決起集会(3月3日)



▲春季生活闘争勝利総決起集会(3月3日)



▲東日本大震災1周年「絆」集会(3月3日)



▲第83回県中央メーデー(4月28日)



▲第83回県中央メーデー(4月28日)



▲第83回県中央メーデー(4月28日)



▲第83回県中央メーデー(4月28日)



▲最低賃金引上げ街頭署名(5月30日)



▲最低賃金引上げ街頭署名(5月30日)



▲最低賃金引上げ街頭署名(5月30日)



▲労福協通常総会(6月20日)



▲労福協通常総会(6月20日)

2012年



▲労福協通常総会(6月20日)



▲瀬戸市長との定期協議会(7月18日)



▲瀬戸市長との定期協議会(7月18日)



▲瀬戸市長との定期協議会(7月18日)



▲花火大会翌朝清掃ボランティア(7月29日)



▲花火大会翌朝清掃ボランティア(7月29日)



▲核兵器廃絶と平和を求める県民集会(8月25日)



▲核兵器廃絶と平和を求める県民集会(8月25日)



▲メンタルヘルス研修会(9月16日)



▲メンタルヘルス研修会(9月16日)



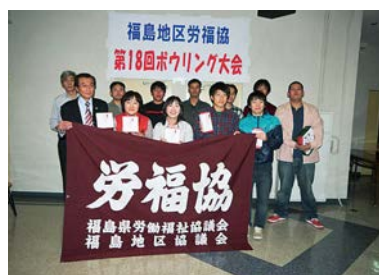
▲メンタルヘルス研修会(9月16日)



▲ボウリング大会(10月24日)



▲労福協ボウリング大会(10月24日)



▲労福協ボウリング大会(10月24日)



▲第22回年次大会(12月2日)



▲第22回年次大会(12月2日)



▲就労支援施設寄贈(12月26日)



▲就労支援施設寄贈(12月26日)

福島地区連合第23回定期大会

2013年 (平成25年) 11月30日

福島グリーンパレス

政権交代後「アベノミクス」の恩恵は限定的で、働く者や生活者の雇用と暮らしは一向に改善せず、また、非正規労働者が4割近くにも達し、年収200万円以下で働くワーキングプアと呼ばれる労働者が1100万人を超えました。

任期満了に伴う福島市長選は11月17日投票が行われ、即日開票の結果、連合福島推薦で4選を目指した無所属現職の瀬戸孝則氏(66)は無所属の新人で元東北地方環境事務所長の小林香氏(54)に敗れました。これまでの震災対応や今後の復興施策に対する評価が問われ、多くの市民が「変革」を選択した選挙となりました。

❖ 福島市長選挙結果 (2013年11月10日告示・11月17日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
次点	瀬戸孝則 (無所属・現・66歳)	推薦	32,851
当選	小林 香 (無所属・新・54歳)		72,441
	山田 裕 (共産党・新・58歳)		7,620

❖ 第23回参議院議員選挙結果 (2013年7月4日公示・7月21日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
次点	かねこ恵美 (民主党・現・48歳)	推薦	240,842
当選	森まさこ (自民党・現・48歳)		484,089
	岩淵 友 (共産党・新・36歳)		77,401
	遠藤陽子 (社民党・新・63歳)		35,801
	酒井秀光 (幸実党・新・45歳)		9,860
	杉内一成 (無所属・新・80歳)		7,425



▲新春交歓会 (1月23日)



▲春季生活闘争集会 (3月2日)



▲青年女性委員会国会見学会 (5月22日)



▲六魂祭ボランティア (6月1日)



▲最低賃金署名街頭行動 (6月3日)



▲第23回定期大会 (11月30日)

2013年



▲幹事会の様子(1月9日)



▲幹事会の様子(1月9日)



▲新春交歓会(1月23日)



▲福島市社会福祉協議会へ寄付(2月18日)



▲瀬戸市長予算要望書の提出(2月28日)



▲春季生活闘争集会(3月2日)



▲春季生活闘争集会(3月2日)



▲春季生活闘争集会(3月2日)



▲春季生活闘争集会(3月2日)



▲春季生活闘争集会(3月2日)



▲春季生活闘争デモ行進(3月2日)



▲ディズニースツアー(3月23日)



▲第84回県中央メーデー(4月27日)



▲第84回県中央メーデー(4月27日)



▲第84回県中央メーデー(4月27日)



▲第84回県中央メーデー(4月27日)



▲青年女性委員会国会見学会(5月22日)



▲六魂祭ボランティア(6月1日)

2013年



▲六魂祭ボランティア(6月1日)



▲最低賃金街頭署名行動(6月3日)



▲参議院選挙総決起集会(6月7日)



▲瀬戸市長との定期協議会(6月12日)



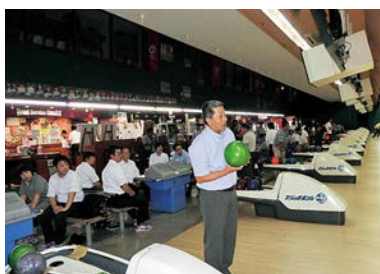
▲連合福島元気アップ(6月26日)



▲青年女性サマーパーティー(8月9日)



▲青年女性サマーパーティー(8月9日)



▲ボウリング大会(9月13日)



▲就労支援施設へ寄贈(9月13日)



▲就労支援施設へ寄贈(9月13日)



▲就労支援施設から感謝状(9月19日)



▲福島市長選挙協定書(9月26日)



▲福島市長選挙協定書(9月26日)



▲ゴルフコンペ表彰式(10月12日)



▲瀬戸孝則総決起集会(11月12日)



▲第23回定期大会(11月30日)



▲女性の視点で未来を考えるシンポジウム(11月)



▲金子議員との職場オルグ(北芝労働組合)

福島地区連合第24回年次大会

2014年 (平成26年) 12月6日

福島グリーンパレス

この年、消費税率が4月1日、5%から8%に上がりました。税率の引き上げは17年ぶりで、高齢化で増え続ける年金や医療などの社会保障費を賄うためという事でした。

連合福島は2014春闘勝利に向け、各構成組織の要求実現に向け全力をあげるとともに、これまで以上に非正規労働者の処遇改善を実現するために運動を展開しました。

連合推薦の佐藤雄平知事が勇退、任期満了に伴う第20回福島県知事選が告示されました。東日本大震災、東京第一原子力発電所事故後、初めての県知事選であり、県民連合、連合福島がいち早く副知事の内堀雅雄の推薦を決定し取り組みを進めました。

❖ 第20回福島県知事選挙結果 (2014年10月9告示・10月26日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	内堀雅雄 (無所属・新・50歳)	推薦	490,384
	熊坂義裕 (無所属・新・62歳)		129,455
	井戸川克隆 (無所属・新・68歳)		29,763
	金子芳尚 (無所属・新・58歳)		25,516
	伊関明子 (無所属・新・59歳)		24,669
	五十嵐義隆 (無所属・新・36歳)		17,669

❖ 第47回衆議院議員選挙結果 (2014年12月2日公示・12月14日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
比当	金子恵美 (民主党・新・49歳)	推薦	97,630
当選	亀岡偉民 (自民党・前・59歳)		102,929
	渡部保子 (共産党・新・72歳)		16,748



▲第85回県中央メーデー (4月26日)



▲復興支援天狗のかくれ里 (8月9日)



▲平和行動in根室 (9月14日)



▲第24回年次大会 (12月6日)

2014年



▲新春交歓会（1月22日）



▲新春交歓会（1月22日）



▲推薦支持議員との意見交換会（2月24日）



▲推薦支持議員との意見交換会（2月24日）



▲春闘勝利総決起集会（3月1日）



▲春闘勝利総決起集会（3月1日）



▲春闘勝利総決起集会（3月1日）



▲春闘勝利総決起集会（3月1日）



▲春闘勝利総決起集会（3月1日）



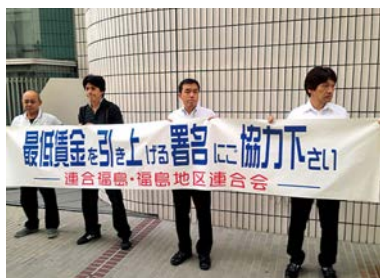
▲第85回県中央メーデー（4月26日）



▲第85回県中央メーデー（4月26日）



▲第85回県中央メーデー（4月26日）



▲最低賃金署名（6月）



▲男女が共に働きやすい職場づくり研修会（7月31日）



▲核兵器廃絶署名（7月）



▲おいでよ神奈川プロジェクト出発式（8月5日）



▲おいでよ神奈川プロジェクト（8月6日）



▲復興支援天狗のかくれ里（8月9日）



▲復興支援天狗のかくれ里(8月9日)



▲労福協通常総会(9月3日)



▲花火大会翌朝清掃ボランティア(8月10日)



▲民報新聞社へ広島市豪雨災害義援金(9月9日)



▲民友新聞へ広島市豪雨災害義援金(9月9日)



▲児童養護施設へ電化製品寄贈(9月24日)



▲児童養護施設へ電化製品寄贈(9月24日)



▲県知事選挙内堀まさお総決起集会(10月21日)



▲県知事選挙内堀まさお総決起集会(10月21日)



▲第24回年次大会(12月6日)



▲第24回年次大会(12月6日)



▲第24回年次大会(12月6日)



▲金子恵美個人演説会(12月10日)



▲連合古賀会長来福(12月)



▲ラコパふくしま落成祝賀会(5月12日)

福島地区連合第25回定期大会

2015年 (平成27年) 12月5日

福島グリーンパレス

すべての働く者の幸せの実現のために「働くことを軸とする安心社会」の実現に向け、集团的労使関係を構築し、「10万連合福島」への着実な前進、非正規労働者・未組織労働者・若者への支援と参加の推進、政策・制度の実現に向けた取組み強化、東日本大震災と原発事故災害からの復興・再生に向けての取組みの継続、賃金・労働条件の底上げ・底支え、希望と安心社会の実現のための積極的な政治活動の推進など、向こう2年間に亘る運動方針を確認しました。

この年、統一自治体選挙があり、地区連合が推薦・支持した現職の市議会議員、県議会議員は全員が当選することができました。

❖ 福島市議会議員選挙結果 (2015年7月5日告示・7月12日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	粕谷悦功 (無所属・現・65歳)	推薦	2,280
当選	高木克尚 (無所属・現・60歳)	推薦	3,448
当選	栗野啓二 (無所属・現・63歳)	推薦	2,004
当選	羽田房男 (無所属・現・56歳)	推薦	2,247
当選	梅津政則 (無所属・現・48歳)	推薦	2,812
当選	山岸 清 (民主党・現・67歳)	支持	2,256
当選	梅津一匡 (社民党・現・39歳)	支持	2,870
当選	澤井和宏 (社民党・新・57歳)	支持	2,201
	岸波清孝 (民主党・新・60歳)	支持	1,483



▲新春交歓会 (1月23日)

❖ 福島県議会議員選挙結果 (2015年11月5日告示・11月15日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	大場秀樹 (民主党・新・46歳)	推薦	10,780
当選	紺野長人 (社民党・現・60歳)	推薦	10,693
当選	高橋秀樹 (民主党・元・50歳)	推薦	8,716



▲春闘勝利総決起集会 (3月7日)



▲青年女性サマーパーティー (8月7日)



▲青年女性クリスマスパーティー (12月18日)

2015年



▲新春交歓会 (1月23日)



▲新春交歓会 (1月23日)



▲新春交歓会 (1月23日)



▲福島市社会福祉協議会寄付 (2月9日)



▲春闘勝利総決起集会 (3月7日)



▲春闘勝利総決起集会 (3月7日)



▲春闘勝利総決起集会 (3月7日)



▲推薦支持議員との意見交換会 (3月20日)



▲推薦支持議員との意見交換会 (3月20日)



▲第86回県中央メーデー (4月29日)



▲第86回県中央メーデー (4月29日)



▲第86回県中央メーデー (4月29日)



▲第86回県中央メーデー (4月29日)



▲第86回県中央メーデー (4月29日)



▲第86回県中央メーデー (4月29日)



▲最低賃金署名行動 (6月)



▲ワークルール出前講座 (7月29日)



▲連合うちわ配布行動 (7月)

2015年



▲花火大会翌朝清掃ボランティア(8月5日)



▲労福協通常総会(8月5日)



▲サマーパーティー(8月7日)



▲サマーパーティー(8月7日)



▲平和行動in長崎(8月8日)



▲平和行動in長崎(8月8日)



▲労福協ボウリング大会(9月16日)



▲ボウリング大会(9月16日)



▲ボウリング大会(9月16日)



▲第25回定期大会(12月5日)



▲青年女性クリスマスパーティー(12月18日)



▲青年女性クリスマスパーティー(12月18日)



▲青年女性クリスマスパーティー(12月18日)



▲青年女性クリスマスパーティー(12月18日)



▲児童養護施設へクリスマスプレゼント(12月24日)

福島地区連合第26回年次大会

2016年 (平成28年) 12月3日

福島グリーンパレス

福島地区連合は課題の克服と経済の好循環を実現させるために、2016春季生活闘争を通じ、すべての働く者の「底上げ・底支え」「格差是正」の実現を目指し、加えて、雇用、労働、福祉など政策・制度の実現を通じ雇用の安定と質の向上や子育て、医療、介護などの社会的セーフティネットの拡大・強化による将来不安の解消をはかるため、労働組合づくりを通じた集团的労使関係の拡大を進めました。

クラシノソコアゲ応援団の継続的な取り組みや最低賃金の引き上げなどは、現行水準からの大幅アップに挑んでいくことによって、地域社会や未組織労働者へ顔の見える運動を展開しました。

この年、参議院選挙があり、一つの議席を争い、厳しい選挙戦でしたが増子輝彦氏が現職の法務大臣岩城光英氏を破り再選を果たしました。

❖ 第24回参議院議員選挙結果 (2016年6月22日公示・7月10日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当选	増子輝彦 (民進党・現・68歳)	推薦	462,852
	岩城光英 (自民党・現・66歳)		432,982
	矢内筆勝 (幸実党・新・54歳)		20,653



▲鎮魂復興市民植樹祭 (3月27日)



▲青年女性委員会清掃活動 (5月14日)



▲クラシノソコアゲ街頭行動 (8月9日)



▲国会見学会民進党控室 (9月30日)



▲平和行動in根室 (9月11日)



▲平和行動in根室 (9月11日)

2016年



▲新春交歓会(1月20日)



▲新春交歓会(1月20日)



▲新春交歓会パチッコリン漫才(1月20日)



▲幹事会(2月14日)



▲福島社会福祉協議会へ寄付(2月16日)



▲推薦支持議員との意見懇談会(3月2日)



▲推薦支持議員との意見懇談会(3月2日)



▲春季生活闘争総決起集会(3月5日)



▲春季生活闘争総決起集会(3月5日)



▲春季生活闘争総決起集会(3月5日)



▲春季生活闘争総決起集会(3月5日)



▲鎮魂復興市民植樹祭(3月27日)



▲第87回県中央メーデー(4月29日)



▲県中央メーデー(4月29日)



▲県中央メーデー(4月29日)



▲県中央メーデー(4月29日)



▲県中央メーデー(4月29日)



▲県中央メーデー(4月29日)

2016年



▲県中央メーデー (4月29日)



▲青年女性委員会最新消防署視察 (5月14日)



▲青年女性委員会最新消防署視察 (5月14日)



▲青年女性委員会清掃活動 (5月14日)



▲クラシノソコアゲ応援団街頭行動 (5月18日)



▲増子輝彦 1区総決起集会 (6月17日)



▲増子輝彦 1区総決起集会 (6月17日)



▲県北地域連合労働研修会 (7月27日)



▲労働研修会 (7月27日)



▲労働研修会 (7月27日)



▲花火大会翌朝清掃ボランティア (7月31日)



▲青年女性ビアパーティー (8月5日)



▲青年女性ビアパーティー (8月5日)



▲青年女性ビアパーティー (8月5日)



▲青年女性ビアパーティー (8月5日)



▲クラシノソコアゲ街頭行動 (8月9日)



▲クラシノソコアゲ街頭行動 (8月9日)



▲労福協通常総会 (8月24日)

2016年



▲推薦支持議員との懇談会(9月16日)



▲推薦支持議員との懇談会(9月16日)



▲推薦支持議員との懇談会(9月16日)



▲国会見学会民進党控室(9月30日)



▲労福協ボウリング大会(10月5日)



▲労福協ボウリング大会(10月5日)



▲中核市について考える集い(11月9日)



▲第26回年次大会(12月3日)



▲第26回年次大会(12月3日)



▲青年女性クリスマスパーティー(12月22日)



▲青年女性クリスマスパーティー(12月22日)



▲青年女性クリスマスパーティー(12月22日)

福島地区連合第27回定期大会

2017年 (平成29年) 12月2日

福島グリーンパレス

定期大会では、社会変革の原動力としての労働運動を牽引するべく、組織力、政策力、発信力に一層磨きをかけていくことを確認しました。労働運動の真価が問われている中、福島復興・創生に向けた取り組みの継続、「10万連合福島」に向けた組織拡大の加速、非正規雇用・女性・若者をはじめ多様な仲間の参画促進、そして社会の共感と共鳴を得る取り組みを行いました。

この年、衆議院選挙があり、金子恵美氏が福島選挙区において当選を果たすことができました。また、福島市長選が行われ、現職と新人合わせて4人による激しい選挙戦となりましたが、連合福島が推薦した新人で元福島復興局長の木幡浩氏が初めての当選を果たしました。

❖ 第48回衆議院議員選挙結果 (2017年10月10日公示・10月22日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	金子恵美 (無所属・前・52歳)	推薦	126,664
比当	亀岡偉民 (自民党・前・62歳)		113,514

❖ 福島市長選挙結果 (2017年11月12日告示・11月19日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	木幡 浩 (無所属・新・57歳)	推薦	45,372
	小林 香 (無所属・前・58歳)		34,503
	桜田葉子 (無所属・新・60歳)		30,834
	法井太閤 (無所属・新・72歳)		1,858



▲新春交歓会 (1月18日)



▲春闘勝利総決起集会デモ行進 (3月4日)



▲新木幡市長誕生 (11月19日)



▲第27回定期大会幹事会メンバー集合写真 (12月2日)

2017年



▲新春交歓会(1月18日)



▲新春交歓会(1月18日)



▲新春交歓会(1月18日)



▲自主福祉運動研修会(2月22日)



▲推薦支持議員意見交換会(3月2日)



▲推薦支持議員意見交換会(3月2日)



▲春闘勝利総決起集会(3月4日)



▲春闘勝利総決起集会(3月4日)



▲春闘勝利総決起集会(3月4日)



▲春闘勝利総決起集会(3月4日)



▲第88回県中央メーデー(4月29日)



▲県中央メーデー(4月29日)



▲県中央メーデー(4月29日)



▲県中央メーデー(4月29日)



▲県中央メーデー(4月29日)



▲県中央メーデー(4月29日)



▲クラシノソコアゲ応援団(5月24日)



▲クラシノソコアゲ応援団(5月24日)

2017年



▲クラシノソコアゲ応援団 (5月24日)



▲クラシノソコアゲ応援団 (5月24日)



▲クラシノソコアゲ応援団 (5月24日)



▲県立医大意見交換会 (6月16日)



▲県立医大視察 (6月16日)



▲沖縄平和式典 (6月23日)



▲沖縄デモ行進 (6月24日)



▲普通救命講習会 (7月8日)



▲連合福島政治政策フォーラム解散総会 (7月20日)



▲連合福島政治政策フォーラム解散総会 (7月20日)



▲青年女性ビアパーティー (7月28日)



青年女性ビアパーティー (7月28日)



▲花火大会翌朝清掃ボランティア (7月30日)



▲花火大会翌朝清掃ボランティア (7月30日)



▲福島市社会福祉協議会へ寄付 (8月3日)



▲労福協総会 (8月3日)



▲労福協総会 (8月3日)



▲幹事会で木幡氏推薦決定 (8月10日)

2017年



▲幹事会の様子(8月10日)



▲こはた浩連合後援会設立総会(8月21日)



▲金子恵美社民党政策協定(9月2日)



▲労福協ボウリング大会(9月20日)



▲労福協ボウリング大会(9月20日)



▲金子恵美支援団体懇談会(9月)



▲金子恵美第一声(10月10日)



▲金子恵美個人演説会(10月18日)



▲金子恵美個人演説会(10月18日)



▲金子恵美事務所開票速報(10月22日)



▲福島市長選挙第一声(11月12日)



▲新木幡市長誕生(11月19日)



▲新木幡市長誕生(11月19日)



▲第27回定期大会(12月2日)



▲第27回定期大会(12月2日)



▲第27回定期大会(12月2日)



▲青年女性クリスマスパーティー(12月5日)



▲青年女性クリスマスパーティー(12月5日)



▲福島市役所に初登庁(12月8日)



▲児童養護施設へプレゼント(12月21日)

福島地区連合第28回年次大会

2018年 (平成30年) 12月1日

福島グリーンパレス

誰からも信頼され頼られる組織をつくり、ゆがんだ社会の軌道修正を図るため、社会の不条理・不公正と徹底して闘うこと、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた働き方の改革を進め、労働分配率の改善や均等待遇をはじめとする公正なワークルールを確立することに取り組みました。

この年、福島県知事選挙が行われ、連合福島が推薦した現職の内堀雅雄氏が2期目の当選を果たすことができました。

◆第21福島県知事選挙結果(2018年10月11告示・10月28日投票)

当・落	氏名(政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	内堀雅雄(無所属・現・54歳)	推薦	650,982
	町田和史(無所属・新・42歳)		35,029
	高橋 翔(無所属・新・30歳)		17,159
	金山 屯(無所属・新・78歳)		10,259



▲連合福島元気アップ(3月3日)



▲第89回県中央メーデー(4月28日)



▲国会見学(6月1日)



▲平和行動in長崎(8月8日)

2018年



▲新春交歓会(1月17日)



▲新春交歓会(1月17日)



▲新春交歓会(1月17日)



▲新春交歓会MANAMIミニライブ(1月17日)



▲労福協退職準備セミナー(2月10日)



▲労福協退職準備セミナー(2月10日)



▲連合福島元気アップ(3月3日)



▲全国植樹祭(3月17日)



▲全国植樹祭(3月17日)



▲全国植樹祭(3月17日)



▲県中央メーデー(4月28日)



▲県中央メーデー(4月28日)



▲県中央メーデー(4月28日)



▲県中央メーデー(4月28日)



▲県中央メーデー(4月28日)



▲県中央メーデー(4月28日)



▲クラシノソコアゲ街頭行動(5月30日)



▲クラシノソコアゲ街頭行動(5月30日)



▲クラシノソコアゲ街頭行動(5月30日)



▲クラシノソコアゲ街頭行動(5月30日)



▲国会見学(6月1日)



▲国会食堂にて食事会(6月1日)



▲木幡市長との定期協議会(7月10日)



▲木幡市長との定期協議会(7月10日)



▲労福協通常総会(7月25日)



▲青年女性サマーパーティー(7月27日)



▲平和行動in長崎(8月8日)



▲青年女性委員会西日本豪雨災害義援金(8月17日)



▲福島第一原発視察(11月22日)



▲福島第一原発視察(11月22日)



▲福島第一原発視察(11月22日)



▲立憲民主党結成総会(11月23日)



▲労福協退職準備セミナー(11月27日)

2018年



▲労福協退職準備セミナー(11月27日)



▲第28回年次大会(12月1日)



▲第28回年次大会(12月1日)



▲第28回年次大会(12月1日)



▲青年女性クリスマスパーティー(12月14日)



▲福島市への予算要望(12月19日)

福島地区連合第29回定期大会

2019年 (平成31年・令和元年) 11月30日

福島グリーンパレス

この年、統一自治体選挙があり、市議会議員選挙では栗野啓二氏が引退を表明しましたが、地区連合が推薦・支持する市議会議員、県議会議員全員が当選することができました。

また、参議院選挙が行われ、連合福島が推薦した新人の水野さちこ氏が、時間のなかで健闘しましたが惜しくも現職の森まさこ氏に敗れました。

❖ 福島市議会議員選挙結果 (2019年6月23日告示・6月30日投票)

当・落	氏名(政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	粕谷悦功(無所属・現・69歳)	推薦	2,089
当選	高木克尚(無所属・現・64歳)	推薦	2,738
当選	羽田房男(無所属・現・60歳)	推薦	2,163
当選	梅津政則(無所属・現・52歳)	推薦	2,839
当選	山岸 清(国民党・現・71歳)	支持	1,819
当選	梅津一匡(社民党・現・43歳)	支持	2,299
当選	澤井和宏(社民党・現・61歳)	支持	2,272
当選	石原洋三郎(無所属・現・46歳)	支持	7,575

❖ 第25回参議院議員選挙結果 (2019年7月4日公示・7月21日投票)

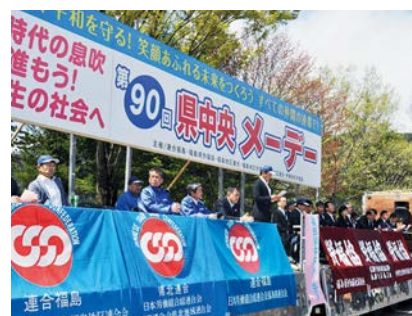
当・落	氏名(政党名・年齢など)	支援区分	得票数
	水野さちこ(無所属・新・57歳)	推薦	345,001
当選	森まさこ(自民党・現・54歳)		445,547
	田山雅仁(N国党・新・35歳)		33,326

❖ 福島県議会議員選挙結果 (2019年10月31日告示・11月10日投票)

当・落	氏名(政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	紺野長人(社民党・現・64歳)	推薦	10,220
当選	高橋秀樹(立憲党・現・54歳)	推薦	8,507
当選	大場秀樹(国民党・現・50歳)	推薦	8,112



▲新春交歓会(1月16日)



▲第90回県中央メーデー(4月27日)

2019年



▲核兵器廃絶街頭署名(8月6日)



▲福島市長との定期協議会(5月7日)



▲新春交歓会(1月16日)



▲新春交歓会(1月16日)



▲労働契約等解説セミナー(2月16日)



▲労働契約等解説セミナー(2月16日)



▲労働契約等解説セミナー(2月16日)



▲最低賃金引上げ街頭署名(3月9日)



▲最低賃金引上げ街頭署名(3月9日)



▲連合福島元気アップ(4月13日)



▲連合福島元気アップ(4月13日)



▲第90回県中央メーデー(4月27日)



▲第90回県中央メーデー(4月27日)



▲第90回県中央メーデー(4月27日)



▲第90回県中央メーデー(4月27日)



▲第90回県中央メーデー(4月27日)



▲福島市長との定期協議会(5月7日)



▲水野さちこ事務所開き(5月12日)

2019年



▲幹事会で水野さち氏の推薦決定(5月15日)



▲水野さちこ第一声(7月14日)



▲水野さちこ個人演説会(7月18日)



▲労福協通常総会(7月31日)



▲労福協通常総会(7月31日)



▲核兵器廃絶街頭署名(8月6日)



▲幹事会 水野さちこ氏御礼の挨拶(8月6日)



▲労福協ボウリング大会(9月18日)



▲労福協ボウリング大会(9月18日)



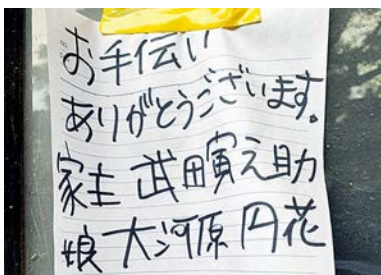
▲推薦支持議員との意見交換会(9月30日)



▲推薦支持議員との意見交換会(9月30日)



▲台風19号災害ボランティア(10月23日)



▲台風19号災害ボランティア(10月23日)



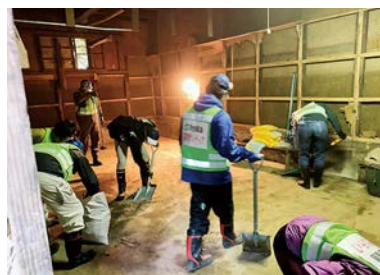
▲台風19号災害ボランティア(10月23日)



▲台風19号災害ボランティア(10月23日)



▲台風19号災害ボランティア(10月23日)



▲台風19号災害ボランティア(10月23日)



▲台風19号災害ボランティア(10月23日)



▲台風19号災害ボランティア(10月23日)



▲台風19号災害ボランティア(10月23日)



▲台風19号災害ボランティア(10月23日)



▲台風19号災害ボランティア(10月23日)



▲連合災害ボランティア解団式(11月29日)



▲第29回定期大会(11月30日)



▲第29回定期大会(11月30日)



▲青年女性クリスマスパーティー(12月20日)



▲青年女性クリスマスパーティー(12月20日)



▲児童養護施設へのプレゼント(12月25日)



▲福島市へ台風災害義援金贈呈(12月26日)



▲福島市へ予算要望書の提出(12月26日)

福島地区連合第30回年次大会

2020年 (令和2年) 12月5日

福島グリーンパレス

新型コロナウイルス感染症は、昨年12月に感染が確認されて以降、世界各地に感染が広がっています。連合福島は、働く人すべての安全な職場環境を担保し、企業の状況悪化による雇用や処遇条件面での影響を抑えるため、「新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置し、自治体や関係団体と連携し対応しました。

今年はコロナ禍の影響で、春闘オルグ、清掃ボランティア、市長との定期協議会、サマーパーティー、平和行動、高齢者集会、ボウリング大会、年次大会も縮小するなど殆どの行事が縮小や中止になりました。

2020年



▲新春交歓会(1月15日)



▲新春交歓会(1月15日)



▲新春交歓会(1月15日)



▲新春交歓会(1月15日)



▲労福協退職準備セミナー(1月18日)



▲推薦・支持議員との懇談会(10月9日)



▲退職準備セミナー(1月18日)



▲労働契約等解説セミナー(2月15日)



▲福島市へポケットウォッチ寄贈(3月23日)



▲2020年春季生活闘争シンポジウム(2月6日)



▲2020年春季生活闘争シンポジウム(2月6日)



▲中央メーデー連合神津会長メッセージ(4月29日)



▲連合福島第91回中央メーデー式典中止(4月29日)



▲推薦・支持議員との懇談会(10月9日)



▲推薦・支持議員との懇談会(10月9日)



▲立憲民主党福島県第1区総支部結成大会(11月8日)

歴代議長・歴代役員

福島地区連合

初代議長



渡辺 彰

1992年3月～1997年11月

第2代議長



小山勝也

1997年11月～1998年10月

第3代議長



山本泰博

1998年11月～2000年11月

第4代議長



服部喜博

2000年11月～2003年11月

第5代議長



須藤政浩

2003年11月～2009年12月

第6代議長



紺野孝幸

2009年12月～2013年11月

第7代議長



伊藤秀治

2013年11月～2017年12月

第8代議長



成田威文

2017年12月～現在

県北連合

初代議長



伊藤鉄次

1991年2月～(1989年11月?)
1995年11月

第2代議長



小山勝也

1995年11月～1997年11月

福島地区連合歴代役員

第1回 1992. 3.13(結成大会)			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	渡辺 彰	自治労	県職労
副議長	大山 信男	電機労連協	北芝電機労組
〃	阿部 弘	ゼンキン連合	協三工業労組
〃	西條 孝夫	JR総連	JR東労組
事務局長	栗野 啓二	ゼンセン同盟	日東紡労組
事務局次長	三浦 一男	私鉄総連	福島交通福島支部
〃	斎藤 浩信	電力総連	東北計器労組
幹事	中島 真一	交通労連	辰巳屋支部
〃	伏見 吉弘	情報労連	全電通福島分会
〃	石川直二郎	全自交	吾妻分会
〃	藤岡 郁夫	全通	全通福島
〃	穂積 央男	運輸労連	全日通福島分会
〃	瓜生 忠夫	全水道	福島水道労組
〃	後藤 健伍	一般同盟	東北製作所労組
〃	郡司 守進	全農林	全農林福島農政分会
〃	石川 忠	基金労組	基金労組福島支部
〃	光野 喜洋	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	渡辺 勢治	自動車総連	福島製鋼労組
〃	高橋 健二	金属機械	東開工業支部
会計監査	渡辺 直行	全郵政	福島地方支部
〃	須田 勝義	自動車総連	福島いすゞ労組

第2回 1993. 3.12			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	渡辺 彰	自治労	県職労
副議長	尾形 幹夫	電機労連協	松下電器産業労組
〃	渡辺 良勝	ゼンキン連合	
〃	析窪 長男	JR総連	JR総連福島県協議会
事務局長	栗野 啓二	ゼンセン同盟	日東紡労組
事務局次長	渡辺 登	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	斎藤 浩信	電力総連	東北計器労組
幹事	中島 真一	交通労連	辰巳屋支部
〃	伏見 吉弘	情報労連	全電通福島分会
〃	石川直二郎	全自交	吾妻分会
〃	藤岡 郁夫	全通	全通福島
〃	穂積 央男	運輸労連	全日通福島分会
〃	瓜生 忠夫	全水道	福島水道労組
〃	後藤 健伍	一般同盟	東北製作所労組
〃	郡司 守進	全農林	全農林福島農政分会
〃	石川 忠	基金労組	基金労組福島支部
〃	鈴木 信一	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	小森 善晶	自動車総連	
〃	高橋 健二	金属機械	東開工業支部
会計監査	渡辺 直行	全郵政	福島地方支部
〃	菅野 正人	自動車総連	
オブ加盟幹事	吉田 隆	労福労連	

第3回 1993.12. 3			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	渡辺 彰	自治労	県職労
副議長	尾形 幹夫	電機労連協	松下電器産業労組
〃	渡辺 盛幸	自動車総連	日産サニー福島販売労組
〃	高橋 直	ゼンキン連合	北東衡機労組
〃	伏見 吉弘	情報労連	全電通福島分会
〃	析窪 長男	JR総連	JR総連福島県協議会
事務局長	栗野 啓二	ゼンセン同盟	日東紡労組
事務局次長	斎藤 浩信	電力総連	東北計器労組
〃	渡辺 登	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	有路 卓司	全通	福島地方支部
幹事	半沢 勝行	金属機械	東海工業支部
〃	佐久間 敦	一般同盟	福島ワコール縫製労組
〃	佐久間 正男	交通労連	全福島ハイ・タク労組庭坂支部
〃	加藤 規明	運輸労連	全日通福島分会
〃	山岸 英寿	全国一般	福島中央計算センター分会
〃	石川直二郎	全自交労連	福島支部
〃	郡司 守進	国交総連	福島農政分会
〃	山田 勝則	ゴム労連	福島ゴム労組
〃	瓜生 忠夫	全水道	福島水道労組
〃	大槻 富治	森林労連	全林野福島営林署分会
〃	鈴木 信一	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	朝倉 靖夫	政労連	支払基金労組
〃	長山 均	JR連合	福島県支部福島駅連合分会
〃	鈴木 浩三	建設連合	建設省職員組合
オブ加盟幹事	佐藤 浩二	労福労連	労働金庫本店支部
会計監査	渡辺 直行	全郵政	福島地方支部
〃	渡部 洋則	日放労	福島分会

第4回 1994.12. 8			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	渡辺 彰	自治労	県職労
副議長	笹山 宏樹	電機労連協	東北沖電気労組
〃	萩生 孝行	自動車総連	福島日産モーター労組
〃	高橋 直	ゼンキン連合	北東衡機労組
〃	伏見 吉弘	情報労連	全電通福島分会
〃	五十嵐 秀夫	JR総連	JR総連東労組仙台地本
事務局長	栗野 啓二	ゼンセン同盟	日東紡労組
事務局次長	村上 正広	電力総連	ユアテックユニオン福島分会
〃	佐藤 正英	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	遠藤 親玉	全通	福島地方支部
幹事	半沢 勝行	金属機械	東海工業支部
〃	佐久間 敦	一般同盟	福島ワコール縫製労組
〃	佐久間 正男	交通労連	全福島ハイ・タク労組庭坂支部
〃	加藤 規明	運輸労連	全日通福島分会
〃	山岸 英寿	全国一般	福島中央計算センター分会
〃	石川直二郎	全自交労連	福島支部
〃	郡司 守進	国交総連	福島農政分会
〃	菅野 昭一	ゴム労連	福島ゴム労組
〃	瓜生 忠夫	全水道	福島水道労組
〃	井上 和應	森林労連	全林野福島営林署分会
〃	鈴木 信一	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	朝倉 靖夫	政労連	支払基金労組
〃	高野 三郎	JR連合	福島県支部福島駅連合分会
〃	鈴木 浩三	建設連合	建設省職員組合
オブ加盟幹事	佐藤 浩二	労福労連	労働金庫本店支部
会計監査	渡辺 直行	全郵政	福島地方支部
〃	小島 行弘	NHK労連	福島・いわき分会

福島地区連合歴代役員

第5回 1995.11.29			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議 長	渡 辺 彰	自治労	県職労
議長代理	笹 山 宏 樹	電機労連協	東北沖電気労組
副 議 長	佐 藤 真 一	ゼンキン連合	NOKグループ労組
〃	五十嵐 秀 夫	JR総連	JR東労組福島支部
〃	斎 藤 隆 一	自動車総連	福島製鋼労組
〃	伏 見 吉 弘	情報労連	全電通福島分会
事務局長	栗 野 啓 二	ゼンセン同盟	日東紡労組
事務局次長	佐 藤 正 英	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	村 上 正 広	電力総連	ユアテックユニオン福島分会
〃	遠 藤 親 玉	全通	福島地方支部
幹 事	佐 久 間 正 男	交通労連	全福島ハイ・タク労組庭坂支部
〃	斎 藤 俊 市	金属機械	東海工業支部
〃	大 槻 政 好	全自交労連	福島支部
〃	佐 久 間 敦	一般同盟	福島ワコール縫製労組
〃	加 藤 規 明	運輸労連	全日通福島分会
〃	山 岸 英 寿	全国一般	福島中央計算センター分会
〃	瓜 生 忠 夫	全水道	福島水道労組
〃	郡 司 守 進	国交総連	全農林福島農政分会
〃	小 椋 錠 司	政労連	基金労組福島支部
〃	手 代 木 功 成	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	菅 野 昭 一	ゴム労連	福島ゴム労組
〃	今 野 幸 廣	森林労連	全林野福島営林署分会
〃	高 野 三 郎	JR連合	鉄産福島地区分連協
〃	鈴 木 浩 三	建設連合	建設省職員組合
オプ加盟幹事	遠 藤 靖 弘	労福労連	労働金庫労組本店支部
会計監査	渡 辺 直 行	全郵政	福島地方支部
〃	大 塚 秋 人	NHK労連	福島・いわき分会

第6回 1996.12.11			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議 長	渡 辺 彰	自治労	県職労
議長代理	笹 山 宏 樹	電機労連協	東北沖電気労組
副 議 長	佐 藤 真 一	ゼンキン連合	NOKグループ労組
〃	安 田 和 広	JR総連	JR東労組福島支部
〃	斎 藤 隆 一	自動車総連	福島製鋼労組
〃	伏 見 吉 弘	情報労連	全電通福島山下分会
事務局長	栗 野 啓 二	ゼンセン同盟	日東紡労組
事務局次長	三 浦 一 男	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	渡 辺 吉 喜	電力総連	ユアテックユニオン福島分会
〃	遠 藤 親 玉	全通	福島地方支部
幹 事	佐 久 間 正 男	交通労連	全福島ハイ・タク労組
〃	斎 藤 俊 市	金属機械	東海工業支部
〃	大 槻 政 好	全自交労連	福島支部
〃	渡 辺 義 明	CSG連合	福島ワコール縫製労組
〃	加 藤 規 明	運輸労連	全日通福島地協
〃	山 岸 英 寿	全国一般	福島中央計算センター
〃	瓜 生 忠 夫	全水道	福島水道労組
〃	稲 川 浩 美	国交総連	全農林福島農政分会
〃	小 椋 錠 司	政労連	基金労組福島支部
〃	手 代 木 功 成	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	菅 野 昭 一	ゴム労連	福島ゴム労組
〃	大 倉 冬 樹	森林労連	全林野福島営林署分会
〃	高 野 三 郎	JR連合	鉄産福島地区分連協
〃	鈴 木 浩 三	建設連合	建設省職員組合
オプ加盟幹事	渡 辺 一 也	労福労連	労働金庫労組本店支部
会計監査	渡 辺 直 行	全郵政	福島地方支部
〃	富 山 勲 夫	NHK労連	福島・いわき分会

第7回 1997.11.15			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議 長	小 山 勝 也	電機連合	北芝電機労組
議長代理	山 本 泰 博	ゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
副 議 長	高 木 克 尚	自治労	福島市役所職員労組
〃	斎 藤 隆 一	自動車総連	福島製鋼労組
〃	吉 田 三 知 也	ゼンキン連合	永沢工機労組
〃	紺 野 清 彦	情報労連	全電通福島花園分会
〃	鈴 木 長 治	私鉄総連	私鉄福島交通労組福島支部
〃	安 田 和 広	JR総連	JR東労組福島支部
〃	鈴 木 和 美	全郵政	全郵政福島地方支部
事務局長	菅 野 敏 夫	連合福島	
事務局次長	村 井 敏 美	電力総連	東北電力労組福島支店支部
〃	菅 野 栄 次 郎	全通	全通福島地方支部
〃	菅 野 貞 夫	自治労	県職労県北ブロック協議会
〃	服 部 喜 博	電機連合	福島日本電気労組
幹 事	清 野 義 孝	ゼンセン同盟	日東加工労組
〃	磨 古 則	金属機械	東開工業支部
〃	渡 辺 義 明	CSG連合	福島ワコール縫製労組
〃	菅 野 満	交通労連	全福島ハイタク労組福島貸切
〃	高 城 秀 雄	商業労連	ダックシティー労組ビレ支部
〃	山 岸 英 寿	全国一般	福島中央計算センター労組
〃	加 藤 規 明	運輸労連	全日通福島地協
〃	斎 藤 敏 夫	食品連合	全森永労組福島支部
〃	大 槻 政 好	全自交労連	全自交福島支部
〃	稲 川 浩 美	国公総連	全農林東北地本福島南分会
〃	菅 野 昭 一	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	瓜 生 忠 夫	全水道	福島水道労組
〃	今 野 幸 廣	森林労連	全林野福島営林署分会
〃	漆 間 郁 夫	NHK労連	福島・いわき分会
〃		建設連合	
〃	多 田 吉 男	政労連	基金労組福島支部
〃	阿 部 繁 則	労金労組	労金西支店支部
〃	斎 藤 仁 一	青年連絡会	川俣町職員労組
会計監査	手 代 木 功 成	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	山 田 友 弘	JR連合	ジェイアールグリーンユニオン支部
職 員	渡 辺 佐 久 子		

第8回 1998.10.28			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議 長	山 本 泰 博	ゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
副 議 長	高 木 克 尚	自治労	福島市役所職員労組
〃	大 槻 利 一	自動車総連	福島製鋼労組
〃	吉 田 三 知 也	ゼンキン連合	永沢工機労組
〃	紺 野 清 彦	情報労連	NTT労組TE福島分会
〃	鈴 木 長 治	私鉄総連	私鉄福島交通労組福島支部
〃	安 田 和 広	JR総連	JR東労組福島支部
〃	伊 藤 松 男	全郵政	全郵政福島地方支部
〃	服 部 喜 博	電機連合	福島日本電気労組
事務局長	菅 野 敏 夫	連合福島	
事務局次長	村 井 敏 美	電力総連	東北電力労組福島支店支部
〃	菅 野 栄 次 郎	全通	全通福島地方支部
〃	菅 野 貞 夫	自治労	県職労県北ブロック協議会
〃	菅 野 俊 之	電機連合	北芝電機労組
幹 事	清 野 義 孝	ゼンセン同盟	日東加工労組
〃	磨 古 則	金属機械	東開工業支部
〃	青 田 裕 之	CSG連合	福島ワコール縫製労組
〃	菅 野 満	交通労連	全福島ハイタク労組福島貸切
〃	高 城 秀 雄	商業労連	ダックシティー労組ビレ支部
〃	山 岸 英 寿	全国一般	福島中央計算センター労組
〃	加 藤 規 明	運輸労連	全日通福島地協
〃	斎 藤 敏 夫	食品連合	全森永労組福島支部
〃	大 槻 政 好	全自交労連	全自交福島支部
〃	三 浦 昌 典	国公総連	全農林東北地本福島南分会
〃	菅 野 昭 一	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	瓜 生 忠 夫	全水道	福島水道労組
〃	今 野 幸 廣	森林労連	全林野福島営林署分会
〃	小 原 良 之	NHK労連	福島・いわき分会
〃		建設連合	
〃	多 田 吉 男	政労連	基金労組福島支部
〃	大 沼 達 也	労金労組	労金西支店支部
〃	斎 藤 仁 一	青年連絡会	川俣町職員労組
会計監査	丹 野 眞 宏	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	安 田 裕 之	JR連合	ジェイアールグリーンユニオン支部
職 員	湯 浅 貞 子		

※県北地域連合は連絡調整機関へ(1997.11.15)

第9回 1999.11.11			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	山本 泰博	ゼンセン同盟	日東紡労組福島支部
議長代理	高木 克尚	自治労	福島市役所職員労組
副議長	大槻 利一	自動車総連	福島製鋼労組
〃	服部 喜博	電機連合	福島日本電気労組
〃	高橋 直	JAM福島	北東衡機労組
〃	寺島 秀樹	情報労連	NTT労組花園直轄分会
〃	鈴木 長治	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	安田 和広	JR総連	JR東労組福島支部
〃	鈴木 和美	全郵政	福島地方支部
事務局長	林 彪	連合福島	
事務局次長	渡部 泰弘	自治労	県職労県北方部協議会
〃	高橋 正之	電機連合	東北ムネカタ労組
〃	枝浪 功次	電力総連	東北電力労組福島支店支部
〃	菅野 栄次郎	全通	福島地方支部
幹事	清野 義孝	ゼンセン同盟	日東加工労組
〃	青田 裕之	CSG連合	福島ワコール縫製労組
〃	菅野 満	交通労連	全福島ハイタク労組福島員切取支部
〃	阿部 研也	商業労連	ダックシティー労組ビブレ支部
〃	山岸 英寿	全国一般	福島中央計算センター労組
〃	郡司 修	運輸労連	全日通福島地協
〃	斎藤 敏夫	食品連合	全森永労組福島支部
〃	大槻 政好	全自交労連	全自交福島支部
〃	三浦 昌典	国公総連	全農林東北地方本部福島南分会
〃	菅野 昭一	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	瓜生 忠夫	全水道	福島水道労組
〃	松尾 秀行	森林労連	全林野労組福島森林管理署分会
〃	嶋田 樹哉	NHK労連	福島・いわき分会
〃	斎藤 博実	建設連合	建設省職員組合福島支部
〃	佐久間 秀樹	政労連	基金労組福島支部
〃	大沼 達也	労金労組	労金西支店支部
〃	斎藤 仁一	青年連絡会	川俣町職労
会計監査	丹野 眞宏	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	長沼 清治	JR連合	ジェイアールグリーンユニオン支部
職員	湯浅 貞子		

第10回 2000.11.8			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	服部 喜博	電機連合	NECワイヤレスネットワークス労組
議長代理	高木 克尚	自治労	福島市職労
副議長	三浦 伸之	自動車総連	福島製鋼労組
〃	栗野 啓二	ゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
〃	高橋 直	JAM	北東衡機労組
〃	寺島 秀樹	情報労連	NTT労組花園直轄分会
〃	鈴木 長治	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	安田 和広	JR総連	JR東労組福島支部
〃	佐藤 洋一	全郵政	福島地方支部
事務局長	林 彪	連合福島	
事務局次長	渡部 泰弘	自治労	県職労県北方部協議会
〃	高橋 正之	電機連合	東北ムネカタ労組
〃	枝浪 功次	電力総連	東北電力労組福島支店支部
〃	菅野 栄次郎	全通	福島地方支部
幹事	清野 義孝	ゼンセン同盟	日東加工労組
〃	青田 裕之	CSG連合	福島ワコール縫製労組
〃	大内 勝市	交通労連	全福島ハイヤータクシー労組
〃	阿部 研也	商業労連	ダックシティー労組ビブレ支部
〃	山岸 英寿	全国一般	福島中央計算センター労組
〃	郡司 修	運輸労連	全日通福島地協
〃	斎藤 敏夫	食品連合	全森永労組福島支部
〃	大槻 政好	全自交労連	全自交福島支部
〃	菅野 光一	国公総連	全農林東北地本福島南分会
〃	菅野 昭一	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	瓜生 忠夫	全水道	福島水道労組
〃	松尾 秀行	森林労連	全林野労組福島森林管理署分会
〃	上野 速人	NHK労連	福島・いわき分会
〃	渡辺 靖	建設連合	建設省職員組合福島支部
〃	佐久間 秀樹	政労連	基金労組福島支部
〃	菅野 常広	労金労組	労金労組本店支部
〃	斎藤 仁一	青年連絡会	川俣町職労
会計監査	丹野 眞宏	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	長沼 清治	JR連合	JRグリーンユニオン支部
職員	湯浅 貞子		

第11回 2001.11.28			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	服部 喜博	電機連合	NECワイヤレスネットワークス労組
副議長	高木 克尚	自治労	福島市職労
〃	三浦 伸之	自動車総連	福島製鋼労組
〃	栗野 啓二	ゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
〃	高橋 直	JAM	北東衡機労組
〃	高橋 秀樹	情報労連	NTT労組花園直轄分会
〃	鈴木 長治	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	安田 和広	JR総連	JR東労組福島支部
〃	佐藤 洋一	全郵政	福島地方支部
事務局長	林 彪	連合福島	
事務局次長	渡部 泰弘	自治労	県職労県北方部協議会
〃	高橋 正之	電機連合	東北ムネカタ労組
〃	左雨 斎	電力総連	東北電力労組福島支店支部
〃	菅野 栄次郎	全通	福島地方支部
幹事	清野 義孝	ゼンセン同盟	日東加工労組
〃	青田 裕之	CSG連合	福島ワコール縫製労組
〃	大内 勝市	交通労連	全福島ハイタク労組
〃	阿部 研也	サービス・流通連合	ダックシティー労組ビブレ支部
〃	山岸 英寿	全国一般	福島中央計算センター労組
〃	福原 将弘	運輸労連	全日通福島地協
〃	伊藤 薫	食品連合	全森永労組福島支部
〃	大槻 政好	全自交労連	全自交福島支部
〃	菅野 光一	国公総連	全農林東北地本福島南分会
〃	菅野 昭一	ゴム連合	福島ゴム産業労組
〃	瓜生 忠夫	全水道	福島水道労組
〃	松尾 秀行	森林労連	全林野労組福島森林管理署分会
〃	戸田 順	NHK労連	福島・いわき分会
〃	渡辺 靖	建設連合	建設省職員組合福島支部
〃	菊池 央樹	政労連	基金労組福島支部
〃	菅野 常広	労金労組	労金労組本店支部
〃	斎藤 仁一	青年連絡会	川俣町職労
会計監査	横山 利幸	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	析窪 長男	JR連合	ジェイアール東日本労組福島県支部
職員	湯浅 貞子		

第12回 2002.11.9			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	服部 喜博	電機連合	NECワイヤレスネットワークス労組
副議長	高木 克尚	自治労	福島市職労
〃	木村 英治	自動車総連	福島製鋼労組
〃	栗野 啓二	UIゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
〃	高橋 直	JAM	北東衡機労組
〃	高橋 秀樹	情報労連	NTT労組福島分会花園部会
〃	鈴木 長治	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	安田 和広	JR総連	JR東労組福島支部
〃	渡部 宏之	全郵政	福島地方支部
事務局長	林 彪	連合福島	
事務局次長	渡部 泰弘	自治労	県職労県北方部協議会
〃	高橋 正之	電機連合	東北ムネカタ労組
〃	左雨 斎	電力総連	東北電力労組福島支店支部
〃	菅野 栄次郎	全通	福島地方支部
幹事	清野 義孝	UIゼンセン同盟	日東加工労組
〃	青田 裕之	UIゼンセン同盟	福島ワコール縫製労組
〃	大内 勝市	交通労連	全福島ハイヤータクシー労組
〃	阿部 研也	サービス・流通連合	さくら野百貨店労組福島支部
〃	山岸 英寿	全国一般	福島中央計算センター労組
〃	福原 将弘	運輸労連	全日通福島地協
〃	伊藤 薫	食品連合	全森永労組福島支部
〃	大槻 政好	全自交労連	全自交福島支部
〃	菅野 光一	国公総連	全農林東北地本福島南分会
〃	菅野 昭一	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	瓜生 忠夫	全水道	福島水道労組
〃	松尾 秀行	森林労連	全林野労組福島森林管理署分会
〃	田村 康	NHK労連	福島・いわき分会
〃	渡辺 靖	建設連合	建設省職員組合福島支部
〃	菊池 央樹	政労連	基金労組福島支部
〃	菅野 常広	全労金	労金労組福島県支部福島分会
〃	斎藤 仁一	青年連絡会	川俣町職労
会計監査	横山 利幸	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	菅野 善之	JR連合	ジェイアール東日本労組福島県支部
職員	湯浅 貞子		

福島地区連合歴代役員

第13回 2003.11.29			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議 長	須 藤 政 浩	情報労連	NTT労組福島分会LMC部会
副 議 長	今 野 泰	自治労	福島市職労
〃	紺 野 孝 幸	UIゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
〃	高 橋 正 之	電機連合	東北ムネカタ労組
〃	菅 藤 利 和	自動車総連	福島製鋼労組
〃	井 場 利 明	JAM	協三工業労組
〃	三ノ輪 好 昭	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	安 田 和 広	JR総連	JR東労組福島支部
〃	渡 部 宏 之	全郵政	福島地方支部
事務局長	林 彪	連合福島	
事務局次長	菅 野 貞 夫	自治労	県職労県北方部協議会
〃	渡 部 公 幸	電力総連	東北電力労組福島支店支部
〃	菅野 栄 次 郎	全通	福島地方支部
幹 事	菅 野 一 喜	情報労連	NTT労組福島分会花園部会
〃	荒 沢 重 雄	交通労連	福島貸切辰巳屋労組
〃	佐 藤 浩 明	サービス・流通連合	さくら野百貨店労組福島支部
〃	山 岸 英 寿	全国一般	福島中央計算センター労組
〃	福 原 将 弘	運輸労連	全日通福島地協
〃	吉 田 鉄 弥	フード連合	全森永労組福島支部
〃	樋 口 徳 彦	全自交労連	全自交福島支部
〃	菅 野 光 一	国公総連	全農林東北地本福島南分会
〃	関 根 新	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	瓜 生 忠 夫	全水道	福島水道労組
〃	松 尾 秀 行	森林労連	全林野組福島森林管理署分会
〃	田 村 康	NHK労連	福島県域分会
〃	菊 池 敏 光	政労連	基金労組福島支部
〃	菅 野 常 広	全労金	労金労組福島県支部福島分会
〃	武 藤 吉 信	県北青年連絡会	自治労飯野町職労
会計監査	横 山 利 幸	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	菅 野 善 之	JR連合	ジェイアール東日本労組福島県支部
職 員	湯 浅 貞 子		

第14回 2004.11.27			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議 長	須 藤 政 浩	情報労連	NTT労組福島分会LMC部会
副 議 長	今 野 泰	自治労	福島市職労
〃	紺 野 孝 幸	UIゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
〃	高 橋 正 之	電機連合	東北ムネカタ労組
〃	菅 藤 利 和	自動車総連	福島製鋼労組
〃	井 場 利 明	JAM	協三工業労組
〃	三ノ輪 好 昭	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	安 田 和 広	JR総連	JR東労組福島支部
〃	渡 部 宏 之	全郵政	福島地方支部
事務局長	林 彪	連合福島	
事務局次長	菅 野 貞 夫	自治労	県職労県北方部協議会
〃	渡 部 公 幸	電力総連	東北電力労組福島支店支部
〃	菅野 栄 次 郎	JPU	福島地方支部
幹 事	菅 野 一 喜	情報労連	NTT労組福島分会花園部会
〃	篠 木 春 男	交通労連	福島貸切辰巳屋労組
〃	佐 藤 浩 明	サービス・流通連合	さくら野百貨店労組福島支部
〃	山 岸 英 寿	全国一般	福島中央計算センター労組
〃	福 原 将 弘	運輸労連	全日通福島地協
〃	福 地 一 徳	フード連合	全森永労組福島支部
〃	樋 口 徳 彦	全自交労連	全自交福島支部
〃	菅 野 光 一	国公総連	全農林東北地本福島南分会
〃	菅 野 敏 信	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	今 福 三 郎	全水道	福島水道労組
〃	松 尾 秀 行	森林労連	全林野組福島森林管理署分会
〃	石 崎 達 也	NHK労連	福島県域分会
〃	佐 藤 達 也	政労連	基金労組福島支部
〃	高 橋 常 夫	全労金	労金労組福島県支部福島分会
〃	武 藤 吉 信	男女平等推進委員会	飯野町職労
会計監査	横 山 利 幸	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	菅 野 善 之	JR連合	ジェイアール東日本労組福島県支部
職 員	湯 浅 貞 子		

第15回 2005.11.26			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議 長	須 藤 政 浩	情報労連	NTT労組福島分会
議長代理	紺 野 孝 幸	UIゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
副 議 長	今 野 泰	自治労	福島市職労
〃	高 橋 正 之	電機連合	ムネカタ労組
〃	菅 藤 利 和	自動車総連	福島製鋼労組
〃	井 場 利 明	JAM	協三工業労組
〃	三ノ輪 好 昭	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	安 田 和 広	JR総連	JR東労組福島支部
〃	稲 垣 修 治	全郵政	福島地方支部
事務局長	林 彪	連合福島	
事務局次長	菅 野 貞 夫	自治労	県職労県北方部協議会
〃	梅 津 政 則	電力総連	東北電力労組福島支店支部
〃	菅野 栄 次 郎	JPU	福島地方支部
幹 事	小 荒 井 時 雄	情報労連	NTT労組福島分会大町部会
〃	篠 木 春 男	交通労連	福島貸切辰巳屋労組
〃	菅 野 善 之	JR連合	ジェイアール東日本労組福島県支部
〃	山 岸 英 寿	全国一般	福島中央計算センター分会
〃	福 原 将 弘	運輸労連	全日通福島地協
〃	福 地 一 徳	フード連合	全森永労組福島支部
〃	阿 部 眞	全自交労連	全自交福島支部
〃	菅 野 光 一	国公総連	全農林東北地本福島分会
〃	菅 野 敏 信	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	今 福 三 郎	全水道	福島水道労組
〃	松 尾 秀 行	森林労連	林野労組福島森林管理署分会
〃	坂 田 修 一	NHK労連	福島県域分会
〃	佐 藤 達 也	政労連	基金労組福島支部
〃	高 橋 常 夫	全労金	労金労組福島県支部福島分会
〃	二 瓶 修 爾	ヘルスケア労協	福島中央市民医療生協労組
会計監査	伊 藤 雅 恵	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	佐 藤 昭 久	労済労連	全労済労組福島支部
職 員	湯 浅 貞 子		

第16回 2006.12. 2			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議 長	須 藤 政 浩	情報労連	NTT労組福島分会
議長代理	紺 野 孝 幸	UIゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
副 議 長	今 野 泰	自治労	福島市職労
〃	高 橋 正 之	電機連合	ムネカタ労組
〃	菅 藤 利 和	自動車総連	福島製鋼労組
〃	井 場 利 明	JAM	協三工業労組
〃	三ノ輪 好 昭	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	安 田 和 広	JR総連	JR東労組福島支部
〃	小 野 靖	全郵政	福島地方支部
事務局長	林 彪	連合福島	
事務局次長	藤 田 一 浩	自治労	県職労県北方部協議会
〃	大 槻 光 政	電力総連	東北電力労組福島支店支部
〃	菅野 栄 次 郎	JPU	福島地方支部
幹 事	小 荒 井 時 雄	情報労連	NTT労組福島分会大町部会
〃	篠 木 春 男	交通労連	福島貸切辰巳屋労組
〃	菅 野 善 之	JR連合	ジェイアール東日本労組福島県支部
〃	山 岸 英 寿	全国一般	福島中央計算センター分会
〃	福 原 将 弘	運輸労連	全日通福島地協
〃	福 地 一 徳	フード連合	全森永労組福島支部
〃	渡 辺 進	全自交労連	全自交福島支部
〃	大 内 良 勝	国公総連	全農林東北地本福島分会
〃	渡 辺 浩	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	今 福 三 郎	全水道	福島水道労組
〃	松 尾 秀 行	森林労連	林野労組福島森林管理署分会
〃	坂 田 修 一	NHK労連	福島県域分会
〃	佐 藤 達 也	政労連	基金労組福島支部
〃	高 野 慶 一	全労金	労金労組福島県支部福島分会
〃	二 瓶 修 爾	ヘルスケア労協	福島中央市民医療生協労組
会計監査	佐 藤 昭 久	労済労連	福島銀行従業員組合
〃	渡 辺 豊	全銀連合	全労済労組福島支部
職 員	湯 浅 貞 子		

第17回 2007.12. 1			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	須藤 政 浩	情報労連	NTT労組東北総支部
議長代理	紺野 孝 幸	UIゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
副議長	今野 泰	自治労	福島市職労
〃	高橋 正之	電機連合	ムネカタ労組
	菊田 浩和		沖データシステムズ労組
〃	菅藤 利和	自動車総連	福島製鋼労組
〃	井場 利明	JAM	協三工業労組
〃	三ノ輪 好昭	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	安田 和 広	JR総連	JR東労組福島支部
〃	小野 靖	全郵政	福島地方支部
事務局長	林 彪	連合福島	
事務局次長	丹野 徳男	自治労	県職連合県北方協議会
〃	大槻 光政	電力総連	東北電力労組福島支店支部
〃	菅野 栄次郎	JPU	福島県北支部
幹 事	小荒 井時雄	情報労連	NTT労組福島分会LMC部会
〃	篠木 春男	交通労連	福島貸切辰巳屋労組
〃	菅野 善之	JR連合	ジェイアール東日本労組福島県支部
〃	山岸 英寿	全国一般	福島中央計算センター分会
〃	福原 将弘	運輸労連	全日通福島地協
〃	高橋 賢	フード連合	全森永労組福島支部
〃	渡辺 進	全自交労連	全自交福島支部
〃	大内 良勝二	国公総連	全農林東北地本福島分会
〃	渡辺 浩	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	今福 三郎	全水道	福島水道労組
〃	塚原 康博	森林労連	林野労組福島森林管理署分会
〃	梅田 啓稔	NHK労連	福島県域分会
〃	阿曾 佳一	政労連	基金労組福島支部
〃	下斗 米広実	全労金	労金労組福島県支部福島分会
〃	宮口 正稔	ヘルスケア労協	福島中央市民医療生協労組
会計監査	渡辺 豊	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	市瀬 務	労済労連	全労済労組福島支部
職 員	湯浅 貞子		

第18回 2008.11.29			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	須藤 政 浩	情報労連	NTT労組東北総支部
議長代理	紺野 孝 幸	UIゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
副議長	今野 泰	自治労	福島市職労
〃	菊田 浩和	電機連合	沖データシステムズ労組
〃	菅藤 利和	自動車総連	福島製鋼労組
〃	井場 利明	JAM	協三工業労組
〃	三ノ輪 好昭	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	安田 和 広	JR総連	JR東労組福島支部
事務局長	林 彪	連合福島	
事務局次長	丹野 徳男	自治労	県職連合県北方協議会
〃	大槻 光政	電力総連	東北電力労組福島支店支部
〃	菅野 栄次郎	JP労組	福島県北支部
幹 事	大和 修	情報労連	NTT労組福島分会LMC部会
〃	佐藤 芳一	交通労連	福島貸切辰巳屋労組
〃	菅野 善之	JR連合	ジェイアール東日本労組福島県支部
〃	山岸 英寿	全国一般	福島中央計算センター分会
〃	福原 将弘	運輸労連	全日通福島地協
〃	高橋 賢	フード連合	全森永労組福島支部
〃	渡辺 進	全自交労連	全自交福島支部
〃	佐藤 啓二	国公総連	全農林東北地本福島分会
〃	渡辺 浩	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	今福 三郎	全水道	福島水道労組
〃	塚原 康博	森林労連	林野労組福島森林管理署分会
〃	梅田 啓稔	NHK労連	福島県域分会
〃	菊池 敏光	政労連	基金労組福島支部
〃	下斗 米広実	全労金	労金労組福島県支部福島分会
〃	宮口 正稔	ヘルスケア労協	福島中央市民医療生協労組
会計監査	渡辺 豊	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	市瀬 務	労済労連	全労済労組福島支部
職 員	湯浅 貞子		

第19回 2009.12. 5			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	紺野 孝 幸	UIゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
議長代理	大槻 光政	電力総連	東北電力労組福島支店支部
副議長	今野 泰	自治労	福島市職労
〃	菊田 浩和	電機連合	沖データシステムズ労組
〃	菅藤 利和	自動車総連	福島製鋼労組
〃	井場 利明	JAM	協三工業労組
〃	斎藤 春夫		東開工業労組
〃	安田 和 広	JR総連	JR東労組福島支部
〃	大和 修	情報労連	NTT労組福島分会LMC部会
事務局長	林 彪	連合福島	
事務局次長	斎藤 真一	自治労	県職連合県北方協議会
〃	菅野 栄次郎	JP労組	福島県北支部
〃	紺野 淳	私鉄総連	福島交通労組福島支部
幹 事	宮部 和昌	UIゼンセン同盟	日東加工労組
〃	佐藤 芳一	交通労連	福島貸切辰巳屋労組
〃	菅野 善之	JR連合	ジェイアール東日本労組福島県支部
〃	福原 将弘	運輸労連	全日通福島地協
〃	國井 大輔	フード連合	全森永労組福島支部
〃	渡辺 進	全自交労連	全自交福島支部
〃	大槻 政好	国公総連	全農林東北地本福島分会
〃	佐藤 啓二	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	今福 三郎	全水道	福島水道労組
〃	瓜生 忠夫		
〃	塚原 康博	森林労連	林野労組福島森林管理署分会
〃	三浦 俊紀		
〃	三井 光博	JSD	全中合労組
〃	齋藤 洋	政労連	基金労組福島支部
〃	菅野 庄一	全労金	労金労組福島県支部福島分会
〃	植村 正和		
〃	宮口 正稔	ヘルスケア労協	福島中央市民医療生協労組
〃	雉子 波 亨	青年女性連絡会	JP労組福島県北支部
会計監査	古内 秀一	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	片平 敦	労済労連	全労済労組福島支部
〃	佐藤 敏幸		
職 員	湯浅 貞子		

第20回 2010.12. 4			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	紺野 孝 幸	UIゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
議長代理	大槻 光政	電力総連	東北電力労組福島支店支部
副議長	邛松 秀紀	自治労	福島市職労
〃	菊田 浩和	電機連合	沖データシステムズ労組
〃	菅藤 利和	自動車総連	福島製鋼労組
〃	斎藤 春夫	JAM	東開工業労組
〃	安田 和 広	JR総連	JR東労組福島支部
〃	大和 修	情報労連	NTT労組福島分会LMC部会
事務局長	林 彪	連合福島	
事務局次長	斎藤 真一	自治労	県職連合県北方協議会
〃	菅野 栄次郎	JP労組	福島県北支部
〃	紺野 淳	私鉄総連	福島交通労組福島支部
幹 事	宮部 和昌	ゼンセン同盟	日東加工労組
〃	佐藤 芳一	交通労連	福島貸切辰巳屋労組
〃	菅野 善之	JR連合	ジェイアール東日本労組福島県支部
〃	福原 将弘	運輸労連	全日通福島地協
〃	國井 大輔	フード連合	全森永労組福島支部
〃	大槻 政好	全自交労連	全自交福島支部
〃	佐藤 啓二	国公総連	全農林東北地本福島分会
〃	渡辺 浩	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	瓜生 忠夫	全水道	福島水道労組
〃	三浦 俊紀	森林労連	林野労組福島森林管理署分会
〃	三井 光博	JSD	全中合労組
〃	阿部 一洋		
〃	齋藤 洋治	政労連	基金労組福島支部
〃	植村 正和	全労金	労金労組福島県支部福島分会
〃	佐藤 仁	ヘルスケア労協	福島中央市民医療生協労組
〃	雉子 波 亨	青年女性連絡会	JP労組福島県北支部
会計監査	古内 秀一	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	佐藤 敏幸	労済労連	全労済労組福島支部
職 員	湯浅 貞子		

第21回 2011.12.3			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	紺野 孝幸	UIゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
議長代理	邨松 秀紀	自治労	福島市職労
副議長	井上 正	電機連合	ムネカタ労組
〃	菅藤 利和	自動車総連	福島製鋼労組
〃	半澤 善伸	JAM	福島製作所労組
〃	安田 和広	JR総連	JR東労組福島支部
〃	大和 修	情報労連	NTT労組福島分会LMC部会
事務局長	紺野 淳	私鉄総連・専従	福島交通労組福島支部
事務局次長	斎藤 真一 根本 久男	自治労	県職連合県北方部協議会
〃	菅野 栄次郎	JP労組	福島県北支部
〃	伊豫田 敬	電力総連	東北電力労組福島支店支部
幹事	宮部 和昌	UIゼンセン同盟	日東加工労組
〃	村上 伸一郎	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	佐藤 芳一	交通労連	福島貸切辰巳屋労組
〃	関根 隆文	JR連合	ジェイアール東日本労組福島県支部
〃	福原 将弘	運輸労連	全日通福島地協
〃	國井 大輔	フード連合	全森永労組福島支部
〃	中里 正志	全自交労連	全自交福島支部
〃	佐藤 啓二	国公総連	全農林東北地本福島分会
〃	渡辺 浩	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	瓜生 忠夫	全水道	福島水道労組
〃	三浦 俊紀	森林労連	林野労組福島森林管理署分会
〃	阿部 一洋	JSD	全中合労組
〃	佐藤 広治	政労連	基金労組福島支部
〃	植村 正和 松崎 裕介	全労金	東北労金労組福島分会
〃	佐藤 仁	ヘルスケア労協	福島中央市民医療生協労組
〃	雉子波 亨 渡邊 直樹	青年女性連絡会	JP労組県北支部
会計監査	古内 秀一 山本 篤史	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	丹野 寿夫	労済労連	全労済労組福島支部
職員	湯浅 貞子		

第22回 2012.12.1			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	紺野 孝幸	UAゼンセン	日東紡績労組福島支部
議長代理	邨松 秀紀	自治労	福島市職労
副議長	井上 正	電機連合	ムネカタ労組
〃	菅藤 利和	自動車総連	福島製鋼労組
〃	半澤 善伸	JAM	福島製作所労組
〃	安田 和広	JR総連	JR東労組福島支部
〃	大和 修	情報労連	NTT労組福島分会LMC部会
事務局長	紺野 淳	私鉄総連	福島交通労組福島支部
事務局次長	根本 久男	自治労	県職連合県北方部協議会
〃	菅野 栄次郎	JP労組	福島県北支部
〃	伊豫田 敬	電力総連	東北電力労組福島支店支部
幹事	田中 貴之	UAゼンセン	日東加工労組
〃	村上 伸一郎	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	斉藤 健寿	交通労連	全福島ハイヤータクシー労組飯坂支部
〃	関根 隆文	JR連合	ジェイアール東日本労組福島県支部
〃	福原 将弘	運輸労連	全日通福島地協
〃	國井 大輔	フード連合	全森永労組福島支部
〃	中里 正志	全自交労連	全自交福島支部
〃	佐藤 啓二	国公総連	全農林東北地本福島分会
〃	渡辺 浩	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	鈴木 健康 瓜生 忠夫 南 芳克	全水道	福島水道労組
〃	三浦 俊紀	森林労連	林野労組福島森林管理署分会
〃	阿部 一洋	UAゼンセン	全中合労組
〃	佐藤 広治	政労連	基金労組福島支部
〃	松崎 裕介	全労金	労金労組福島県支部福島分会
〃	村上 雄児	ヘルスケア労協	福島中央市民医療生協労組
〃	渡邊 直樹	青年女性連絡会	JP労組福島県北支部
会計監査	山本 篤史	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	丹野 寿夫	労済労連	全労済労組福島支部
職員	湯浅 貞子		

第23回 2013.11.30			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	伊藤 秀治	電機連合	NECネットワークプロダクツ労組
副議長	鈴木 茂	自治労	福島市職労
〃	成田 威文	UAゼンセン	日東紡績労組福島支部
〃	菅藤 利和	自動車総連	福島製鋼労組
〃	半澤 善伸	JAM	福島製作所労組
〃	安田 和広	JR総連	JR東労組福島支部
〃	大和 修	情報労連	NTT労組福島分会LMC部会
〃	伊豫田 敬	電力総連	東北電力労組福島支店支部
〃	村上 伸一郎	私鉄総連	福島交通労組福島支部
事務局長	紺野 淳	私鉄総連	福島交通労組福島支部
事務局次長	根本 久男	自治労	県職連合県北方部協議会
〃	井上 正	電機連合	ムネカタ労組
〃	野田 浩史	JP労組	福島県北支部
幹事	阿部 一洋	UAゼンセン	全中合労組
〃	斉藤 健寿	交通労連	全福島ハイヤータクシー労組飯坂支部
〃	関根 隆文	JR連合	ジェイアール東日本労組福島県支部
〃	福原 将弘	運輸労連	全日通福島地協
〃	深谷 太樹	フード連合	全森永労組福島支部
〃	中里 正志	全自交労連	全自交福島支部
〃	佐藤 啓二 橋本 高輝	国公総連	全農林東北地本福島分会
〃	鈴木 健康	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	南 芳克	全水道	福島水道労組
〃	三浦 俊紀 栗本 誠一	森林労連	林野労組福島森林管理署分会
〃	佐藤 広治	政労連	基金労組福島支部
〃	松崎 裕介	全労金	労金労組福島県支部福島分会
〃	村上 雄児	ヘルスケア労協	きらり健康生協労組
〃	渡邊 直樹	青年女性連絡会	JP労組福島県北支部
会計監査	山本 篤史	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	鈴木 剛 村上 侑	労済労連	全労済労組福島支部
職員	湯浅 貞子		

第24回 2014.12.6			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	伊藤 秀治	電機連合	NECネットワークプロダクツ労組
副議長	鈴木 茂	自治労	福島市職労
〃	成田 威文	UAゼンセン	日東紡績労組福島支部
〃	阿部 伸昭	自動車総連	福島製鋼労組
〃	半澤 善伸 菅井 謙一	JAM	福島製作所労組
〃	安田 和広	JR総連	JR東労組福島支部
〃	大和 修	情報労連	NTT労組福島分会LMC部会
〃	但木 豪	電力総連	東北電力労組福島支店支部
〃	鈴木 良孝	私鉄総連	福島交通労組福島支部
事務局長	紺野 淳	私鉄総連	福島交通労組福島支部
事務局次長	根本 久男 大内 敦夫	自治労	県職連合県北方部協議会
〃	井上 正	電機連合	ムネカタ労組
〃	椎名 徳次	JP労組	福島県北支部
幹事	阿部 一洋	UAゼンセン	全中合労組
〃	斉藤 健寿	交通労連	全福島ハイヤータクシー労組飯坂支部
〃	斎藤 栄々夫	JR連合	JR東日本労働組合
〃	福原 将弘	運輸労連	全日通福島地協
〃	影井 克幸	フード連合	全森永労組福島支部
〃	中里 正志	全自交労連	全自交福島支部
〃	橋本 高輝	国公総連	全農林東北地本福島分会
〃	鈴木 健康 森木 翔	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	南 芳克	全水道	福島水道労組
〃	栗本 誠 泉田 利明	森林労連	林野労組福島森林管理署分会
〃	佐藤 広治	政労連	基金労組福島支部
〃	松崎 裕介 梅津 秀行	全労金	労金労組福島県支部福島分会
〃	八巻 洋介	ヘルスケア労協	きらり健康生協労組
〃	渡邊 直樹 安齋 隼人	青年女性連絡会	JP労組福島県北支部 東北電力労組福島支部
会計監査	山本 篤史	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	村上 侑	労済労連	全労済労組福島支部
職員	湯浅 貞子		

第25回 2015.12.5			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	伊藤 秀治	電機連合	NECネットワークプロダクツ労組
議長代理	成田 威文	UAゼンセン	日東紡績労組福島支部
副議長	鈴木 茂	自治労	福島市職労
〃	阿部 伸昭	自動車総連	福島製鋼労組
〃	菅井 謙一	JAM	福島製作所労組
〃	安田 和広	JR総連	JR東労組福島支部
〃	相馬 一浩	情報労連	NTT労組福島県分会山下部会
〃	佐藤 祐太	電力総連	東北電力労組福島支店支部
〃	鈴木 良孝	私鉄総連	福島交通労組福島支部
事務局長	紺野 淳	私鉄総連・専従	福島交通労組福島支部
事務局次長	大内 敦夫	自治労	県職連合県北方部協議会
〃	井上 正	電機連合	ムネカタ労組
〃	椎名 徳次	JP労組	福島県北支部
幹事	阿部 一洋	UAゼンセン	全中合労組
〃	斉藤 健寿	交通労連	全福島ハイヤータクシー労組飯坂支部
〃	関根 隆文	JR連合	ジェイアール・イーストエニオン労働組合
〃	福原 将弘	運輸労連	全日通福島地協
〃	向山 洋央	フード連合	全森永労組福島支部
〃	景井 克幸	全自交労連	全自交福島支部
〃	中里 正志	国公総連	全農林東北地本福島分会
〃	橋本 高輝	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	南 芳克	全水道	福島水道労組
〃	泉田 利明	森林労連	林野労組福島森林管理署分会
〃	佐藤 広治	政労連	支払基金労組福島支部
〃	梅津 秀行	全労金	東北労金労組福島分会
〃	八巻 洋介	ヘルスケア労協	きらり医療生協労組
〃	安齋 隼人	青年女性連絡会	東北電力労組福島支部
会計監査	山本 篤史	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	村上 侑	労済労連	全労済労組福島支部
職員	湯浅 貞子		

第26回 2016.12.3			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	伊藤 秀治	電機連合	NECネットワークプロダクツ労組
議長代理	成田 威文	UAゼンセン	日東紡績労組福島支部
副議長	大塚 友宏	自治労	福島市職労
〃	阿部 伸昭	自動車総連	福島製鋼労組
〃	菅井 謙一	JAM	福島製作所労組
〃	安田 和広	JR総連	JR東労組福島支部
〃	相馬 一浩	情報労連	NTT労組福島県分会山下部会
〃	佐藤 祐太	電力総連	東北電力労組福島支店支部
〃	鈴木 良孝	私鉄総連	福島交通労組福島支部
事務局長	紺野 淳	私鉄総連	福島交通労組福島支部
事務局次長	大内 敦夫	自治労	県職連合県北方部協議会
〃	井上 正	電機連合	ムネカタ労組
〃	椎名 徳次	JP労組	福島県北支部
幹事	阿部 一洋	UAゼンセン	全中合労組
〃	関根 隆文	JR連合	ジェイアール・イーストエニオン労働組合
〃	向山 洋央	運輸労連	全日通福島地協
〃	景井 克幸	フード連合	全森永労組福島支部
〃	大槻 政好	全自交労連	全自交福島支部
〃	橋本 高輝	国公総連	全農林福島分会
〃	佐藤 利光	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	南 芳克	全水道	福島水道労組
〃	泉田 利明	森林労連	林野労組福島森林管理署分会
〃	佐藤 広治	政労連	基金労組福島支部
〃	藤原 倫之	全労金	労金労組福島県支部福島分会
〃	八巻 洋介	ヘルスケア労協	きらり健康生協労組
〃	安齋 隼人	青年女性連絡会	東北電力労組福島支部
〃	幕田 利英		ダイユーエイトユニオン
〃	菅野 修弘		ダイユーエイトユニオン
会計監査	山本 篤史	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	村上 侑	労済労連	全労済労組福島支部
職員	湯浅 貞子		

第27回 2017.12.2			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	成田 威文	UAゼンセン	日東紡績労組福島支部
議長代理	大塚 友宏	自治労	福島市職労
副議長	伊藤 秀治	電機連合	NECネットワークプロダクツ労組
〃	松原 喜憲		
〃	阿部 伸昭	自動車総連	福島製鋼労組
〃	菅井 謙一	JAM	福島製作所労組
〃	安田 和広	JR総連	JR東労組福島支部
〃	相馬 一浩	情報労連	NTT労組福島県分会山下部会
〃	谷川 学	電力総連	東北電力労組福島支店支部
〃	椎名 徳次	JP労組	福島県北支部
事務局長	紺野 淳	私鉄総連・専従	福島交通労組
事務局次長	根本 久男	自治労	県職連合県北方部協議会
〃	鈴木 良孝	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	阿部 一洋	UAゼンセン	全中合労組
幹事	関根 隆文	JR連合	ジェイアール・イーストエニオン労働組合
〃	向山 洋央	運輸労連	全日通福島地協
〃	茂木 聖直	フード連合	全森永労組福島支部
〃	大槻 政好	全自交労連	全自交福島支部
〃	橋本 高輝	国公総連	全農林東北地本福島分会
〃	佐藤 利光	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	南 芳克	全水道	福島水道労組
〃	黒田 隆男	森林労連	林野労組福島森林管理署分会
〃	松浦 俊紀		
〃	佐藤 広治	政労連	支払基金労組福島支部
〃	藤原 倫之	全労金	東北労金労組福島分会
〃	斎藤 宗夫		
〃	伊藤 講平	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	菅野 修弘	青年女性委員会	ダイユーエイトユニオン
〃	斎藤 俊之	ヘルスケア労協	きらり健康医療生協労組
会計監査	村上 侑	労済労連	全労済労組福島支部
職員	湯浅 貞子		

第28回 2018.12.1			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	成田 威文	UAゼンセン	日東紡績労組福島支部
議長代理	鈴木 茂	自治労	福島市職労
副議長	松原 喜憲	電機連合	NECネットワークプロダクツ労組
〃	阿部 伸昭	自動車総連	福島製鋼労組
〃	八巻 孝治		
〃	菅井 謙一	JAM	福島製作所労組
〃	安田 和広	JR総連	JR東労組福島支部
〃	相馬 一浩	情報労連	NTT労組福島県分会山下部会
〃	谷川 学	電力総連	東北電力労組福島支店支部
〃	椎名 徳次	JP労組	福島県北支部
事務局長	紺野 淳	私鉄総連・専従	福島交通労組
事務局次長	根本 久男	自治労	県職連合県北方部協議会
〃	鈴木 良孝	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	阿部 一洋	UAゼンセン	全中合労組
幹事	関根 隆文	JR連合	ジェイアール・イーストエニオン労働組合
〃	向山 洋央	運輸労連	全日通福島地協
〃	茂木 聖直	フード連合	全森永労組福島支部
〃	大槻 政好	全自交労連	全自交福島支部
〃	橋本 高輝	国公総連	全農林東北地本福島分会
〃	佐藤 利光	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	南 芳克	全水道	福島水道労組
〃	松浦 俊男	森林労連	林野労組福島森林管理署分会
〃	三浦 俊紀		
〃	佐藤 広治	政労連	支払基金労組福島支部
〃	斎藤 宗夫	全労金	東北労金労組福島分会
〃	迎 三子		
〃	伊藤 講平	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	菅野 修弘	青年女性委員会	ダイユーエイトユニオン
〃	斎藤 俊之	ヘルスケア労協	きらり健康医療生協労組
会計監査	村上 侑	労済労連	全労済労組福島支部
〃	富沢 幸司		
職員	湯浅 貞子		

第29回 2019.11.30			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議 長	成 田 威 文	UAゼンセン	日東紡績労組福島支部
議長代理	松 原 喜 憲	電機連合	NECプラットフォームズ労組福島支部
副 議 長	丹 野 隆 央	自治労	福島市職労
〃	八 巻 孝 治	自動車総連	福島製鋼労組
〃	菅 井 謙 一	JAM	福島製作所労組
〃	相 馬 一 浩	情報労連	NTT労組福島県域分会山下部会
〃	熊 田 崇 宏	電力総連	東北電力労組福島支部
〃	椎 名 徳 次	JP労組	福島県北支部
事務局長	紺 野 淳	私鉄総連・専従	福島交通労組
事務局次長	根 本 久 男	自治労	県職連合県北方部協議会
〃	鈴 木 良 孝	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	国 嶋 章		
〃	阿 部 一 洋	UAゼンセン	全中合労組
幹 事	武 藤 郁 夫	JR総連	JR東労組福島支部
〃	向 山 洋 央	運輸労連	全日通福島地協
〃	藁 谷 庄 平	フード連合	全森永労組福島支部
〃	大 槻 政 好	全自交労連	全自交福島支部
〃	橋 本 高 輝	国公総連	全農林東北地本福島分会
〃	佐 藤 利 光	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	南 芳 克	全水道	福島水道労組
〃	三 浦 俊 紀	森林労連	林野労組福島森林管理署分会
〃	仁 平 亮		
〃	佐 藤 広 治	政労連	支払基金労組福島支部
〃	迎 三 子 里	全労金	東北労金労組福島分会
〃	松 元 秀		
〃	伊 藤 講 平	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	角 田 倫 平		
〃		青年女性委員会	
会計監査	斎 藤 俊 之	ヘルスケア労協	きらり健康医療生協労組
〃	富 沢 幸 司	労済労連	全労済労組福島支部
職 員	湯 浅 貞 子		

県北地域連合歴代役員

1989.11.28 (結成大会)			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	伊藤 鉄次	情報労連	全電通福島分会
副議長	西沢 安弘	自動車総連	福島いすゞ自動車労組
〃	長谷 英昭	電機労連	東北沖電気労組
〃	斎藤 長四郎	全国金属機械	東海工業労組
事務局長	栗野 啓二	ゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
事務局次長	高橋 義國	電力総連	東北電力労組福島支店分会
〃	田中 貞男	全金同盟	トキコ福島労組
〃	清野 隆	運輸労連	全日通福島分会
幹事	佐藤 文夫	鉄鋼労連	日重化学工業労組伊達支部
〃	栃窪 長男	鉄道労連	東日本旅客鉄道労組福島支部
〃	後藤 健伍	一般同盟	東北製作所労組
〃	石川 直二郎	全自交労連	福島支部
〃	折笠 利浩	たばこ産業共闘	北関東地本福島分会
〃	佐藤 清巳	日放労	東北支部福島分会
会計監査	熊谷 哲	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	丹治 茂昭	基金労組	社会保険診療報酬支払基金労組

1991. 2.23 (統一大会)			
※[県北地域連合]と官公労組による統一大会(民間先行の[県北地域連合]を発展的に解散し、官民統一の[県北地域連合]結成に結びつける大会) ※第1回地域委員会確認(1991年12月10日)			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	伊藤 鉄次	情報労連	全電通福島分会
議長代理	羽田 則男	自治労	福島市職労
副議長	高橋 達雄	全郵政	全郵政福島地方支部
〃	大山 信男	電機連合	北芝電機労組
〃	鹿間 清二	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	栗野 啓二	ゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
事務局長	(代)栗野啓二	ゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
事務局次長	高橋 義國	電力総連	東北電力労組福島支店分会
〃	紺野 泰宏	全通	全通信労組福島地方支部
〃	小松 実	自動車総連	東北三菱部品労組
幹事	清野 隆	運輸労連	全日通福島分会
〃	蓬田 義一	全金連合	日ビス労組
〃	佐藤 隆	全水道	福島水道労組
〃	渡辺 和則	全農林	福島南分会
〃	山口 文彦	全林野	福島営林署分会
〃		政労協	
〃	丸川 淳一	建職組	建設省職員組合東北地本福島支部
〃	佐藤 文夫	鉄鋼労連	日重化学工業労組伊達支部
〃	栃窪 長男	鉄道労連	JR東労組仙台地本福島支部
〃	後藤 健伍	一般同盟	東北製作所労組
〃	石川 直二郎	全自交労連	全自交福島支部
〃		食品連合	
〃	高橋 健二	全国機械金属	東開工業支部
〃	大内 勝市	交通労連	全福島ハイタク労組
〃		ゴム連合	
〃	山岸 英寿	全国一般	福島中央計算センター労組
オプ加盟幹事	吉田 隆	労福労連	労働金庫労働組合本部支部
会計監査	金子 章	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	熊田 好夫	基金労組	基金労組福島支部

第2回 1992. 2.28			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	伊藤 鉄次	情報労連	全電通福島分会
議長代理	羽田 則男	自治労	福島市職労
副議長	高橋 達雄	全郵政	福島地方支部
〃	大山 信男	電機連合	北芝電機労組
〃	鹿間 清二	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	山本 泰博	ゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
〃	渡辺 彰	福島地区連合議長	県職労
〃	長谷川 由紀	伊達地区連合議長	川俣精機労組
〃	根本 弘行	二本松・安達地区連合議長	全電通二本松分会
事務局長	菅野 敏夫	全自交労連	専従
事務局次長	佐藤 久雄	電力総連	東北電力労組福島支店分会
〃	紺野 泰宏	全通	福島地方支部
〃	小松 実	自動車総連	東北三菱部品労組
〃	栗野 啓二	福島地区連合事務局長	日東紡績労組福島支部
〃	深沢 文雄	伊達地区連合事務局長	トキコ福島
〃	阿部 富雄	二本松・安達地区連合事務局長	カンセイ
幹事	清野 隆	運輸労連	全日通福島分会
〃	蓬田 義一	ゼンキン連合	日ビス労組
〃	佐藤 隆	全水道	福島水道労組
〃	渡辺 和則	全農林	東北地本福島分会
〃	山口 文彦	全林野	福島営林署分会
〃	鈴木 将晃	政労協	雇用労組福島支部
〃	丸川 淳一	建職組	福島支部
〃	大槻 富保	鉄鋼労連	日重化学工業労組伊達支部
〃	栃窪 長男	JR総連	JR東労組福島支部
〃	後藤 健伍	一般同盟	東北製作所労組
〃	石川 直二郎	全自交労連	福島支部
〃	高橋 紀夫	全化同盟	日進堂印刷労組
〃	高橋 健二	金属機械	東開工業支部
〃	大内 勝市	交通労連	全福島ハイタク労組
〃	山岸 英寿	全国一般	福島中央計算センター労組
〃	吉田 隆	労福労連	労働金庫本店支部
オプ加盟幹事	種田 隆	労福労連	労働金庫本店支部
会計監査	吉田 利久	全銀連合	福島地方協議会
〃	熊田 好夫	基金労組	基金労組福島支部

第3回 1993. 2.23			
1993年1月現在 1993年8月11日第3回地域委員会役員補充			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	伊藤 鉄次	情報労連	全電通福島分会
議長代理	羽田 則男	自治労	福島市職労
副議長	高橋 達雄	全郵政	福島地方支部
〃	小山 勝也	電機連合	北芝電機労組
〃	鹿間 清二	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	山本 泰博	ゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
〃	渡辺 彰	福島地区連合議長	県職労
〃	長谷川 由紀	伊達地区連合議長	川俣精機労組
〃	根本 弘行	二本松・安達地区連合議長	全電通二本松分会
事務局長	菅野 敏夫	全自交労連	専従
事務局次長	佐藤 久雄	電力総連	東北電力労組福島支店分会
〃	紺野 泰宏	全通	福島地方支部
〃	小松 実	自動車総連	東北三菱部品労組
〃	栗野 啓二	福島地区連合事務局長	日東紡績労組福島支部
〃	深沢 文雄	伊達地区連合事務局長	トキコ福島
〃	鈴木 宗栄	二本松・安達地区連合事務局長	カンセイ
幹事	清野 隆	運輸労連	全日通福島分会
〃	蓬田 義一	ゼンキン連合	日ビス労組
〃	佐藤 隆	全水道	福島水道労組
〃	山崎 重光	全農林	東北地本福島分会
〃	山口 文彦	全林野	福島営林署分会
〃	早坂 邦男	政労協	雇用労組福島支部
〃	鈴木 浩三	建設連合	建職組福島支部
〃	大槻 富保	鉄鋼労連	日重化学工業労組伊達支部
〃	栃窪 長男	JR総連	JR東労組福島支部
〃	後藤 健伍	一般同盟	東北製作所労組
〃	石川 直二郎	全自交労連	福島支部
〃	高橋 紀夫	全化同盟	日進堂印刷労組
〃	高橋 健二	金属機械	東開工業支部
〃	大内 勝市	交通労連	全福島ハイタク労組
〃	山岸 英寿	全国一般	福島中央計算センター労組
オプ加盟幹事	吉田 隆	労福労連	労働金庫本店支部
幹事	加藤 孝夫	青年連絡会議長	富士通アイソテック労組
会計監査	本田 泰則	全銀連合	福島地方協議会
〃	石川 忠	政労連	基金労組福島支部
職員	熊沢 キヨ		

県北地域連合歴代役員

第4回 1993.11.16			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	伊藤 鉄次	情報労連	全電通福島分会
議長代理	小山 勝也	電機連合	北芝電機労組
副議長	長沢 孝	自治労	梁川町職労
〃	高橋 達雄	全郵政	福島地方支部
〃	鹿間 清二	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	山本 泰博	ゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
〃	渡辺 彰	福島地区連合議長	県職労
〃	長谷川 由紀	伊達地区連合議長	川俣精機労組
〃	根本 弘行	二本松・安達地区連合議長	全電通二本松分会
事務局次長	菅野 敏夫	全自交労連	専従
事務局次長	佐藤 久雄	電力総連	東北電力労組福島支店分会
〃	紺野 泰宏	全通	福島地方支部
〃	小松 実	自動車総連	三菱自動車テクノメタル労組
〃	栗野 啓二	福島地区連合事務局長	日東紡績労組福島支部
〃	深沢 文雄	伊達地区連合事務局長	トキコ福島
〃	鈴木 宗栄	二本松・安達地区連合事務局長	カンセイ労組二本松分会
幹事	清野 隆	運輸労連	全日通福島分会
〃	蓬田 義一	ゼンキン連合	日ピス労組
〃	佐藤 隆	全水道	福島水道労組
〃	山崎 重光	全農林	東北地本福島分会
〃	山口 文彦	全林野	福島営林署分会
〃	早坂 邦男	政労連	雇用労組福島支部
〃	鈴木 浩三	建設連合	建職組福島支部
〃	大槻 富保	鉄鋼労連	日重化学工業労組伊達支部
〃	栃窪 長男	JR総連	JR東労組福島支部
〃	後藤 健伍	一般同盟	東北製作所労組
〃	石川 直二郎	全自交労連	福島支部
〃	高橋 紀夫	全化同盟	日進堂印刷労組
〃	岡崎 明	金属機械	伊達製鋼支部
〃	大内 勝市	交通労連	全福島ハイタク労組
〃	山岸 英寿	全国一般	福島中央計算センター労組
〃	高城 秀雄	商業労連	ダックシティ労組福島支部
〃	菅野 敏信	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	加藤 孝夫	青年連絡会議長	富士通アイソテック労組
オプ加盟幹事	吉田 隆	労労労連	労金労組本店支部
会計監査	本田 泰則	全銀連合	福島地方協議会
〃	高野 三郎	JR連合	JR連合福島地区分連協
職員	熊沢 キヨ		

第5回 1994.11.10			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	伊藤 鉄次	情報労連	全電通福島分会
議長代理	小山 勝也	電機連合	北芝電機労組
副議長	長沢 孝	自治労	梁川町職労
〃	高橋 達雄	全郵政	福島地方支部
〃	渡辺 登	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	山本 泰博	ゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
〃	根本 弘行	情報労連	全電通福島分会
〃	渡辺 彰	福島地区連合議長	県職労
〃	長谷川 由紀	伊達地区連合議長	川俣精機労組
〃	岡部 好典	二本松・安達地区連合議長	全通安達地方支部
事務局次長	菅野 敏夫	全自交労連	専従
事務局次長	紺野 泰宏	全通	福島地方支部
〃	村井 敏美	電力総連	東北電力労組福島支店支部
〃	斎藤 武尾	自動車総連	
〃	栗野 啓二	福島地区連合事務局長	日東紡績労組福島支部
〃	深沢 文雄	伊達地区連合事務局長	トキコ福島
〃	渡辺 茂典	二本松・安達地区連合事務局長	カンセイ労組二本松分会
幹事	清野 隆	運輸労連	全日通福島分会
〃	蓬田 義一	ゼンキン連合	日ピス労組
〃	佐藤 隆	全水道	福島水道労組
〃	真鍋 政之	国交総連・全農林	東北地本福島分会
〃	大倉 冬樹	森林労連	福島営林署分会
〃	早坂 邦男	政労連	雇用労組福島支部
〃	鈴木 浩三	建設連合	建職組福島支部
〃	大槻 富保	鉄鋼労連	日重化学工業労組伊達支部
〃	加藤 和一	JR総連	JR東労組福島支部
〃	後藤 健伍	一般同盟	東北製作所労組
〃	石川 直二郎	全自交労連	福島支部
〃	高橋 紀夫	全化同盟	日進堂印刷労組
〃	岡崎 明	金属機械	伊達製鋼支部
〃	大内 勝市	交通労連	全福島ハイタク労組
〃	山岸 英寿	全国一般	福島中央計算センター労組
〃	高城 秀雄	商業労連	ダックシティ労組福島支部
〃	山田 勝則	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	佐藤 幸夫	青年連絡会議長	自治労安達町職労
オプ加盟幹事	吉田 隆	労労労連	労金労組本店支部
会計監査	本田 泰則	全銀連合	福島地方協議会
〃	高野 三郎	JR連合	JR連合福島地区分連協
職員	吾妻 美幸		

第6回 1995.11.10			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	小山 勝也	電機連合	北芝電機労組
議長代理	山本 泰博	ゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
副議長	長沢 孝	自治労	梁川町職労
〃	鈴木 和美	全郵政	福島地方支部
〃	渡辺 登	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	根本 弘行	情報労連	全電通福島分会
〃	渡辺 彰	福島地区連合議長	県職労
〃	長谷川 由紀	伊達地区連合議長	川俣精機労組
〃	岡部 好典	二本松・安達地区連合議長	全通安達地方支部
事務局次長	菅野 敏夫	連合福島	専従
事務局次長	紺野 泰宏	全通	福島地方支部
〃	村井 敏美	電力総連	東北電力労組福島支店支部
〃	斎藤 武尾	自動車総連	
〃	栗野 啓二	福島地区連合事務局長	日東紡績労組福島支部
〃	深沢 文雄	伊達地区連合事務局長	トキコ福島
〃	渡辺 茂典	二本松・安達地区連合事務局長	カンセイ労組二本松分会
幹事	清野 隆	運輸労連	全日通福島分会
〃	蓬田 義一	ゼンキン連合	日ピス労組
〃	佐藤 隆	全水道	福島水道労組
〃	真鍋 政之	国交総連・全農林	東北地本福島分会
〃	大倉 冬樹	森林労連	福島営林署分会
〃	早坂 邦男	政労連	雇用労組福島支部
〃	鈴木 浩三	建設連合	建職組福島支部
〃	大槻 富保	鉄鋼労連	日重化学工業労組伊達支部
〃	加藤 和一	JR総連	JR東労組福島支部
〃	後藤 健伍	一般同盟	東北製作所労組
〃	大槻 政好	全自交労連	福島支部
〃	高橋 紀夫	全化連合	日進堂印刷労組
〃	岡崎 明	金属機械	伊達製鋼支部
〃	大内 勝市	交通労連	全福島ハイタク労組
〃	山岸 英寿	全国一般	福島中央計算センター労組
〃	高城 秀雄	商業労連	ダックシティ労組福島支部
〃	山田 勝則	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	尾形 正義	食品連合	
〃	斎藤 仁	青年連絡会議長	自治労川俣町職労
オプ加盟幹事	吉田 隆	労労労連	労金労組本店支部
会計監査	本田 泰則	全銀連合	福島地方協議会
〃	高野 三郎	JR連合	JR連合福島地区分連協
職員	渡辺 佐久子		

第7回 1996.11. 8			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	小山 勝也	電機連合	北芝電機労組
議長代理	山本 泰博	ゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
副議長	佐藤 孝	自治労	国見町職労
〃	鈴木 和美	全郵政	福島地方支部
〃	鈴木 長治	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	根本 弘行	情報労連	全電通福島分会
〃	渡辺 彰	福島地区連合議長	県職労
〃	長谷川 由紀	伊達地区連合議長	川俣精機労組
〃	岡部 好典	二本松・安達地区連合議長	全通安達地方支部
事務局次長	菅野 敏夫	連合福島	専従
事務局次長	菅野 栄次郎	全通	福島地方支部
〃	村井 敏美	電力総連	東北電力労組福島支店支部
〃	千葉 幸八	自動車総連	
〃	栗野 啓二	福島地区連合事務局長	日東紡績労組福島支部
〃	小野 富雄	伊達地区連合事務局長	トキコ福島
〃	渡辺 茂典	二本松・安達地区連合事務局長	カンセイ労組二本松分会
幹事	清野 隆	運輸労連	全日通福島分会
〃	蓬田 義一	ゼンキン連合	日ピス労組
〃	佐藤 隆	全水道	福島水道労組
〃	郡司 守進	国交総連・全農林	東北地本福島分会
〃	大倉 冬樹	森林労連	福島営林署分会
〃	菊池 勇	政労連	雇用労組福島支部
〃	鈴木 浩三	建設連合	建職組福島支部
〃	水野 英	鉄鋼労連	
〃	三浦 省一	JR総連	JR東労組福島支部
〃	高橋 紀夫	CSG連合	
〃	大槻 政好	全自交労連	福島支部
〃	岡崎 明	金属機械	伊達製鋼支部
〃	大内 勝市	交通労連	全福島ハイタク労組
〃	山岸 英寿	全国一般	福島中央計算センター労組
〃	高城 秀雄	商業労連	ダックシティ労組福島支部
〃	山田 勝則	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	尾形 正義	食品連合	
〃	斎藤 仁	青年連絡会議長	自治労川俣町職労
オプ加盟幹事	吉田 隆	労労労連	労金労組本店支部
会計監査	本田 泰則	全銀連合	福島地方協議会
〃	高野 三郎	JR連合	JR連合福島地区分連協
職員	渡辺 佐久子		

歴代事務局長

福島地区連合

初代事務局長



栗野 啓二

1992年3月～1997年11月

第2代事務局長



菅野 敏夫

1997年11月～1999年11月

第3代事務局長



林 彪

1999年11月～2011年12月

第4代事務局長



紺野 淳

2011年12月～現在

県北地域連合

初代事務局長



栗野 啓二

1989年11月～1992年2月

第2代事務局長



菅野 敏夫

1992年2月～1997年

第8回 1997.11.15

連合福島第9回定期大会(1997年10月29日開催)において、地域連合の機関会議を廃止する規約改正が行われ、事実上地域連合が廃止され連絡調整機関となりました。



労働福祉会館4F事務所
1998年12月25日まで



松木町事務所
1998年12月26日～2014年4月17日まで



ラコパふくしま
2014年4月18日～現在

「連合」・「連合福島」誕生までの歩み

「連合」誕生までの歩み

西 暦	和 暦	出 来 事
1964年	(昭和39年)	同盟結成労働 4 団体体制に。
1967年	(昭和42年)	全通宝樹委員長、労働戦線統一を提唱。
1972年	(昭和47年)	民間19単産が統一連絡会、後に22単産に。
1973年	(昭和48年)	総評と同盟が対立、統一連絡会は解散。
1973年	(昭和48年)	民間労組共同行動会議結成。
1976年	(昭和51年)	政策推進労組会議結成。
1977年	(昭和52年)	賃闘対策民間労組会議(11単産)発足。
1979年	(昭和54年)	中立労連と新産別が総連合結成。
1980年	(昭和55年)	民間有力6単産による統一推進会スタート。
1981年	(昭和56年)	統一推進会が民間先行による労線統一を呼びかける。
1982年	(昭和57年)	全日本民間労働組合協議会(全民労協、41単産425万、後に55単産540万人)を結成。
1987年	(昭和62年)	全日本民間労働組合連合会(連合62組織555万人)結成。
1989年	(平成元年)	日本労働組合連合会(78組織、800万人)11月21日発足。

「連合福島」誕生までの経過

1988年	(昭和63年)	1月14日	連合第2回中央委員会で「連合地方準備会の結成」方針を決定。
1988年	(昭和63年)	3月1日	連合福島準備会結成大会(42単産、75,776人)
1988年	(昭和63年)	11月末	連合福島準備会「地域準備会」を設置(6地域)
1989年	(平成元年)	3月1日	連合福島結成大会(42単産、77,710人)
1989年	(平成元年)	11月末	連合福島地域連合会を結成(6地域)
1990年	(平成2年)	3月1日	連合福島統一大会(48単産、110,433人)
1991年	(平成3年)	2月末	連合福島地域連合統一大会(6地域)
1992年	(平成4年)	3月末	連合福島地区連合結成大会(21地区)
1996年	(平成8年)	10月23日	第8回年次大会(連合福島→地区連合への直結体制へ)
2001年	(平成13年)	10月18日	第13回定期大会(21地区連合→17地区連合会へ見直し)

2011. 3.11 東日本大震災と福島地区連合の 取り組みについて

第21回 福島地区連合定期大会議案書より



東日本大震災に関する取り組みについて

■ はじめに

2011年3月11日(金)午後2時46分、「マグニチュード9.0東日本大震災」が発生し、未曾有の犠牲者と被害を生み、地震・津波に加え東京電力福島第一原子力発電所の事故による放射性物質汚染問題は県民とすべての産業に甚大な影響を及ぼしています。こうした中で、福島地区連合として大震災からの救援・復旧に向けた取り組みを進めてきました。

1. 福島地区連合東日本大震災対策本部の設置について

- (1) 連合福島対策本部の方針に基づき、福島地区連合の「(仮)東日本大震災対策本部(3.14)」を設置(議長・議長代理・事務局長)して対応してきましたが第4回幹事会(4.13)で正式に対策本部を設置しました。
- (2) 設置目的と活動は、東日本大震災に関わるすべての必要な調査、支援、事業の決定について、県北地域・連合福島・構成組織並びに自治体など関係機関との連携を図るため。
- (3) 対策本部構成は下記の通りとしました。

本 部 長 紺野孝幸

同 代 理 大槻光政

副本部長 邨松秀紀、菊田浩和、菅藤利和、斎藤春夫、安田和広、大和 修

事務局長 林 彪

委 員 斎藤真一、菅野栄次郎、紺野 淳

そして、地区連合災害対策本部の中に合議制に基づく「統括委員会」を設置しました。構成は紺野本部長、大槻本部長代理、林事務局長。目的は、即決が求められた場合1人で判断するのではなく組織的に対応するためでした。

2. 東日本大震災被害状況調査について

福島地区連合として、標記の実態調査(別紙)をしました。私たちの働く各事業所も甚大な被害を受け、復旧・再建に向け昼夜を問わず奮闘している中での取り組みとなりましたが、県北地域連合・福島地区連合加盟の内の6割が応えてくれました。尚、調査結果については連合福島に集約しました。その内容は連合福島がすべて管理をしています。

3. ボランティア活動の具体的取り組みについて

福島市に支援物資が全国から届いていました。そして福島市から支援物資の配送についてのボランティア活動要請がありました。具体的には「支援物資受付と配送」「避難所の後片付け」「仮設住宅への物資配送」などでした。ボランティア活動全体の責任は福島市として、連合福島対策本部の承認も受けて取り組みました。そして、第6回幹事会(6.15)に福島市は、この間のボランティア活動に対してのお礼の挨拶にきてくれました。

(1) 期 間 第1次 2011年4月11日(月)～4月27日(水)

第2次 2011年5月 9日(月)～5月28日(土)

- (2) ボランティア登録と参加者は、福島市災害ボランティアセンターと協議し、登録者111名。ボランティア活動参加者103名。二本松・安達地区連合からも協力を得ました。
- (3) 活動内容 ボランティア参加者の駐車場は東北労金福島支店駐車場を借用しました。そして地区連合事務所に集合し、ボランティア保険の登録(別紙)とミーティングを実施(別紙)して、福島市役所東側「東日本震災支援物資受付所」で具体的な活動内容の指示を受け、ボランティア活動を実施。具体的には、支援物資の配送、避難所の後片付け、仮設住宅への支援物資の配送など。
活動終了後、「まとめ」のミーティング。そして、福島市災害ボランティアセンターへ報告(別紙)、さらに明日の準備をして1日の活動終了。
- (4) 器材の準備
 - ①地区連合負担は、軍手・タオル・マスク・ジャンパー・昼食代・飲料水・ティッシュ・カップ・メモ用紙・ペンなど。
 - ②自己負担は、リュック・常備薬・着替え・スニーカー・保険証の写し・帽子など。
 - ③支援物資は、福島交通(株)から2トントラック1台。県生協連から飲料水20箱。
- (5) 具体的な活動内容は、ボランティア参加者の感想(別紙)と地区連合ニュースを参照して下さい。そしてまた、各事業所も甚大な被害を受け、復旧・再建に向け昼夜を問わず奮闘している中でボランティア活動に取り組んでいただいた各構成組織・各加盟組織に感謝を申し上げます。そして、短期間ではありましたが、福島市の要請に応えボランティア活動を通して、地域に顔が見える社会的役割を果たしたものと受け止めています。

4. 福島第一原子力発電所事故の収束に従事する労働者への激励

原発事故が発生した以降、現地作業員は非常に劣悪な労働環境の中、一刻一日も早い事故収束に向けて、昼夜を問わない復旧作業に取り組んでいました。福島地区連合としては、原発事故の現地で働いている東電労組福島第1・2原子力支部の連合組合員並びに作業員への「連帯の寄せ書き『前向きに・一歩ずつ』」を取り組みました。この取り組みは、原発政策とは切り離し、同じ連合福島労働者としての連帯活動の意味です。具体的には、第6回幹事会で確認して「寄せ書き『前向きに・一歩ずつ』」を連合福島から届けて頂きました。そして、この取り組みは連合福島と各地域・地区連合へと広がりました。東電労組福島第1・2原子力支部からは、福島地区連合の皆様宛に「お礼」の手紙(別紙)が届きました。これからも、福島第一原子力発電所事故の収束に従事する労働者への激励の取り組みを進めることにしました。

5. 放射性物質に関する学習会の取り組み

福島第一原子力発電所事故によって放出された放射能により、県内各地において放射性物質汚染が広がる中、組合員とその家族の健康と安全を守るため、放射性物質に対する正しい知識を身に着けることを目的として学習会を開催しました。

と き 2011年9月8日(木)
 ところ 福島テルサ
 主 催 連合福島と福島地区連合の共催
 テーマ 「原発事故による放射性物質問題について」
 講 師 みやぎ生活協同組合 食品の安全推進本部副部長
 栗 石 清 志 氏
 参加者 約200名

■ 福島地区連合ボランティア（感想、要望）

	構成組織名	活動内容	感想、意見等
4/11(月) 2名	私鉄総連 J P 労組	・支援物資の受け付け補助	
4/12(火) 2名	電力総連 福島地区連合	・支援物資の受け付け補助	
4/13(水) 2名	電機連合	・鳥取からの支援物資の荷降ろし作業および数量確認 ・支援物資を福島市東部研修センターへの移送作業(2往復) ・市役所協の保管場所にある支援物資(水)の数量確認	・市役所での荷降ろしは、市役所職員の手伝い(約20名ぐらい)もありそんなに辛くなかったが、その後の東部勤労者研修センターへの移送作業は、移送車2台に乗れる4名での移送となったので体力的に辛かった。(支援物資は水物が多く、水物は重い) ・支援物資の受け入れ管理が行われておらず、来た物を種類分けせずに倉庫に入れているだけなので「何が、どこに、どのくらいある」という事がわからない。 支援物資の中には賞味期限の短いものもあり、賞味期限が切れているものもあった。 支援物資を有効利用できていない管理体制であると判断せざるを得ない状況。 その様な中で、水の在庫を調べるから・・・と言われても無駄に体力を消耗するだけであり、後々の事も考えた受け入れ方法と管理体制をお願いしたい。 ・いろいろな所から支援物資が届くが、もっと必要としているところがあるなら、そちらにまわすように検討する必要もあると感じた。
4/14(木) 1名	全水道	・支援物資の搬入 フライパン、水、布団セット、米等 ①西部勤労者研修センターへ ②東部勤労者研修センターへ	特になし
4/15(金) 1名	自治労	支援物資の受け入れ、仕分け 後東部勤労センターへ搬送 シンガポールからの子供用衣類400点、企業からマスク1500ケ、県対策本部からジュース600本・角煮25箱等	・市対策本部では個人からの支援物資の受け入れはすでに休止だが、持参してくる個人や電話での問い合わせが5、6件あり。(他の市町村も受け付けていない)
4/20(水) 7名	ゴム連合 私鉄総連 ヘルスケア労協 二本松・安達地区連合	・各支所・学習センターへの備蓄毛布の配布 2tトラック・ワゴン車各1台使用	・計画以上に毛布の配布を実施できた。 ・作業性も問題なし。 ・市職員の対応が良く(説明・行動)作業をスムーズに行うことができた。 ・2tトラックを使用することにより効率よく配送することができた。 ・作業人員は当初5名だったが今回は2名追加して実施した。今後も増員し対応すれば負担が少なく作業できると思う。

4/21(木) 8名	電力総連 全労金 森林労連 電機連合	・各支所・学習センターへの 備蓄毛布の配布 2 tトラック・ワゴン車各 1台使用	・市の案内が良かったのでスムーズに実施できた。 ・被災者に1つでも協力できたので良かった。今後も参加したい。 ・毛布の配送でしたが、被災者含め力になれば、また参加したい。 ・市職員の指示、またボランティア員の協力も良く活動はスムーズにできた。被災者のために少しでも役に立てればまた参加したい。 ・もう少し、市職員で詳細な対応をとっていただければもっとスムーズにいけるのでは。
4/22(金) 2名	政 労 連	・受付補助	・その時々状況に合わせ、人員要請をしていただきたい。
4/25(月) 2名	情報労連	・受付補助(ゴム長60箱) ・西部勤労センターにて荷降ろし	・その時の状況に合わせ人数を調整してほしい。
4/26(火) 2名	私鉄総連	・受付補助 布団、毛布他	・全国から善意の物資が届いていることに感謝します。 ・消費期限を確認し、無駄のないようにお願いします。
4/27(水) 7名	交通労連 電機連合 UIゼンセン同盟 二本松・安達地区連合	・無料フリーマーケット あづま総合運動公園体育館 高湯温泉こびし荘にて ・明日の準備	・避難者の皆さんが喜んでいました。特に毛布が良かった。一人で3枚ぐらい取りに来た方もいました。 ・吾妻体育館の配布はあと何度か実施した方がよいと思います。 ・一日を通してやや大変ではありましたが、皆さんに物資が少しでも届いて喜んでいただけたと思います。 ・毛布、敷物をもっと多く配布した方がよいと思います。
4/28(木) 6名	運輸労連 国公総連 自動車総連 J A M	・無料フリーマーケット 土湯温泉山水荘 パルセいいざかにて	・会場に物資を入れると避難者がどっと来るので、10人ぐらいずつ2分間ぐらいでやれば良いのでは？布団、マットが飛ぶようになくなった(200枚) ・布団、ラグはトラックから直接配布した。配布ルートは何カ所かに分けないと避難者がまとまり、力のある避難者がとってしまい、高齢者が受け取れない。高齢者にも届くようにしたい。 ・順番に配布しないと混雑してしまうので、子供用、女性用、男性用と分けてやった。パルセは10分くらいでなくなった。 ・長靴もみんな欲しかった。 ・サンライフで必要品が明確でなかったため、職員からの指示を明確にしてほしい。 ・会場をつくるまでの整理が大変。 ・職員とボランティアの連絡を前段にとっておくこと。 ・職員も交代でやっているため、引き継ぎがうまくいっていない。引き継ぎを明確にしてほしい。
5/9(月) 4名	自治労連 電機連合 福島地区連合 (他市職員6名)	・西部勤労者センターから市内19カ所の中学校へスポーツドリンクの配送(12kg×706箱) ・2 t・1 tトラック各1台 ワゴン車2台	・休み明けのボランティアで、それも12kgの箱だったので疲れた。 ・ドリンクも期限が5月末とか6月末のものなので、もったいないと思い2日間かける予定の作業だったが、1日で終了させた。 ・このくらいキツイ作業だと、またやりがいも出て来て、学校ごとに休むことなく市職員の指示のもとにスムーズに終了することができた。

5/10(火) 3名	J P 労 組 福島地区連合 (他市職員6名)	・西部勤労者センターでの鹿児島県湧水町からの支援物資の荷降ろし(ペットボトル、カップラーメン、トイレトペーパー、洗剤) ・十六沼体育館の避難所の後片付け (昨日で避難者が0になったため) ・2トントラック1台、市の2トントラック3台、ワゴン車2台、十六沼の職員も含め15名で終了	・全国から支援物資が届いていることと、仮倉庫にも支援物資がいっぱい届いていることに驚いた。 ・十六沼公園体育館避難所に150名以上も生活していたことと、その方々は今どこで生活をしているのかと思いながら片付けをしていた。 ・その道路維持管理課の職員は、チームワークがとれていたし、作業も積極的にこなしていた。
5/11(水) 7名	J R 総 連 私 鉄 総 連 ゴ ム 連 合 全 水 道 (他市職員2名、 競技場職員6名)	・今月下旬に信夫ヶ丘競技場で、インターハイが開催されるため、支援物資を音楽堂、西部勤労者センターへ移動した。 ・2トントラック1台、ワゴン車1台他に信夫ヶ丘からトラック1台、市からワゴン車1台	・福島市は被災地でも災害に遭った方が少ないので、被災に遭った方々の分まで自分たちのできる支援をしたい。 ・市職員と体競技場職員の方々とのチームワークが良かった。
5/12(木) 7名	電 機 連 合 電 力 総 連 全 労 金 ヘルスケア労協 (他市職員2名、 競技場職員5名)	・信夫ヶ丘競技場から西部勤労者センター(往復3回)と音楽堂(往復2回)への支援物資の移動 (トイレトペーパー、ティッシュ、消毒液、毛布) ・トラック2台、ワゴン車2台	・市職員の指示が良く、スムーズに配送できた。 ・直接、被災地、被災者と接していないが、内容は重要なものと感じた。 ・競技場の仮倉庫の支援物資はトラック3～4回で終了できるところまで進んだ。 ・仮倉庫にある支援物資の整理が必要、空いているところから物資をおくとあとから大変になる。 ・来週、再来週の活動予定、6月の活動内容については、福島市と協議中。
5/18(水) 6名	U I ゼンセン同盟 自 動 車 総 連 J R 総 連 (他市職員2名、 競技場職員2名)	・支援物資の配送(毛布、布団、水190箱)音楽堂⇒飯坂体育館(1回)信夫ヶ丘競技場⇒音楽堂(4回) ・畳の整理 ・軽トラック、バン、ワゴン、2トン車各1台使用	・これまでの活動は、今すぐ必要な食品類が中心だった。それ以外にもあることがわかった。畳の裏に「生きていてくれてありがとう。これからも生きていて。ずっとずっと祈っています」「今はつらいけど、みんないることを信じている」などのメッセージがあり、この方々が新しいスタートができると思った。 ・はじめて参加して、やり方やどうやって参加したら良いかわからなかったから、地区連合出まともって参加してやることの意義があると思った。 ・影のボランティアのようでも、支援物資がいっぱいあるので、継続してやることの大切さと表にでない裏方のボランティアがあることもわかった。
5/19(木) 8名	私 鉄 総 連 情 報 労 連 ゴ ム 連 合 国 公 総 連 (他市職員2名)	・支援物資の配送(毛布、古着、タオル) 信夫ヶ丘競技場⇒音楽堂(3回) 信夫ヶ丘競技場⇒サンライフ(1回) ・ワゴン2台、2トン車1台使用	・作業の内容が厳しくなっていて、今日の天気もあり早めに終わった。 ・被災者に支援物を届けると思っていたので、このような支援があることもわかった。 ・もっと被災者に係わる作業をしたかった。ボランティアとはそういうものだと思っていたが、このような作業があることもわかった。

5/25(水) 5名	J R 総連 全労連 交通労連 (他市職員2名 広島・大阪から の消防隊員8名)	・支援物資の配送 信夫ヶ丘競技場⇄音楽堂→ 笹谷仮設住宅 ・ワゴン車1台、2トン車2 台使用	・消防隊ボランティアに大変お世話になりました。 ・避難されてる方々ももちろん大変だが、物資を運 ぶ方々も大変であることを、身をもって感じるこ とができた。 ・これからもまだまだ仮設住宅の数も増えてくる と思うので、物資も今以上に必要になると感じまし た。 ・人数は多い方が良いと思う。 ・夏場は体調管理に注意。
5/26(木) 4名	電機連合 電力総連 (他市担当2名、 広島・大阪から の消防隊員6名)	・自転車50台の配送 ・毛布の仕分け(分別) 国体記念体育館→笹谷仮設 住宅→市役所→湯野体育館 ・ワゴン1台、2トン車2台、 平ボディトラック1台、 市車輛1台使用	・荷物の運搬に対してのトラックの台数が足りない。 4トン車もしくは後1～2台の2トン車があれば 時間が短縮できると思う ・使用済み毛布の保管状況にもよるが、ダニがいる。 消防隊の方は、防虫スプレーを購入し対応してい た。(事前に情報を共有していた様子)
5/28(土) 16名	自治労 UIゼンセン同盟 電機連合 情報労連 電力総連 J R 総連 私鉄総連 福島地区連合	・(財)ふくしま自治研修セン ター体育館の支援物資すべ ての片付け(大型トラックへ の支援物資の積み込み作業)	・支援物資は仮設住宅入居者のためのものであるの で、入居した時にテレビで報道していた際など、 地区連合のボランティアでも搬送していたという ことがわかるように「地区連合ニュース」などでも 広報してほしい。 ・他に高校生の野球部や、福大生のボランティアが たくさんきており、お陰で予定より1時間半、早 く終わることができた。

福島地区連合の皆様へ

拝啓 残暑の候、皆様ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素は、当労組に格別のご支援、ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

東北地方太平洋沖大地震発生に伴う福島第一原子力発電所における事故および
放射性物質の漏えいにより、大変なご心配とご迷惑をおかけし、心より深くお詫び
申し上げます。

このような状況の中、福島第一・福島第二原子力発電所に対し暖かい激励メッ
ージをいただき、誠にありがとうございます。

いただきました激励メッセージにつきましては、社員宿泊場所内に掲示させてい
ただきました。

発電所を代表して深く御礼申し上げます。

発電所はまだまだ予断を許さない状況が続いておりますが、皆様の温かい心遣い
を糧に、全ての作業従事者の安全と健康を第一義に事故を収束させるべく全力で取
り組んでまいります。

福島地区連合の皆様のみますのご発展をご祈念申し上げます。

書中をもちましてお礼申し上げます。

敬具

平成二十三年 八月 吉日

東京電力労働組合
福島第一原子力総支部 長谷川貴浩
福島第二原子力総支部 阿部 尚彦

東日本大震災被害状況調査書

2011年 月 日現在

加盟組織名		報告者名	
人 的 被 害	① 全組合員が無事 ② 負傷者 有 名 / 無 ③ 死に者 有 名 / 無 ④ その他		
家屋倒壊等の被害	① 半 壊 棟 ② 全 壊 棟 ③ その他		
会社建屋等の被害	① 仕事が再移動 ② 仕事ができる状況にない、片付け中 ③ その他（現状を具体的に記入してください）		
組合事務所の被害			
そ の 他			

FAX 福島地区連合536-8216

福島地区連合ボランティア活動報告書

記入者()

日 時	2011年 月 日 ()		
参 加 者 名	氏 名	加 盟 組 織 名	
	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
8			
場 所			
活動内容			
結 果	終了 継続希望あり その他		
感想・意見等			
対策本部 記入欄 (記入者:)			

エネルギー政策について

原発事故後のエネルギー政策総点検・見直しについては、連合・連合福島・福島地区連合は一体的組織であることから、連合本部第12回定期大会(2011.10.4)の古賀会長あいさつで方向性を示しています。

復興・再生に関して最後に、エネルギー政策について触れておきます。

連合は、東日本大震災と福島第一原子力発電所事故を受けて、今年6月の中央委員会「2012～2013年度政策・制度 要求と提言」を確認した際に、原子力エネルギー政策については凍結し、改めてエネルギー政策の総点検・見直しを行うこととしました。その後、連合三役会においても議論を重ね、方向付けを行ってきました。

まず、エネルギー政策の総点検・見直しにあたっては、「脱原発」や「原発推進」という2項対立の議論を行うべきではないということです。総合的・合理的・客観的なデータに基づき、「安全・安心」「エネルギー安全保障を含む安定供給」「コスト・経済性」「環境」の視点から、短期・中長期に分けた冷静な議論を行う必要があります。また、国民の理解・納得という観点や「国民合意」のあり方にも十分に留意することが求められています。そして、今回の原発事故により、大型の自然災害が不可避なわが国においては、原子力発電所事故が起り得ること、ひとたび事故が起れば、人々の生活や健康、国土・海洋など広範な環境に甚大な被害をもたらす可能性があることを現実のものとして知ることになりました。このことを踏まえれば、わが国においては、原子力エネルギーに代わるエネルギー源の確保、再生可能エネルギーの積極推進および省エネの推進を前提として、中長期的に原子力エネルギーに対する依存度を低減していき、最終的には原子力エネルギーに依存しない社会をめざしていく必要があると考えます。こうした考えに沿ったエネルギー政策の具体的な見直しは、本大会終了後、速やかに政策委員会の下に「エネルギー政策総点検・見直しPT」を設置して、政府の事故調査・検証委員会の報告なども踏まえつつ、進めていきたいと考えています。

加えて、今後、具体的検討を進めるにあたっての留意事項についても幾つか触れておきます。短期的な課題としては、産業や雇用への影響に十分配慮しながら、エネルギー安全保障の観点を含め、安定的なエネルギー供給を図る必要があります。その際には、定期点検等による停止中原子力発電所の活用についても、周辺自治体を含めた地元住民の合意と国民の理解、安全性の強化・確認を国の責任において行うことを前提に、検討していくことになると考えます。

また、エネルギー政策の見直しは産業の空洞化や雇用の喪失に繋がってはならず、むしろ影響を受ける労働者に十分に配慮しつつ、グリーン・ジョブの創出やグリーン・イノベーションに繋げていく必要があります。

エネルギー政策を見直すということは、私たち一人ひとりの生活のあり様を見直すことであり、産業や雇用、働き方にも大きな影響を及ぼすことです。また国際社会におけるわが国の位置づけという視点も重要です。各構成組織・地方連合会の皆さんにも、真摯な議論への参画をお願いしておきたいと思います。

連合 会長 古賀 伸明

月 日()ミーティング

- 自己紹介(ボランティア保険に入っていない方の記入とセンターへの報告)
※ 氏名・組合名・ボランティア活動歴
※ このメンバーは、初めての組み合わせになります。お互いに「声」を掛け合い、1日の活動をするようになりますので、よろしくお願いします。

2、責任者

班 長	携 帯	労 組 名
副 班 長	携 帯	労 組 名

3、運転手

ワゴン車		
2トン車		

※ 事故のないように、全員で声をかけること。特に、バックの誘導。

4、活動内容

5、注意事項

- 活動の責任は福島市にあります。したがって、市職員の指示に従うこと。
- ボランティア保険の関係上、組休は使用できません。(労災保険適用になるため。あくまで年休かボランティア休暇で処理してください)
- 休憩・昼食は、それぞれ市職員の指示のもとでお願いします。
- 水・お茶をそれぞれ取ってください。
- 荷物は、ここにおいても結構です。貴重品は自己責任でお願いします。

6、終了後

- 地区連合事務所で1日の簡単なまとめを行い、災害ボランティアセンターに報告します。
- まとめを終えて解散となります。

7、緊急連絡先

福島市535-1111(若月 次長)
地区連合事務所 536-1395

以 上



福島地区連合ニュース

<http://fukushima.jtuc-rengo.jp/> (連合福島ホームページ) → 地域連合 → 福島地区連合 → 福島地区連合ニュース

発行所／福島地区連合 発行人／林 彪 福島市松木町 2-20 Tel536-1395 fax536-8216

福島地区連合ボランティア活動

-被災者に1つでも協力ができて良かった！-

3.11 東日本大震災発生から3週間後に、福島市から、これまでボランティア活動を頑張ってくれていた大学・高校生らの学生ボランティアが、学校が始まり4月11日以降来れなくなるため、災害ボランティアに協力していただきたいとの要請が福島地区連合にありました。福島地区連合は第4回幹事会において、ボランティア活動について取り組むことを決定しました。

具体的な活動としては、支援物資受付は1日2名で土日を除く毎日。2トントラック1台（福島交通からの提供）とワゴン車1台を持ち込んでの支援物資の配送は水・木曜日の週2回で1日8名ずつという活動です。

現在まで、ボランティア保険登録者は87名、ボランティア活動に参加された方はのべ47名になりました。皆様の献身的なご協力に感謝いたします。

以下は参加された方の感想・意見などです。

《支援物資受付補助》

- ・その日によって、支援物資が届く日とまったく届かない日もあ

るので、状況に合わせたボランティアの調整をしてほしい

- ・全国から善意の物資が届いてくることを感謝したい

《支援物資の配送、無料フリーマーケット》

- ・被災者に1つでも協力ができて良かった。また参加したい。
- ・無料フリーマーケットでは特に毛布、敷物があつという間になくなった。あと2・3回実施した方が良いと思う。
- ・一日を通してやや大変ではありましたが、避難者の皆様に物資が少しでも届いて、喜んでいただけたと思います。

などがありました。また参加したいという感想も多く少しでも避難者、復興に役立ちたいという思いが感じられました。

5月の地区連合ボランティア活動としては、9日、10日とその後の毎週水・木曜の8日間「支援物資の配送ボランティア活動」を取り組むことにしています。引き続き、皆様の自主的な参加、ご協力をよろしくお願いいたします。



朝の打ち合わせ



信陵支所への物資の配送



無料フリーマーケットの準備



無料フリーマーケットの準備



無料フリーマーケットの準備

前向きに！一歩ずつ！



福島地区連合ニュース

<http://fukushima.jtuc-rengo.jp/> (連合福島ホームページ) → 地域連合 → 福島地区連合 → 福島地区連合ニュース

発行所／福島地区連合 発行人／林 彪 福島市松木町 2-20 TEL536-1395 fax536-8216

福島地区連合ボランティア活動 No.2

-延103名の参加をいただき、一旦無事終了-

福島地区連合としてのボランティア活動は、4月、5月と延103名の参加協力をいただき、福島市職員、広島・大阪からの消防ボランティア、学生ボランティア等の皆様と共に活動してきました。

ボランティア活動の主な内容は、支援物資受付補助、支援物資配送、避難所の無料フリーマーケット、避難所の後片付け、仮設住宅への物資配送、自治研修センターの後片付けなどでした。

5月に入ってから30度を超える真夏日も続き、ボランティア活動内容も重労働になってきましたが、このような中で、被災者のために活動いただいた皆様とボランティア活動に取り組んでいただいた各組合に感謝します。

参加された方々からは「直接被災者と接しないこのようなボランティアがあることが初めてわかった。このようなボランティアも重要な

ことがわかり、参加して良かった。継続してやることの大切さと表に出ない裏方のボランティアがあることもわかった」などの感想が多くありました。また、避難所の後片付けの量の裏に「生きていてくれてありがとう。これからも生きていて。ずっと祈っています」とのメッセージがあり、この方々が新しいスタートができるといいなと思ったなどの感想がありました。

福島地区連合第5回幹事会(5/18)において、6月からは福島市議会議員選挙(7月24日告示日、7月31日投票日)に活動を切り替えることにし、ボランティア活動は一旦5月末で終了することを確認しました。

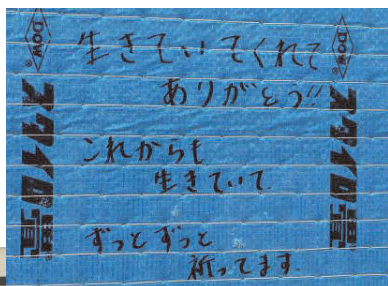


支援物資のトラックへの積み込み



紺野議長を囲んでの打ち合わせ

量の裏に残されていた
メッセージ →



高校の野球部や福大生等の
学生ボランティアの皆さん
も一生懸命でした。

←



5月28日参加の福島地区連合ボランティアの皆様



福島地区連合ニュース

<http://fukushima.jtuc-rengo.jp/> (連合福島ホームページ) → 地域連合 → 福島地区連合 → 福島地区連合ニュース

発行所／福島地区連合 発行人／林 彪 福島市松木町 2-20 Tel536-1395 fax536-8216

福島地区連合第6回幹事会を開催

■市からのボランティアお礼■

6月15日(水) 福島地区連合第6回幹事会を開催しました。

4月から取り組んだ災害ボランティア活動に対するお礼に福島市商工観光部の若月勉次長がお見えになり、冒頭に「大震災の被害も甚大なものであり、その中でのボランティアもはじめての経験でした。支援物資も膨大な量になり、それを仮倉庫への保管、避難所、仮設住宅への配送などのボランティアでしたが、ご協力いただきましてありがとうございました。取り組みの中で課題もありましたが、改善する中で進めてきました。今は、市民の安心と安全を守るため放射能に対する取り組みに全力を挙げています。今後とも、大震災の復興に向けた福島市の取り組みにご理解とご協力をお願いします。」との挨拶をいただきました。



市の若月次長と紺野議長

■原発作業員への激励メッセージの取り組み■

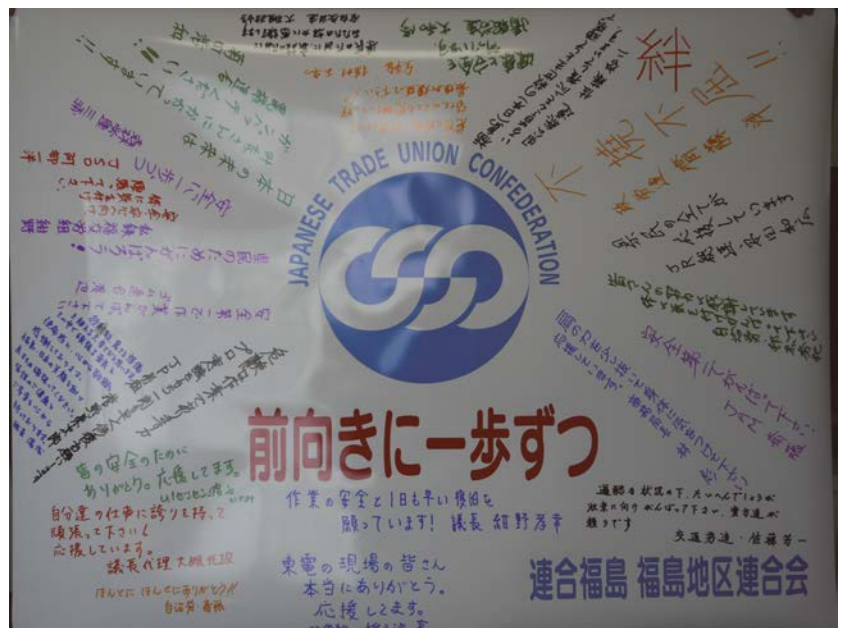


激励メッセージを書く幹事会役員の皆様

議長代理から、「厳しい環境の中で、事故の収束に向け頑張っていることへのご理解と激励に感謝します。また、夏に向けての節電のご協力をお願いします。」との発言がありました。

また、今後の取り組みとして、組合員と家族の健康を守るために、放射能について正しい知識を身につけるための取り組みを企画していくことを確認しました。

同じく、第6回幹事会において、原発事故の収束に向け原発の最前線で頑張っている作業員への「寄せ書き」を取り組みました。現地で働いている東電労組福島第1・2原子力支部の連合組合員並びに同じく働いている作業員を激励するためです。この取り組みに対して、大槻



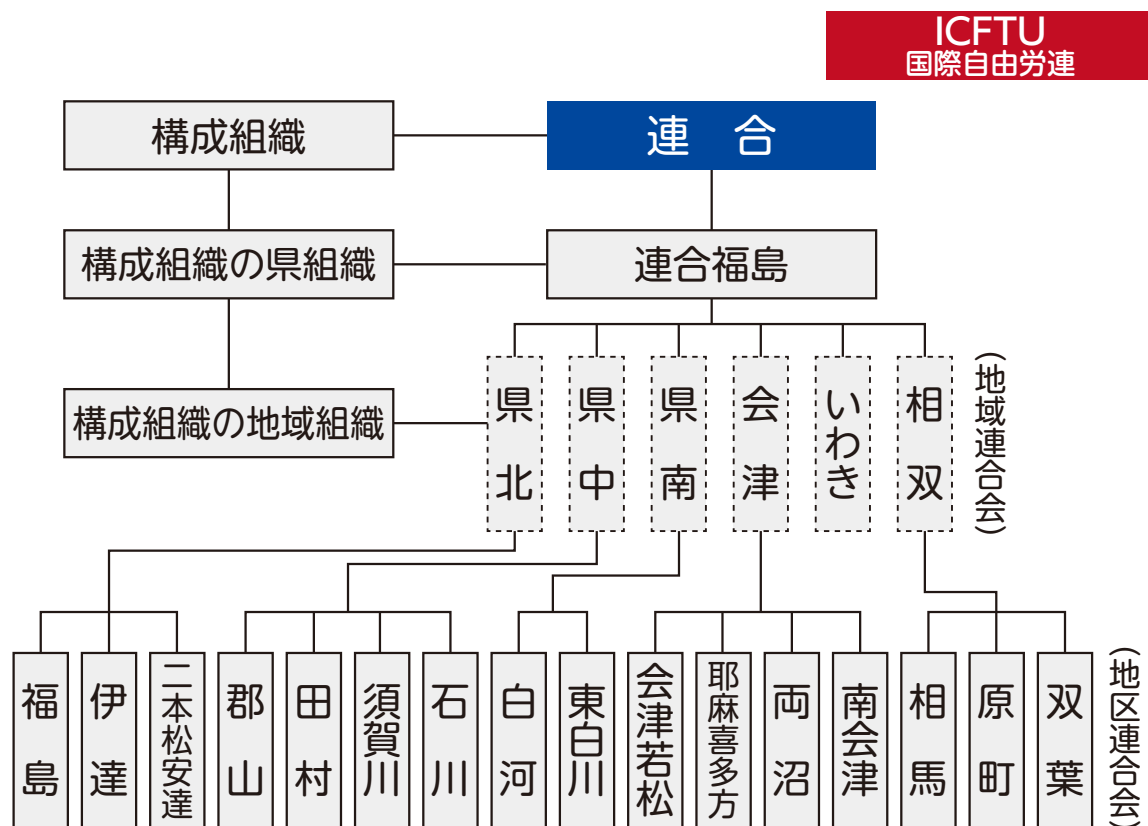
福島市議会議員選挙

告示日 7月24日(日)

投票日 7月31日(日)

※FAXでは写真が見つらいと思われるので、ホームページからご覧ください。

連合福島の組織体制



【福島地区連合組織数・人数の推移】

	構成組織	加盟組織	組合員数
1996／10 現在	33	149	24,131
2000／10 現在	32	149	21,246
2005／10 現在	30	137	19,460
2010／10 現在	29	116	16,609
2015／10 現在	27	116	17,014
2020／10 現在	26	126	16,047

2019.10.12 台風豪雨災害と福島地区連合の 取り組みについて

第29回福島地区連合定期大会議案書より



台風19号豪雨災害ボランティアの取り組みについて

■ はじめに

10月12日、大型で非常に強い台風19号が上陸し、関東地方や東北地方、福島県内を中心に甚大な被害をもたらしました。

伊達市では、12日から13日の明け方にかけて387.5ミリ(梁川町白根)の記録的な大雨が降りました。梁川町の中心市街地では、13日午前1時20分頃に阿武隈川支流の塩野川が越流し、甚大な浸水被害が発生。東根川や古川、伝樋川の氾濫により保原町の住宅地なども浸水し、市内で約1200件もの床上・床下浸水が発生しました。

また、中山間地域では、宅地への土砂流入の被害や、林道への土砂流入や崩落などが発生。市内各地の道路や林道で通行止めが発生するなど、深い爪あとを残しました。

1. 福島地区連合台風19号豪雨災害対策本部の設置について

- (1) 連合福島の対策本部の方針に基づき、福島地区連合対策本部を設置しました。
- (2) 設置目的と活動は、台風災害に関わるすべての必要な調査、支援の決定について、県北地域・連合福島・構成組織並びに自治体など関係機関と連携を図るため。
- (3) 対策本部構成は幹事会メンバー全員としました。

2. 台風19号豪雨災害被害状況調査について

福島地区連合として、標記の実態調査(別紙)をしました。県北地域連合・福島地区連合の多くの加盟組織に調査ご協力頂きました。なお、調査結果については連合福島に集約しました。

3. ボランティア活動の具体的取り組みについて

県北地域連合は、伊達市より連合福島へボランティア要請がありましたので、連合福島と連携して、伊達市梁川地区へのボランティアを実施することにしました。

また、郡山市からも派遣要請がありましたのでボランティアを実施することにしました。

- (1) 期 間 2019年10月27日(日)～11月30日(土)の土・日・祝日
- (2) 活動内容 伊達市ボランティアセンターの指示下での屋内片付け・清掃、土砂の片付け
- (3) 機材の準備
連合ベスト、軍手、帽子、マスク、ゴーグル、ヘルメット、長靴用の中敷き、ウエットティッシュ、使い捨てカップ、昼食(おにぎり・お茶)、救急箱、ボランティア保険
- (4) 具体的な活動内容は、ボランティア参加者の感想(別紙)連合ニュースを参照してください。

福島地区連合発第 62 号
2019年10月21日

構成組織代表者 様
福島地区連合役員 様
各地区連合代表者 様

連合福島 県北地域連合会
議 長 成 田 威 文

緊急！台風 19 号災害による ボランティア活動の取り組みについて

連日の諸行動に対し、心から敬意を表します。

さて、連合福島は、台風 19 号災害対策本部（10/18）を設置し、災害状況の収集、自治体や関係機関との連携を進めボランティア派遣することを決定しました。

県北地域連合は、伊達市より連合福島へボランティア要請がありましたので、連合福島と連携して、伊達市梁川地区へのボランティアを実施することにしました。

つきましては、それぞれ大変な中とは存じますが、緊急の下記の取り組みについてのご協力をよろしくお願いいたします。

記

- 屋内片付け・清掃、避難所の支援等（第 1 次）
 - 期 間 2019年10月27日（日）～11月30日（土）の土・日・祝日
※11月10日（日）は県議会投票日ですので除く
 - 集合時間 **9時00分**
 - 場 所 「伊達市梁川総合支所 1F ロビー受付」（裏に駐車場有）
※受付のところから現地までの往復送迎があります。
 - 作業時間 10時00分～12時00分 昼食休憩後 13時00分～15時30分
※基本 1 日となりますので途中で帰ることができません。
※雨天の場合は中止となる場合があります。
 - 内 容 伊達市ボランティアセンターの指示下での屋内片付け・清掃、避難所支援
 - 要請人数

月日	10/27（日）	11/2（土）	11/3（日）	11/4（月）	11/9（土）
募集人数	約 20 名	約 20 名	約 20 名	約 20 名	約 20 名
月日	11/16（土）	11/17（日）	11/23（土）	11/24（日）	11/30（土）
募集人数	約 20 名	約 20 名	約 20 名	約 20 名	約 20 名
- ※人数が多いときは調整させていただくか、他の地域に変更になる場合があります。
※参加者は事前にボランティア活動説明書をお読みください。

- 服装、準備品
 - 各自準備するもの**
動きやすい作業服、ジャンパー、長靴（運動靴不可）、タオル、飲み物、健康保険写真、自己判断で替替えをお持ちください。バック等はリュックがお勧めです。

- 連合での準備品、負担
連合ベスト、軍手、帽子、マスク、ゴーグル、ヘルメット、長靴用の中敷き、ウェットティッシュ、使い捨てカップ、昼食（おにぎり・お茶）救急箱、ボランティア保険

- 締切日は、
 - 10月27日（日）のボランティアの**第1次締め切りは10月24日（木）午前中。**
 - 11月2日（土）～11月30日（土）間のボランティアの**第2次の締め切りは10月31日（木）**

- その他
行動日が分かるように日ごとに FAX してください。
問い合わせ 福島地区連合 総務課 024-526-0123

ボランティア活動参加者氏名報告

〔行動日〕 月 日 加盟組織

参加者氏名	住 所	携帯電話 緊急連絡用	生年月日	ボランティア保険
ふりがな				要・不要
ふりがな				要・不要
ふりがな				要・不要
ふりがな				要・不要
ふりがな				要・不要

FAX 526-0124

※名簿はボランティアの保険に使用しますのですべて記入してください。
※この参加者名簿はボランティア以外に使用しません。

福島地区連合発第 61 号
2019年10月17日

構成組織代表者 様
福島地区連合役員 様
各地区連合代表者 様

連合福島 県北地域連合会
議 長 成 田 威 文

台風 19 号の被害状況調査について

さて、緊急ではありますが、大規模な災害をもたらした台風 19 号についての被害状況調査を実施しますので、各構成組織・各加盟組織のご協力をよろしくお願いいたします。

記

- 被害調査方法について
別紙「台風 19 号の被害状況調査書」について、各構成組織連絡担当責任者は各加盟組織へ送付し、被害状況について記入していただくようにしてください。
- 被害調査報告書の集約方法について
加盟組織で記入しましたら、直接福島地区連合まで FAX 願います。
- 集約締め切りについて
可能な限り、10月23日（水）までをお願いします。

以上

台風 19 号の被害状況調査書

2019年 月 日現在

加盟組織名	報告者名
-------	------

人 的 被 害	① 全組合員が無事 ② 負傷者 有 名 / 無 ③ 死に者 有 名 / 無 ④ その他
家屋倒壊等の被害	① 半 壊 棟 ② 全 壊 棟 ③ 床下浸水 棟 ④ 床上浸水 棟 ⑤ その他
会社建屋等の被害	① 仕事で再稼働 ② 仕事ができる状況にない、片付け中 ③ その他 休業中の対応（出勤扱い・有給・無給・自宅待機等） ※現状を具体的に記入してください
組合事務所の被害	
そ の 他	

FAX 福島地区連合 526-0124

このたびの台風19号により、県内各地で甚大な被害が発生しています。河川の氾濫や土砂災害等により多くの尊い命が失われました。お亡くなりになられた皆さまに謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

連合福島は、今回の災害から一刻も早い復旧を願い、以下の体制を組み対応を図っています。

■連合福島「2019台風19号災害対策本部」を設置

今野泰連合福島会長を本部長とする対策本部を設置し、まずは構成組織に対し加盟組織の被災状況について情報収集を要請するとともに、被災自治体からの支援要請に対する物資提供と、災害ボランティアの派遣について対応していくことを確認しました。

また、福島県、福島労働局に対し加盟組織の被災情報の提供を行なうとともに、行政による早急な復旧支援策の要請を行いました。福島労働局からは、既報の通り「休業補償、および離職時の失業給付の取扱い」、「雇用調整助成金の特例」の情報提供があり、構成組織・地区連合を通じて発信しました。

■連合福島構成組織の被害状況

10月23日現在、10構成組織から、32事業所・店舗の被災報告がありました。引き続き、被災状況の情報提供をお願いいたします。

■連合本部からの支援

連合本部は対策本部を設置し、10月26日（土）に相原事務局長が来県。連合福島と情報の共有を図り、その後、伊達市役所を訪問、須田市長より被災状況の説明を受け、災害ボランティアセンターを激励訪問しました。連合本部・山根木局長、連合福島・今野会長、八巻事務局長が同行しました。



▲伊達市・須田市長との会談



▲須田市長から被災状況の説明を受ける相原事務局長



▲須田市長（中）と固い握手、
相原事務局長（左）、今野連合福島会長（右）



▲伊達市災害ボランティアセンターの皆さんを激励する
相原事務局長（左から2人目）

■連合福島ボランティア活動をスタート

連合福島の支援ボランティア活動は、11月末をめどに土・日曜日に行うこととし、10月27日（日）から活動を開始しました。27日は県北地域連合・構成組織から25名の方が参加し、伊達市・梁川舟入地区の土砂の除去作業にあたりました。作業終了後、被災されたご家族の方から感謝の言葉を頂きました。参加された皆さんありがとうございました。



▲伊達市・梁川舟入地区で行った土砂の除去活動



▲被災されたご家族（上段右側2人）と一緒に

■労働基準法に関わるQ & A

労働基準法ならびに労働契約法に関するQ & A等は、今後、連合福島ホームページに掲載していく予定です。

URL:<https://www.rengo-fukushima.jp/>

◎お問い合わせ先

連合福島組織広報局・遠藤、渡邊

電話：024-522-0500 メール：rengo-fukushima@bz01.plala.or.jp

連合のボランティア活動は、10月30日に第1陣・32名が来県し、31日から伊達市と郡山市で活動を開始しました。全国各地から「被災地の早期復旧への思い」を胸に汗を流し奮闘いただきました。

今後、連合福島のボランティア活動とあわせて本ニュースでお伝えしてまいります。

■連合本部を出発した第一陣の皆さん



▲2台のバスに分乗し、ベースキャンプの福島市と郡山市に向かいました

■10月31日から支援活動がスタート



▲ボランティアセンターの方からの説明を受ける



▲片づけ・清掃作業の様子



▲霊山地区での土砂撤去作業



▲霊山地区で活動された皆さん

※裏面には、ボランティアに参加された方のコメントを掲載しています。

■ボランティアに参加された皆さんからのコメント



(伊達市)
熊野明子さん (自動車総連)

「土砂の撤去作業でしたが、午前中に1軒終わり、午後は別のお宅で作業でした。午後の作業は終わらせる事が出来なかった。土嚢袋への土砂詰めも水分を多く含んでいて結構な重労働でした。まだまだ、時間かかりそうです。」



(伊達市)
末竹 亮さん (電力総連)

「住宅側の山の土砂崩れがあり、側溝が詰まり雨水が逆流して家屋に迫って来ていた模様。1人や2人での作業では相当時間が掛かると思うが、人海戦術で綺麗にする事が出来た。被災者の方に喜んで貰えて嬉しかった。腕がパンパン！」

◎お問い合わせ先

連合福島組織広報局・遠藤、渡邊

電話：024-522-0500 メール：rengo-fukushima@bz01.plala.or.jp

連合・連合福島のボランティア活動は、11月2日～4日の3連休に伊達市・郡山市に加え、いわき市でも活動を開始し、3日間で延べ249名の方に復旧作業にあたって頂きました。ありがとうございました。

■本部、県内の構成組織・各地区連合から多くの方に支援いただきました

月 日	場 所	連合本部	県内構成組織より		地域連合より		合計
11月2日	伊達市	18名	5名	自治労	28名	県北	51名
	郡山市	14名	6名	電機	2名	県中	22名
	いわき市				18名	いわき、相双	18名
11月3日	伊達市	18名			18名	県北	36名
	郡山市	14名	12名	電力、電機	7名	会津	33名
	いわき市				25名	いわき、相双	25名
11月4日	伊達市				19名	県北	19名
	郡山市		13名	自治労、電力	7名	県中、会津	20名
	いわき市				23名	いわき、相双	23名
合計		64名	36名		147名		247名

■伊達市で活動



▲今野・連合福島会長から感謝と激励の挨拶



▲活動の様子



▲ボランティア活動に参加された皆さん

◎ボランティアに参加された皆さんからのコメント

菅野 百合子さん（電機連合）



「泥かき、家具の運び出し等大変な作業が多かったですが、一緒に参加していた皆さんと仕事を分担し、力を合わせて作業を行うことで、被災された方々のお手伝いが出来たと思います。土嚢の袋口を縛る仕事は私の得意な作業となりましたので必要であればいつでもお声かけ下さい!!駆けつけます。」

(次ページにつづく)

一条 誠さん（JAM）



「まさか、身近な場所がここまでの被害に遭うなんて思っていなかった。水の含んだ、家具・畳・土砂の運搬処理は想像をはるかに超えるものであったが、だからこそ少しでも多くの人手が必要だと痛感した。被災された方々の生活、そして「笑顔」を少しでも早く取り戻すためにも連合福島がワンチームになって今後も活動していく必要があると思う。」

■郡山市での活動



▲ボランティアセンターでの受付の様子



▲八巻・連合福島事務局長から感謝と激励の挨拶



▲活動の様子



▲連合本部のボランティアの皆さんと一緒に



▲山本和代・連合本部副事務局長、郡山ボランティアセンターを励訪問（中央）

◎ボランティアに参加された方からのコメント

本田 和夫さん（自治労）



「敷地内の泥排出と家財搬出でした。家族だけではとても無理です。1.5mの床上浸水は想像以上に悲惨でした。連合福島ボランティアの取り組みは尊く、大人数、そしてチームとして効率的に復旧作業にあたったのは、良かったと思います。機会があればまた参加し、被災された方の力になりたいです。」

■いわき市での活動



▲国分・連合福島副会長（中央）から感謝と激励



▲作業内容について確認する参加者の皆さん



▲活動の様子

◎ボランティアに参加された皆さんのコメント

渡部 貴久さん（電力総連）



「ゴミや泥の被害が予想以上に酷く大変でしたが、非常に有意義な活動でした。まだまだ多くの家がボランティア派遣を希望しており、私も微力ではありますが、今後続くボランティアにも、ぜひ参加したいと思います。」

国分 康正さん（自動車総連）



「今回初めて、災害支援のボランティアに参加しました。台風19号の被害状況を目の当たりにし、被災者の声を聞き、改めて被害の大きさを認識しました。被災地も市内広範囲であることから、地域ごとでは人手不足であることも実感しました。被災者の『正月は穏やかに迎えたい』の声の実現出来るよう、1日でも早い復旧に向けて、協力していきたい。」

◎お問い合わせ先

連合福島組織広報局・遠藤、渡邊

電話：024-522-0500 メール：rengo-fukushima@bz01.plala.or.jp

資 料

連 合 の 進 路

☐ 綱 領

☐ 基 本 目 標

☐ 課題と使命

連合の進路

綱 領

1. われわれは、自由にして民主的な労働運動の伝統を継承し、この理念の上に立って労働者の結集をはかり、労働運動の発展を期す。
2. われわれは、つねに社会正義を追求するとともに、「力と政策」を備え、完全雇用の達成、労働基本権の確立、労働条件の改善、国民生活の向上を実現する。
3. われわれは、あくことなくよりよい未来に希望をもち、国民の先頭に立ち、自由、平等、公正で平和な社会を建設する。
4. われわれは、労働組合の主体性の堅持につとめ、外部からのあらゆる支配介入を排除し、民主的で強固な組織の確立をはかるとともに、日本労働組合総連合会の強化・発展に努める。
5. われわれは、日本労働運動の国際的責任を深く自覚し、世界平和の達成と諸国民の共存共栄のために努力する。

基本目標

1. われわれは、政府、政党、企業などから独立した自主的組織としての主体性を堅持し、自由にして民主的な労働運動の強化・拡大と労働運動の基盤強化をはかる。
2. われわれは、賃金引き上げと労働時間の短縮、労働環境の改善など労働諸条件の維持・向上をはかり、人間性を優先したゆとりある生活を実現する。
3. われわれは、「力と政策」を強化し、目的と政策、要求を同じくする政党、団体と協力して、完全雇用、物価安定、総合生活の改善・向上をはかり、活力ある福祉社会を実現する。
4. われわれは、中小・零細企業労働者、パートタイム労働者などの労働条件の改善に努め、賃金・労働時間など労働諸条件の格差圧縮をはかる。
5. われわれは、中央、地方、産業、職場での活動を強化しつつ、未組織労働者の組織化を促進し、労働運動を充実・強化する。

6. われわれは、官公労働者および公益産業労働者の労働基本権の完全回復をめざす。
7. われわれは、主権在民、基本的人権、恒久平和を基調とする日本国憲法の理念にそった自由、平等、公正で平和な社会を実現する。
8. われわれは、軍縮、核兵器の全面廃絶と国際緊張緩和のために努力し、世界平和の実現に努める。
9. われわれは、労働運動をはじめあらゆる分野に女性の積極的な参加を進め、男女平等の社会の実現をはかる。
10. われわれは、労働組合の主体性を堅持し、労使対等の原則に立ち、相互の自主性を尊重した労使関係を確立する。
11. われわれは、労働界におけるあらゆる独善的利己的勢力に対し、毅然たる態度をとり、分裂工作を自らの力で排除する。
12. われわれは、綱領の理念を堅持するとともに、官・民はもちろん、構成組織間の相互信頼をよりいっそう深め、これを基盤としたすべての労働者・労働組合の総結集をはかる。
13. われわれは、政権を担いうる新しい政治勢力の形成に協力し、政権交代を可能にする健全な議会制民主主義を実現する。
14. われわれは、「国際自由労連」の一員として、国際的役割を分担し、世界の労働運動の前進に貢献する。

課題と使命

1. 労働戦線統一への流れとその意義

1. 日本における近代的労働運動は、約90年の歴史をもち、戦後だけでも40年余が経過している。

戦後の荒廃した状況下で再建された日本の労働運動は、半世紀に近い歴史の中で、民主主義の確立と労働者の労働条件の改善、国民生活の向上に多大の成果をあげ、労働組合自体も着実な成長をとげてきた。

しかし、その道は決して平たんなものではなく、むしろその歩みは苦難にみちた茨の道のくり返してあった。

2. また、戦後の労働運動は、その再出発の段階から戦前より持越された相互不信と政治的対立を背景として、二つの勢力に分立したままスタートした。それ以降、1950年代前半まで主としてイデオロギーからくる運動理念の対立をもとに、分裂と再編を繰り返してきたが、その背景にあったマルクス・レーニン主義を主唱する特定政党の直接・間接の介入、干渉は目にあまるものがあった。

3. 1960年代以降も、労働組合の結集をはかろうとした労働戦線統一のうねりがあったが、結局、運動理念にかかわる団体間の対立と相互不信を底流として、統一への道はことごとく失敗に終わってしまった。

しかし、1973年のオイルショックを機に、日本経済の低成長と産業・社会構造の変化への労働組合の対応が求められ、民間労働組合は、従来の労働団体の枠をこえた共通認識が高まった。民間労働組合は、相互理解と親愛を深めつつ、労働戦線の統一に不退転の決意で取り組み、1982年12月14日に「全日本民間労働組合協議会」を結成、1987年11月20日に「全日本民間労働組合連合会」に移行し、労働界全体の統一は大きく前進した。

4. われわれは、取りまく環境の変化に対応し、労働運動の強化・発展をはかり、勤労者と国民の期待に応えるため、労働界全体の統一が不可欠であると認識し、そのため懸命の努力を重ねきた。

そして、民間労働組合と官公労働組合の相互信頼を深め、日本労働組合総連合会（「連合」）を結成した。

日本労働運動の悲願であった労働界全体の統一がここに実現し、まさに、労働運動の新しい舞台に希望にみちた光が放たれたのである。

2. 「連合」の役割と責任

1. われわれは、名実ともに「全国中央組織」としての機能、役割を網羅し、構成組織間の相互理解と信頼を深めつつ、自由にして民主的な労働運動の強化・拡大に努める。

そして、過去の失敗を二度とくり返さないとの決意で、労働組合の主体性を堅持し、外部からのあらゆる支配、介入を排除して、労働組合主義にもとづいた強固な組織を確立する。

われわれの「連合」結成への努力を右翼的再編と一方的にきめつけ、教条的な誹謗、妨害をはかろうとする団体、組織に対しては、毅然として対応していく。

2. われわれは、内外の労働者との連携を強め、民主主義にもとづく日本の平和的発展と世界の恒久平和の実現を期す。

そのため、左右の全体主義を排し、民主主義を護り、自由・平等・公正で平和な社会の実現をめざす。

3. われわれは、社会のあらゆる分野での男女平等の実現、働く女性の雇用・労働条件の向上、母性保障の充実、社会環境の改善に取り組む。このため労働組合への女性の積極的参加をはじめ、あらゆる分野への女性の参加を進め、男女平等社会づくりをめざした活動を進める。

4. 労働者の総合生活の改善をめざし、企業・産業・地域レベルの活動とあわせて、「力と政策」を強化しつつ、政策・制度課題の改善を積極的に進める。

われわれは、参加と分権をもとにした地域社会の活性化をはじめ、中央・地方を通じ調和のとれた経済社会の発展など広く国民生活に関連の深い諸課題に関する政策立案と合意形成、その実現と立法化に向けての活動を強化し、労働組合の社会的責任を果たしていく。

5. 賃金闘争を総合生活闘争の一環として位置づけ、労働者の実質生活水準の向上をめざした活動を展開する。

あわせて、労働時間短縮をはじめとする労働条件の維持・向上にむけての活動を推進していく。

そのため、調整機能を高めつつ、構成組織の力(交渉力・ストライキなど)の強化を背景とした闘争態勢を確立し、闘争の前進をはかる。

6. わが国経済に占める中小企業のウェイトと役割は極めて大きい。また、パートタイム労働者などの比重も高まっている。

われわれは、中小・零細企業労働者およびパートタイム労働者などの雇用と生活の安定・向上をはかる立場から、賃金・労働時間など労働諸条件の格差圧縮に努めるとともに、企業基盤の安定・強化のための政策の確立とその実現をめざしていく。

7. 技術革新、高齢化、情報化、国際化をはじめとする経済・社会の構造変化を的確に捉え、新たな時代を先取りした総合的対策を確立し、その推進に全力をあげていく。

また、労働者の意識変化に対応し、労働者の福祉向上、自由な時間の拡大・充実、生涯教育の確立など精神的、文化的な活動にも積極的に取り組んでいく。

8. 労働組合の団結を強化し、「仲間がいる」ことを大切にしながら、組織の強化・拡大を進めていく。

そのため、構成組織相互の理解と信頼をより深める中で、協力関係を強化しつつ、産業別組織の再編・統一、加盟組織の拡大を推進していく。

9. 労働組合組織率の低下傾向に歯止めをかけ、組織率の向上に全力をあげるため、産業別・企業別組織の組織化努力とあわせて、中央・地方における「連合」の総力を結集していく。

同時に、未組織労働者の賃金・労働時間など労働諸条件改善のため、われわれの労働諸条件の成果を未組織労働者に波及させつつ、労働者全体の経済・社会・政治の各面における地位の向上をはかっていく。

10. われわれは、その使命を果たすため、中央とあわせて地方組織の確立・強化をはかり、中央・地方一体となった活動を進めていく。

11. 労働者の相互扶助と福祉の向上は、労働運動の基本であり、労働組合の自主福祉運動を積極的に推進していく。価値観の多様化と労働者生活の状況変化をふまえ、年金、医療、福祉など社会的制度の充実とあわせ、労働者の自主的な福祉共済制度の総合的確立をはかり、生涯設計をより豊かなものにしていく。

12. 今日の日本の政治は、自民党の長期・単独政権の底流に変化の芽生えは見られるものの、野党の分立状態が続いており、現状を打破する新しい政治勢力の形成までには至っていない。

このような中で、「連合」は、政治の流れを転換するための新たな起爆剤的役割を果たす責任がある。

このような労働組合の役割の重要性を自覚し、さらに影響力を強めていく。

また、目的を達成するため、目的と政策、要求が一致する政党、団体とは、相互の自主性を尊重しながら必要に応じ協力して活動を進める。

なお、政党支持については、当面、構成組織の判断に委ねる。

13. 政治・経済の国際化の進展にともない、国際労働運動の分野においてもわが国の経済力に見合った役割と責任をはたさなければならない。

そのため、国際自由労連の一員として、世界の労働者との連帯を強めながら、世界の恒久平和の実現、国際公正労働基準の確立、国際経済社会の新秩序形成に向けての活動を積極的に進めていく。

社会の出来事

1992 (平成4年)

- 6.15 PKO法案成立、自衛隊海外派遣
- 7. 1 山形新幹線開業
- 9.12 毛利衛さんスペースシャトル・エンデバーで宇宙へ
- 10.14 佐川急便疑惑で金丸副総裁辞職へ

1993 (平成5年)

- 6. 9 皇太子さまと小和田雅子さまがご結婚
- 7.12 北海道南西沖地震
- 8. 9 細川連立政権誕生
- 10 冷害で戦後最悪の凶作
- 12 米の部分開放受け入れ

1994 (平成6年)

- 6.30 1年で3人目、社会党村山首相誕生
- 7. 8 向井千秋さん、宇宙へ(日本人女性初)
- 7~9月 日本列島記録的猛暑と水不足
- 10.13 大江健三郎ノーベル文学賞受賞

1995 (平成7年)

- 1.17 阪神大震災で大きな被害
- 3.20 地下鉄サリン事件発生
- 4. 9 無党派知事相次ぎ誕生

1996 (平成8年)

- 2.10 北海道のトンネルで落盤事故
- 4.12 普天間基地全面返還で日米合意
- 5.10 住専処理6850億円投入
- 7.13 大阪府堺市でO-157大量感染
- 8.29 薬害エイズ事件で元帝京大学副学長逮捕

1997 (平成9年)

- 1. 2 ナホトカ号重油流出
- 4. 1 消費税増税実施(5%)に
- 5 総会屋利益供与で野村証券元幹部逮捕
- 6.28 神戸の小6男児殺害で14歳少年逮捕

1998 (平成10年)

- 2.7~22 長野五輪開催、日本「金」5個
- 4. 1 金融ビッグバン始動
- 6.27 仏でW杯開催、日本初出場
- 7.25 和歌山でカレーにヒ素混入、4人死亡
- 11.16 24兆円の過去最大の緊急経済対策が決定

1999 (平成11年)

- 1.29 地域振興券の交付
- 2.28 臓器移植法に基づく初の脳死移植実施
- 5 中国から贈られたトキに赤ちゃん誕生
- 5.24 新ガイドライン関連法が成立
- 7 完全失業率4.9%、過去最悪に
- 9.30 東海村で国内初の臨界事故発生

2000 (平成12年)

- 1.28 新潟で9年間監禁の女性保護
- 4. 1 介護保険スタート
- 6.27 三宅島噴火で9月に全島民避難
- 6.28 雪印乳業の乳製品による食中毒事件
- 7.21 沖縄サミット開催
- 10.10 白川英樹氏がノーベル化学賞受賞

2001 (平成13年)

- 2. 9 ハワイ沖で実習船えひめ丸と米海軍原子力潜水艦が衝突
- 6. 8 大阪池田小に刃物男が乱入
- 9 国内初、狂牛病の牛確認
- 11.25 テロ対策特別措置法成立、自衛艦インド洋へ
- 12. 7 敬宮愛子さま誕生

2002 (平成14年)

- 5.31 サッカー W杯日韓共催
- 8. 5 住民基本台帳ネットワーク稼動
- 9.17 初の日朝首脳会談、拉致被害者帰国へ
- 10. 8 ノーベル賞で日本初のダブル受賞
- 11.14 株価バブル崩壊後の安値更新
- 12. 1 東北新幹線の盛岡、八戸間が開業

2003(平成15年)

- 4. 1 日本郵政公社が発足
- 6. 6 有事関連3法が成立
- 8.25 住民基本台帳ネットワークが本格稼動
- 12. 9 イラクへ自衛隊派遣を決定

2004(平成16年)

- 1. 9 陸上自衛隊と航空自衛隊にイラク派遣命令決定
- 5.22・7.18 北朝鮮の拉致被害者家族が帰国
- 6. 1 佐世保市で小6少女が同級生を殺害
- 8.13～29 アテネ五輪で日本選手史上最多のメダル獲得
- 10.23 新潟県中越地方でM6.8の地震発生、最大震度7を観測
- 11. 1 1万円、五千元、千円の新紙幣発行

2005(平成17年)

- 3.25 愛・地球博(愛知万博)開幕
- 4.25 JR福知山線脱線事故
- 8～9 郵政法案をめぐる衆議院解散、自民党が歴史的勝利
- 10. 1 道路4公団が6分割されて民営化
- 11.15 紀宮内親王が結婚

2006(平成18年)

- 1 民営化への企画準備を行う日本郵政株式会社発足
- 6.20 北海道夕張市が財政再建団体入りの意向表明
- 7.14 日本銀行が5年4ヵ月続いたゼロ金利政策の解除を決定
- 9. 6 秋篠宮妃紀子さま男子出産(悠仁親王)、41年振りに皇室に男子誕生
- 9 安倍内閣発足

2007(平成19年)

- 9.12 安倍首相、政権投げ出し、福田内閣発足
- 10.26 NOVAが経営破綻
- 食品偽装問題が次々と発覚
- 消えた年金で国民の怒り爆発

2008(平成20年)

- 2. 7 大相撲暴行事件で元時津風親方と兄弟子を逮捕
- 2.19 イージス艦が漁船と衝突。漁師とその長男が行方不明に
- 6. 8 秋葉原無差別殺傷事件、男が7人を殺傷
- 9 福田首相も政権投げ出し、麻生内閣発足

2009(平成21年)

- 6 足利事件でDNA不一致の菅家さん釈放
- 8. 3 裁判員裁判がスタート、東京地方裁判所で初の公判
- 8.30 衆院選で民主党圧勝。政権交代で鳩山政権誕生
- 新型インフルエンザが大流行、死者も増加
- 地方の高速道路が土日祝日、1000円で乗り放題

2010(平成22年)

- 1.19 日航が会社更生法の適用を申請
- 2. 4 朝青龍が引退、泥酔暴行問題で引責
- 3 足利事件再審、菅家さんに無罪判決
- 6.13 小惑星探査機「はやぶさ」帰還

2011(平成23年)

- 3 八百長問題で大相撲春場所中止
- 3 東日本大震災
- 7.17 なでしこ JAPAN、サッカー W杯で世界一
- 11 大阪府と大阪市ダブル選で橋本徹氏が完勝

2012(平成24年)

- 5 世界一の展望タワー東京スカイツリーが完成、開業
- 9.11 日本政府、尖閣諸島を国有化
- 10 米軍新型輸送機オスプレイ沖縄配備
- 12.10 山中伸弥教授にノーベル医学生理学賞授与
- 12.16 自民・公明が政権奪還
- 尖閣、竹島の領有権問題で日中、日韓関係が悪化

2013(平成25年)

- 3 アベノミクスで円安株高
- 6 富士山が世界遺産に
- 7 参院選で自民圧勝、ねじれ解消
- 11 プロ野球で東北楽天が日本一
- 12 特別秘密保護法が成立

2014(平成26年)

- 4 消費税が8%に 17年ぶり引き上げ
- 7 集団的自衛権の行使容認を閣議決定
- 8 広島市で大規模土砂災害
- 9 御嶽山噴火で戦後最悪の火山災害
- 12 青色発光ダイオードで赤崎勇、天野浩、中村修司の3氏がノーベル物理学賞
- STAP細胞、検証実験で確認できず

2015(平成27年)

- 3 北陸新幹線が開業
- 7 新国立競技場計画見直し、五輪エンブレムも使用中止
- 9 ラグビー W杯で日本初の3勝、五郎丸ポーズが流行
- 9 安保法が成立、集団的自衛権行使可能に
- 10 TPP大筋合意、国内では農協改革
- 12 ノーベル医学生理学賞に大村智氏、物理学賞に梶田隆章氏

2016(平成28年)

- 4 熊本で2度の震度7、甚大な被害
- 5 オバマ米大統領が広島訪問
- 8 天皇陛下が退位に強い思い
- 8 リオ五輪で史上最多メダル獲得

2017(平成29年)

- 2 プレミアムフライデー開始
- 3 森友学園認可取り下げ
- 5 真子さま婚約へ、大学同級生の小室圭さんと
- 6 将棋・藤井四段、前人未踏の29連勝
- 9 陸上100m、桐生が9.98の快挙
- 12 将棋の羽生善治が史上初の永世7冠を達成

2018(平成30年)

- 2 平昌冬季五輪で、フィギュア・羽生結弦が連覇
- 7 西日本豪雨で大被害。台風、猛暑も
- 9 テニス・大坂なおみが全米オープン優勝、四大大会で日本人初
- 11 日産ゴーン会長を逮捕
- 12 本庶 佑氏にノーベル医学・生理学賞、がん新薬開発に道

2019(平成31年・令和元年)

- 5 新天皇が即位、元号が平成から令和となる
- 7 京都アニメーション放火殺人事件が起こる
- 10 消費税率が10%に
- 10 ラグビー日本、W杯初のベスト8
- 10 沖縄の首里城が焼失
- 9~10 台風が相次ぎ、被害甚大

2020(令和2年)

- 1 「チバニアン」正式決定、千葉の地層、地質時代名に
- 1 新型コロナウイルス、世界的拡大へ
- 3 東京オリンピック、1年程度の延期を発表
- 7 将棋の藤井七段が最年少タイトル
- 9 安倍首相の辞任に伴い、菅内閣が発足

連合マスコット

ユニオニオン

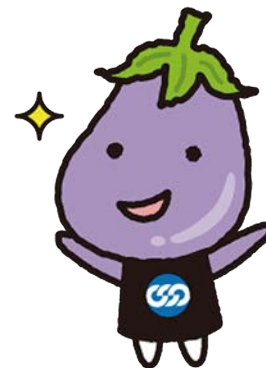
ユニオニオンは、ユニオン(組合)とオニオン(たまねぎ)をあわせた名前。

じつは労働組合(ユニオン)とは、いくつもの葉が重なりあってできているたまねぎ(オニオン)が語源とされているんだよ。



くみあいナス

夜遅くまで働いたり、いやがらせされたり…。仕事でつらい思いをした結果、労働組合の必要性に気づく。ときには世のなかでおきているさまざまな問題について、体をはって説明することもあるよ。いつ、どこに、どんな姿であられるかわからないので見のがさないで！



編集後記

この度、福島地区連合会は第30回年次大会を開催し、併せて30回記念誌を発刊することになりました。(周年としては来年が30周年となります。)

この30年間の思い出がぎっしりと詰まった記念誌は、われわれ福島地区連合の労働運動の1つの区切りとなることと思います。後世に残る貴重な記念誌になれば大変幸いです、本記念誌が完成できたことを改めてうれしく思います。

私は、今回の年次大会をもって5期9年を務めた専従事務局長を退任することになりました。振り返れば、最初の2年間は、何もわからずただ突っ走ってきたように思います。この間、本当に多くの諸先輩方や多くのみなさんから、多くの事を学ばせていただきました。

また、9年間一緒に事務局を支えてくれた湯浅職員にも感謝申し上げます。

最後になりますが、今回の記念誌の編集にあたり、お忙しい中ご祝辞・ご寄稿をいただきました皆さんと、これまでにご協力をいただいた構成組織、加盟組織、地域・地区の皆様にご心より感謝を申し上げます。今後とも、皆様の変わらぬご支援、ご協力をお願いいたします。

事務局長 紺野 淳

連合福島 福島地区連合会 結成30回記念事業 実行委員会

委員長	成田 威文	U A ゼンセン	日東紡績労組福島支部
	松原 喜憲	電機連合	NECプラットフォームズ労組福島支部
	丹野 隆央	自治労	福島市職労
	八巻 孝治	自動車総連	福島製鋼労組
	菅井 謙一	J A M	福島製作所労組
	相馬 一浩	情報労連	NTT労組福島県地域分会山下部会
	熊田 崇宏	電力総連	東北電力労組福島支部
	椎名 徳次	J P 労組	福島県北支部
	根本 久男	自治労	県職連合県北方部協議会
	鈴木 良孝	私鉄総連	福島交通労組福島支部
	阿部 一洋	U A ゼンセン	全中合労組
	武藤 郁夫	J R 総連	J R 東労組福島支部
	向山 洋央	運輸労連	全日通福島地協
	藁谷 庄平	フード連合	全森永労組福島支部
	大槻 政好	全自交労連	全自交福島支部
	橋本 高輝	国公総連	全農林東北地本福島分会
	佐藤 利光	ゴム連合	福島ゴム労組
	南 芳克	全水道	福島水道労組
	仁平 亮	森林労連	林野労組福島森林管理署分会
	佐藤 広治	政労連	支払基金労組福島支部
	松元 秀	全労金	東北労金労組福島分会
	角田 倫平	全銀連合	福島銀行従業員組合
	斎藤 俊之	ヘルスケア労協	きらり健康生協労組
	富沢 幸司	労済労連	全労済労組福島支部
事務局	紺野 淳	私鉄総連・専従	福島交通労組
	湯浅 貞子	連合福島	職員



福島地区連合 30年の記録

発行：2020年12月5日
発行所：福島市仲間町4-8 ラコパふくしま4F
連合福島 福島地区連合会
電話 024(526)0123・FAX 024(526)0124
Mail : kenpoku@fukushima.jtuc-rengo.jp
発行／編集：福島地区連合幹事会
印刷：株式会社日進堂印刷所

